

573
19-
49



東京商工會議所
創立五十周年記念
昭和二十一年

新刊
の

東京商工會議所





商工調査第七十九號（國土計畫調査資料第三卷）
昭和十七年五月



リット・フェーダー
・レップヒンベルヒ 共著

新都市の建設



東京商工會議所



579
49

はしがき

時局下國土計畫の重要性に鑑み、本會議所に於ては、豫ねて本問題特に關東地方計畫につき、調査研究を進めて居るが、本書は之が参考に資する目的を以て作成したものである。

本書は、Statsekretär Gottfried Feder, Professor an der Technischen Hochschule Berlin 及 Dr.-Ing. Fritz Rechenberg の共著に成る „Die neue Stadt“, Versuchung der Begründung einer neuen Stadtplanungskunst aus der sozialen Struktur der Bevölkerung“, Verlag von Julius Springer, Berlin, 1939 のうち第一篇を全譯したものである。

この“Die neue Stadt”は、眞に在るべき理想的ドイツジードルング都市形態の Vorbild として、新しい都市計畫技術に基いた人口約二〇、〇〇〇の都市を想定し、これを既存並びに現行の諸都市に就いて住民の社會的構造の見地から各方面に涉つて詳細に検討したものである。其後のドイツジードルング都市建設の凡そ大部分はこれを基調としてなされ、新東部に於ける都市建設の場合にも、この書の誕生の機縁となつたオーストリア及ズデーテン諸州の復歸に依つて誕生した大ドイツ第三國家の都市計畫案の強力な底潮をなしてゐる。

我國の國土計畫上、その中心課題の一つとして、都市の適正配置問題、特に京濱地帯の如き人口の過密状態にある大都市の疏開整備或は地方都市の開発振興等の諸問題が、農村都市間の不均衡是正、都市人口の體位増強、或は戦時下緊要なる都市防空の強化、食糧の確保等の諸要請により緊急解決を迫られて居る今日、本書の如きは他山の

石として啓發されること尠からざるものがあると信ずる。

最後に本書の上様に當り翻譯の委囑に應ぜられたる刈田喜一郎氏の厚意に對し深甚の謝意を表するものである。

昭和十七年五月

東京商工會議所

内容目次

第一篇 一般的考察と面積の區分

第一章 一般的考察

- A、都市の組織.....一
- 何故組織的ジードルンダが？.....九
- 何故人口二〇、〇〇〇の都市が？.....一一
- 大都市の弊害.....一一
- 村落の弊害.....一三
- 小都市に於いて大都市と村落との弊害は融和される.....一四
- 大都市の利益.....一五
- 村落の利益.....一七
- 大都市と村落との利益の多くは小都市に於いて首尾よく結合される.....一七
- B、調査の方法.....一九
- C、調査の實際的適用と必要.....二一
- 第二章 面積の區分.....二五

四

A、都市と周辺地……………二五

1. 人口二〇、〇〇〇の都市の周辺地……………二五

(a) ジールドルングの生活圏……………二五

(b) 都市市場の作用範囲……………二六

(c) 市場形成……………三〇

2. 都市に並列する都市形成と周辺地面積及扶養人口に関する査定……………三一

(a) 人口密度表に従つて……………三一

(b) 行政圏に従つて……………四〇

3. 人口二〇、〇〇〇の都市新設に當つてのこの述作の適用……………四七

B、都市建設上の構造……………四三

1. 道 路……………四三

(a) 戦場から住宅に至る道路……………四三

(b) 購買道路……………四四

2. 都市建設上の区分と核形成(主核の区分)……………四六

3. 住宅の配分……………四八

(a) 住宅様式……………四八

(b) 住宅の數と量……………四九

4. 土地配分……………六八

第三章 公務及實務の區分……………六九

1. 圏都市の支拂差額と商業決算……………六九

2. 都市の周辺地にまで作用する公共施設……………七四

3. 都市に於ける上位の機關……………七四

4. 都市の周辺地にまで作用する商業施設……………七五

第四章 都市型……………七六

A、經濟部門……………七六

1. 經濟部門家事型(H)……………八〇

2. 農業型都市(L)……………八一

3. 公務が優位を占める都市(O)……………八二

4. 經濟部門商業及交通業型(V)……………八三

5. 經濟部門無職業獨立者型(B)……………八四

6. 經濟部門工業及手工業型(I)……………八七

7. 平均に近い都市(D型都市)……………八九

B、國全地域に亘る型の配分……………九一

C、型の綜括……………九五

D、ドイツ都市の發生と發展……………九六

E、都市の位置と型の間の關係……………一〇三

五

第五章 職業度

1. 地域固有の職業と外地的職業の規定付け	一〇六
2. 他の方法に依る結果との比較	一一〇
3. 経済部門相互の並列關係	一一六
	一一七

次に参考迄に第二篇以下の目次を掲げる。

第二篇 人口約二〇、〇〇〇の都市に於ける公共施設

第一章 上位の施設

1. 司法制度
 - (a) 區裁判所
 - (b) 刑務所
 - (c) 地方裁判所
 - (d) 司法關係建築物
2. 税務所
3. 勞務局
4. 地方參議院
5. 郡貯金局

6. NSDAP 俱樂部

7. 協同體俱樂部
8. 停車場
9. 飛行場
10. 郵便局

第二章 協同體の行政と治安

1. 市役所又は都市役所、市參事會院
2. 警察署

第三章 供給業(ガス、水、電氣等)

第四章 金融と交通

第五章 教養と文化

第六章 保健、病氣、死亡

第七章 公共施設圖解

第三篇 業務 雜言

1. 經營數一九三三
 2. 取扱業務目錄、個々の業務様式の調査
- 第一群 食
- 第二群 衣

- 第三群 住
- 第四群 商 業
- 第五群 交通業、金融業、旅館業等
- 第六群 その他各種
- 業務附録、自由職業型綱領

第四篇 来るべき都市に對する結論

- 第一章 結 果
- 第二章 面積區分構造圖
- 第三章 結晶圖式
- 第四章 計畫例
- 第五章 實施への手引
- 第六章 他の述作の結果との比較



都市は何を要求するか？

跋 語

構造調査の参考書目

新都市の建設

ベルリン工科大学 教授 局長 ... ゴットフリート・フェーダー 共著
工学博士 フリッツ・レヒンベルヒ
刈田喜一郎 譯



第一篇 新都市の一般的考察と面積區分

第一章 一般的考察

A、都市の組織

凡て都市は一の有機體である。この事實に關する意識が甚しく失はれたため、都市の趣を異にした各肢體が夫々の部門の協働を見失ふ結果となつた。個々の課題に於いて、個々の報知や管理部門に於いて、此等を有機體の聯關ある各肢體に所屬分けすることが遙に遠のき、従つて事實左肢が爲すことを右肢は知らず、地下土木建設管理が企圖することを地上土木建設管理は知らず、鐵道管理と郵便事務管理とは技でも齟齬を來すといふ風になり、果ては多くの重要な建設企圖が無限の辛勞と職掌上の困難を經、時間を浪費し、無数の公債の援助を仰ぐ等のことに依つ

て辛じて仕遂げることが出来るに過ぎない状態であつた。ベルリン北南軸の突破といふやうな強力な建設計畫は、自由主義國會の時代では絶対に考へ得ないところである。唯熟慮を経た司令と一切の権力手段を一手に集中化することのみがこのやうな建設企圖一般を可能とするのである。

このやうな規格の成立は國家社會主義の場合には留保されてゐる。このやうな規格は歴史上繼に専制主義の公園及城砦の設計とローマ帝國主義の建造物の場合にだけ範型が見出されるところである。

然しこの壯大な建設企圖より更に重要なことは、國民を精神的靈的に自由主義的思惟の混沌の中から一つの新しい協同體理念へと置換へる事實である。住民は單に「國家權力に隸屬するもの」(“Untertanen” 譯者註、臣民、戯れに有機體の通脚)或は選ばれたものの集りといふ意味を有つばかりではなくて、一定の課題、標識、目的を達成するための徹頭徹尾明確な形式意志 (Formwille) を備へた完結的有機體であるといふ認識が、現代の特徴をなしてゐる。ドイツ第三帝國が國防、養育、教育等々各種の課題を整理の行き届いた部門建設に依つて達成しようと努力してゐるやうに、建築と住宅といふ問題も亦最早や私事と解することは出来ないのであるが、就中、其等を何處にそして如何に建築するかは個々の企業者、建築主、工業或は商業といつたものの氣儘に委して置くことの出来ない問題である。

ジードルングは正しく單に一家族住宅とか或は移住民住宅とかの場合のそこばくの住宅地域を準備するといふだけのことではない。それは、何處かへ働きに出て行き、子供達を何處かの學校へ送らなければならず、榮養及衣服の需要や慰樂の需要を出来るだけ手近に見出す機會が與へられなければならない事情に在る人間のためのホームである。

と云つて工場を住宅地區の何處か真中邊に置く譯にはゆかない。烟や臭氣の齎らす煩ひ、喧騒とか、震動とか、勞務者と原料及生産品に對する工場の交通關係とか云つたものが工場を計畫する際の決定的部門をなす。商業の經營はそれにもまして唯それだけのものと考へる譯にはゆかない。商業の經營にはその取引關係を顧慮しなければならぬし、その占める位置は人間相互間の多面的交換關係の中から生ずるのである。

建築と定住 (Zweckort) の場合にも亦新しい協同體感情が貫透されてゐる。

一九三三年十月付住宅ジードルング法はこの新秩序への最初の基本的一步であつた。それに次ぐ歩みは、一九三四年七月三日付の比較的廣範に渉る全建築企畫に對して同意義務を指定する意義を有つた全權委任法 (Ermächtigungsgesetz) であつた結果、政府は當時企圖されてゐた建築企畫に就いての内情に通じ概觀することを得て、個別的实施が國政府のジードルング政策上の企圖にも亦適合するかどうかに就いて一通りの吟味をすることが出来たのである。この法律は、その實施される日迄有效な建築の自由との根柢的斷絶を意味する。

だが、上からのこの統制は唯一可能の方法であつて、これが實際に生きて働くためには、この方法が計畫官廳のみならず、全建築家精神と全建築及住宅制度の確固たる精神的領有へ移行しなければならぬ。かうして初めて、都市或はジードルングは同質或は異質の住宅單位の累積であるだけでなく、ジードルングはどれも社會協同體の無数の需要と施設に相應しなければならぬものであるといふ感情が目醒まされるに違ひない。個々の、正に可能の極限にまで自分自身の中に纏つた各肢體が、力に充ちた調和の中に生命力に充ちた綜合的有機體として結合するためには、吾が國の都市とジードルングの個々の部門の並列關係や編制關係が計畫に従つた明晰な秩序に席を譲らなければならぬ。吾々が探し求めて發見しなければならぬものは、謂はば各々が他に依つて又他のために生活

する地盤となる協同體の形式である。

四

この都市組織體は各種の副核内の細胞結合として都市中心點の周りに集中する全系列の細胞から構成される。かうして初めてより上位の秩序の各種の細胞結合を綜組織體として結集するために、多くの副核がより上位の秩序の細胞結合に歩み寄ることになる。その綜組織體に於て唯一の、協同體に役立つ設備が見出されるのである。個々の細胞核の区分は、總ての地區の生活が明かにその中心點に基いて方位付けられ、其處から都市中心點に至るまでの一次元高度の核形成に流れ出し得るほどに形成されなければならない。茲からして先づ都市は地方と國との更に高度の體制に聯繫して來てゐなければならない。

例へば國民學校は一の核形成力である。二つの課程（一は女の兒童のため、一は男の兒童等のため）を有つた一の國民學校には約五〇〇—六〇〇人の兒童が從屬する。人口の大約一五%は就學義務のある兒童であるから、そこから約三・五〇〇人の住民が一協同社會として總括され得る。この協同社會へは勿論商舖とその他の設備との一系が餘りに遠くなり過ぎるかどうかは建築の仕方にも亦懸つてゐる。家々から核までの離隔度が五〇〇米或は六〇〇米より大きい程益々よい。その場合學校核以外に尙二三のより小さい副核が設けられる。そして、この副核の中に例へば生活手段等にとつて通例にして必要な商舖が當てがはれる。

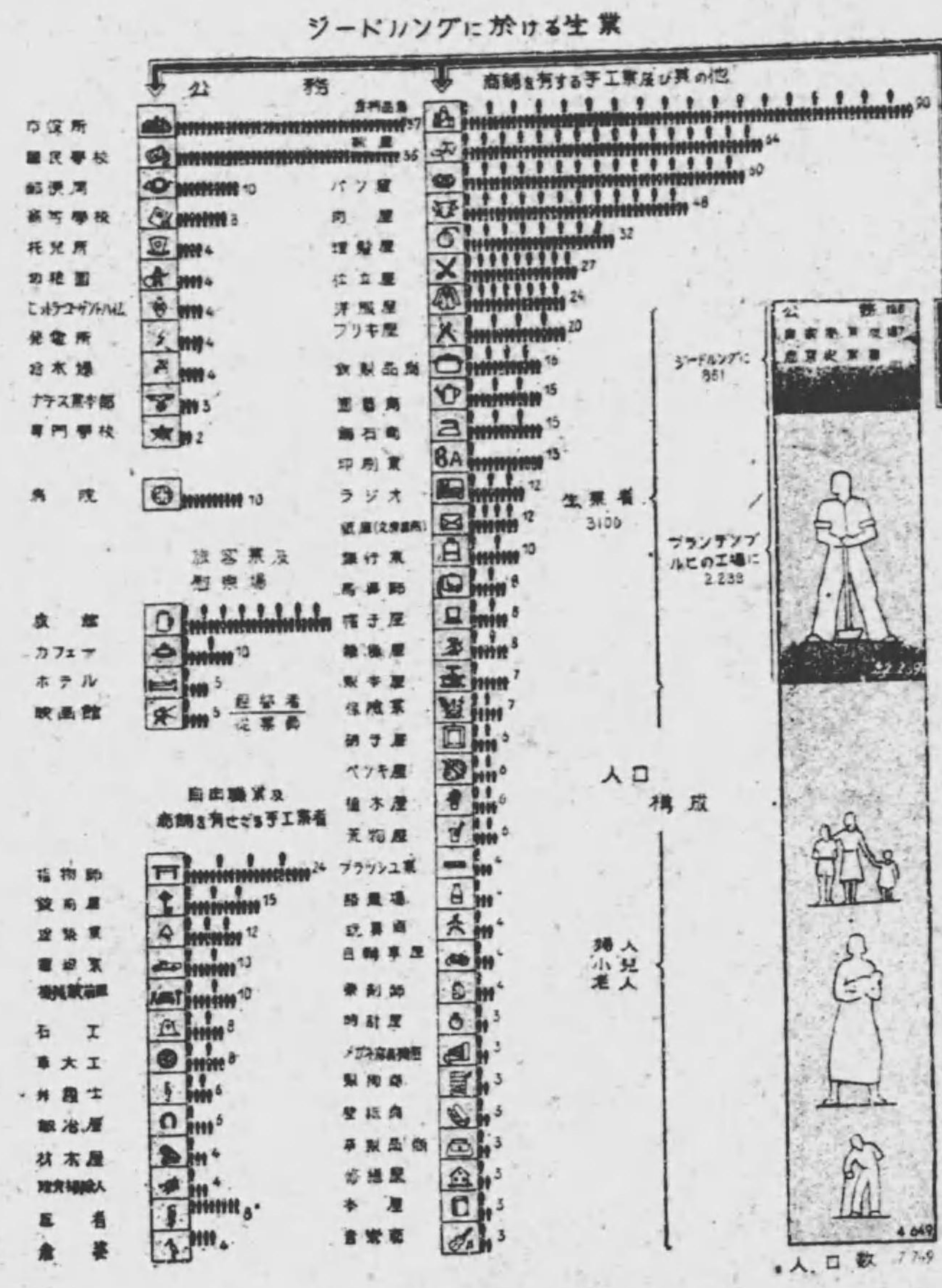
都市建設者は正に彼の藝術家的造形力を將來は寧ろ社會協同體の内部機構に依つて導くやうにしなければならぬ。新しい都市像はこの生きた必然性の表現を示さなければならぬ。そして都市體制はその必然性に對して役立つたねばならず、しかも純粹に建築學的な造形意志の單に空虚な形式として現はれるだけではないのである。

この種の諸都市は内的必然性から生育するのであるから、コムパスと定規を以つて作製した製圖板に基いて立案されるか或は端的に王侯のやうな建設意志の表現辭にその發生を負ふてゐる。諸都市及諸ジードルングに關する不動の圖式主義と同等に、藝術的にも亦多くの點に於て満足すべき解決を與へるだらうと吾々は確信してゐる。

都市計畫技術と都市建設技術とにあつても亦協同社會形成作用と公共的生活が造形的原理として前景に出る。分り切つたことではあるが、此のためには何らの普遍妥當的圖式も存在しない。總ての都市建設は各々場所的所與——山岳や丘陵、谿谷や河川——に基いてその愛すべき都市や或はジードルング自身の區分を發見しなければならぬ。と云つても本質的には、區分は住民の社會的構造から生ずる有機的細胞形成作用に基いて認知されるやうに見え。近代發生したジードルングも亦——悦ばしいことには慰のない貸長屋とは反對にこれは少くとも空氣や光への要求、庭園や十分な住宅地域への要求に適應してゐるのではあるが——尙ほ極めて屢々正に悦ばしからざる味氣ない無形式の姿を呈示する。長たらしい眞直な街路に沿ふて糸に貫かれたものやうに單調なジードルング家屋が立ち並ぶ。それはまるで電線にとまつた燕の群のやうである。何處かその場所の中心點も認められなければ或はジードルングの中心點も認められない。經濟的文化的需要に應ずるためには一般的に云つて何等の心遣ひもされてゐない。

新しい有機的ジードルングへの移行は、これまでのジードルング建設が家屋建築としてのみならず、有機的社會協同體のための奉仕として理解される正にその時にのみ發見され得る。以前には戰鬪力のあることや或は形式主義は、都市に形式を與へるための決定的なものであつたが、今日では人間の都市建設に於ける礎柱として又人間の需要としてある。

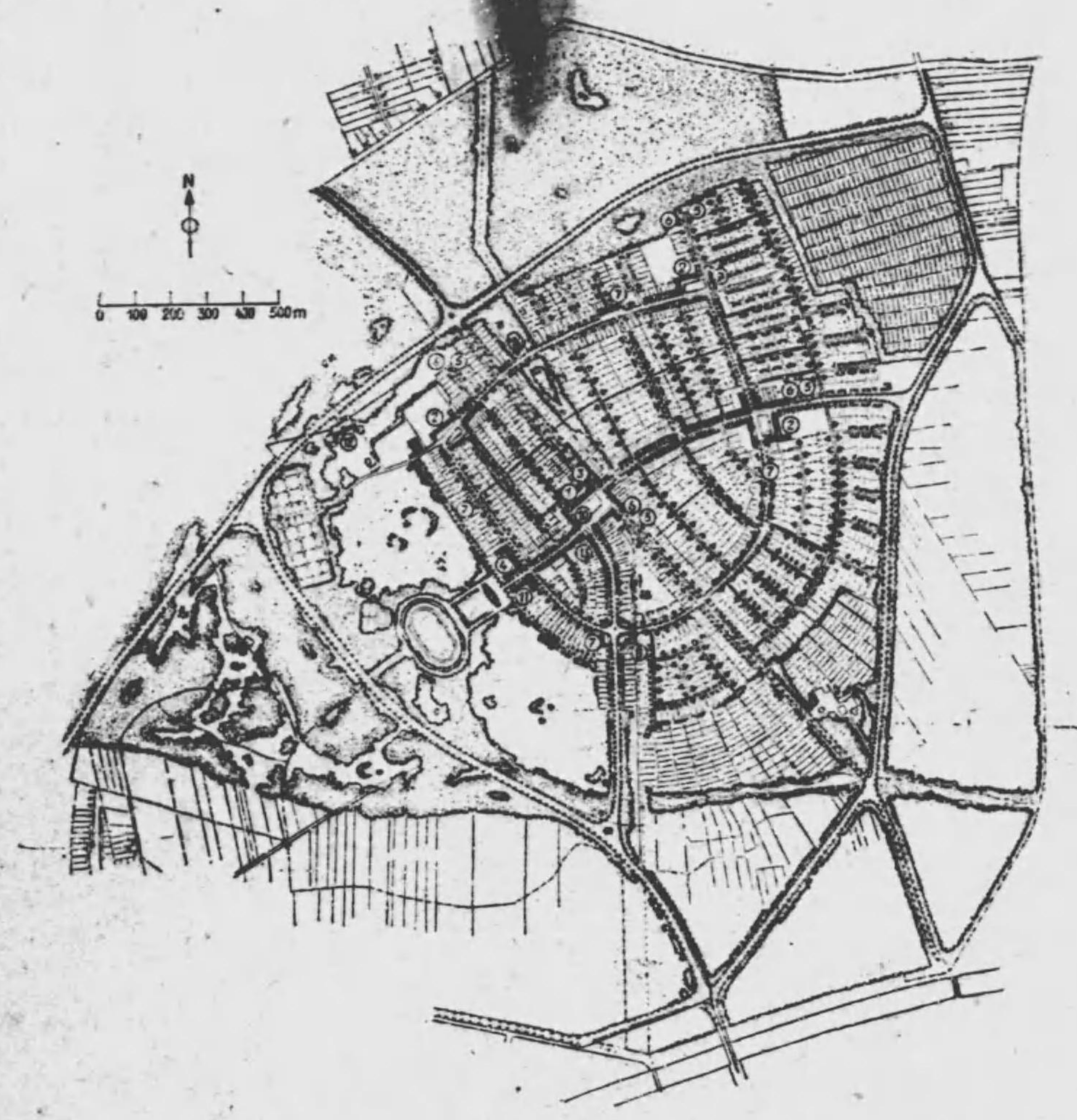
五



第二圖 有業者の職業配分

上掲の圖表はこの著作の準備のためになされた研究の結果である。この研究の基礎は商業一般に極めて多数の人員を要した時代に淵源するものである。

七



第一圖 公共施設及商業施設を有する大ジードルンクの例

職場に對して丁度よく位置する、勞務者とその家族のための十分な住宅に對しても亦細心の注意が拂はれてゐないやうな場合には、最早どれ一つとして工場が新設されてはならない。また行政、教育、衣食の供給のために必要缺く可からざる建築物とか定住者の規則的に繰返す需要を満すための商業的經濟的施設とかが設定されない以上このやうなジードルンクのどれ一つも最早や新設されてはならないのである。

この様な健全にして有機的生命をもつたジードルンクにして始めて吾が民族の健全にして十

六

全な次代の後継者のための前提を提示することが出来る。一のジードルングは、繰返して強調しなければならないことであるが、個々の家屋の積重ねではなくて、一の有機的生命協同社会である。

このやうなジードルングの例として、茲にこの述作を初めるに當つて、一切の必要な公共的實業施設が豫量されてゐる大都市ジードルングを示さう。(第一圖参照)

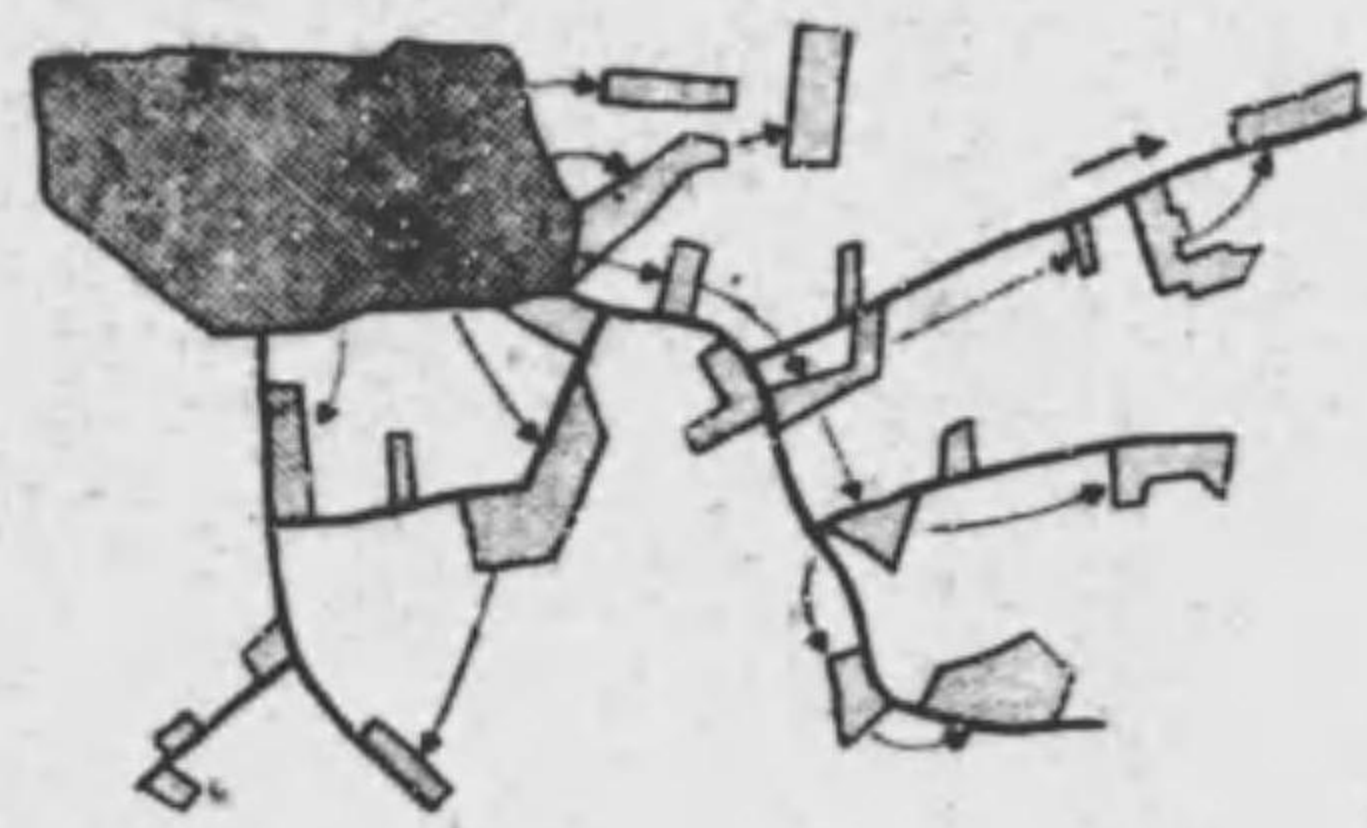
この大ジードルングのための建設計畫は、最初一九三七年茲に表された根本思想を發想として採用した賭の成果である。それは地域秩序、ジードルング制度及都市建設のための講座に連る研究者等に依つて企畫され、懸賞審査院の手に依る最初の都市購入品を以て完了した。この試案そのものは都市をその社会的構造から有機的に計畫展開した最初のものである。

七頁の圖表は今茲に述べてゐる現在の述作の一番作の收穫であつた(第二圖参照)。この表は如何なるまた如何程の公共的實業施設が住民八、〇〇〇人を有するこの都市に於て豫量されなければならないかを極めて見易く示してゐる。

然しこの表に採用されてゐる數の多くは確に現下の述作に依つては追ひ越されてゐる。部分としては、遺憾な状態である多くの實務的業務の中に現在する従業者の過剰が、正量へと連れ戻されて來てゐる。従つて茲に掲げた表へ計上された數は決定的なものとして見做す譯にもいかないし使用する譯にもいかない。都市區域外に在る大工業企畫のための一種の目的ジードルングであるこの大ききのジードルングも尙吾々の眼前に搖曳する理念に相應しくないと云ふこと、人口も亦新都市に採り入れられなければならない公的實務施設の一切に地域を呈示するためには少な過ぎると云ふことも亦認識されて來てゐる。



第四圖 外へ向つてゐる街路に添つた新住宅地區の無計畫な發生



第三圖 無統一なジードルング原理

理想的都市大は人口二〇、〇〇〇を有する都市である。長い周到な調査と熟考を経て吾々はこの都市大をこの述作の根柢とした。

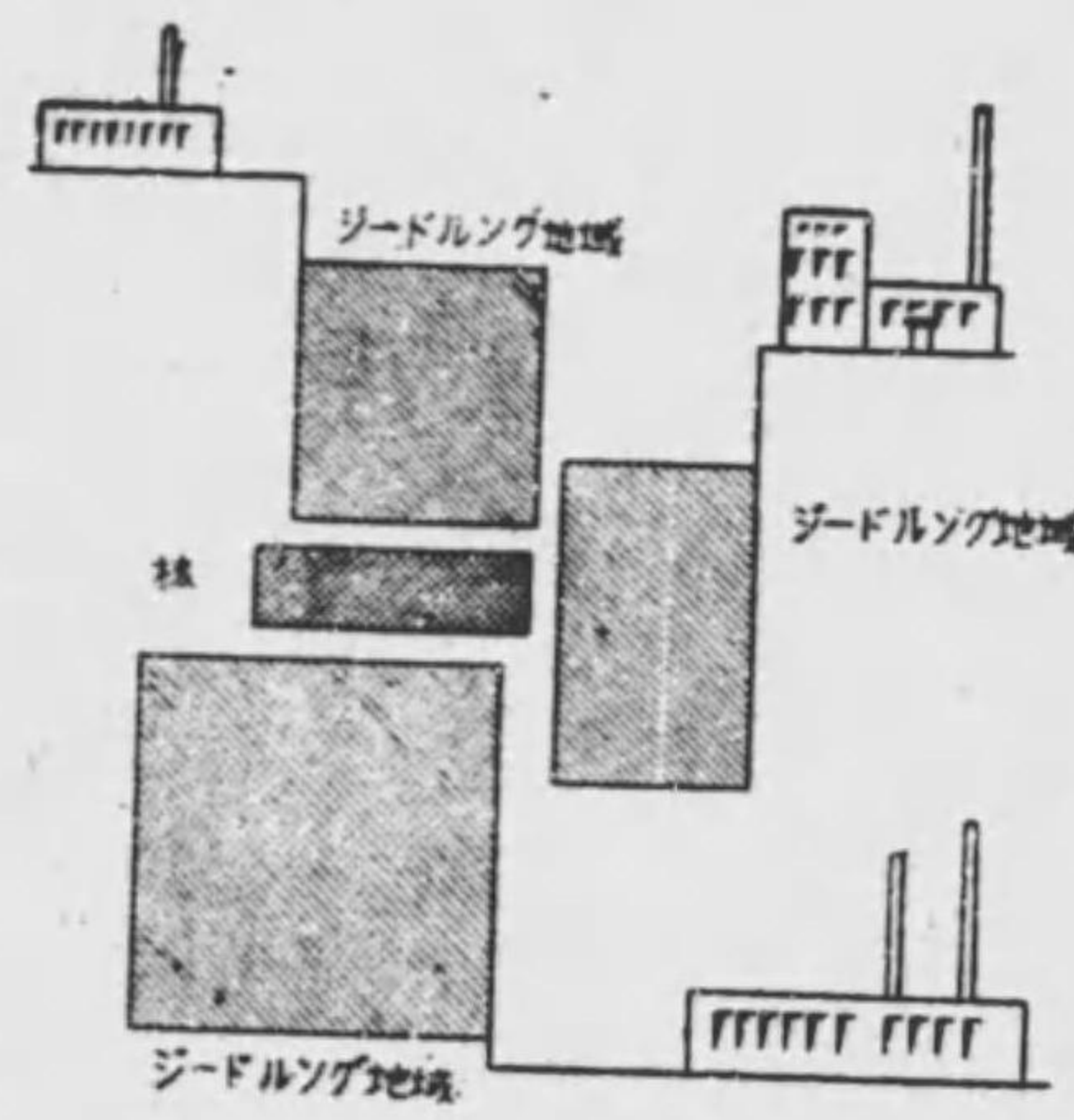
この熟考の二三を次に極めて印象的な短い形式で示さうと思ふが、それに就いては大都市、平地及村落の利弊として語ることにしよう。その中から大約の大きさ人口二〇、〇〇〇を有する都市が理想的都市大を表現すると云ふ確信が得られる筈である。勿論二二、〇〇〇—一五、〇〇〇の人口を有する都市も、また同様に二五、〇〇〇—三〇、〇〇〇の人口を有する都市もそれと等しい要求に相應しいものであり得る。が吾々の茲に決意しなければならないのは、この一切の調査を一の限定された都市大に基いて築くことである。その上、ナポレオンでさへも彼の計畫した都市のために、正にこの都市大を選んだ筈であると云ふことは満更興味のないことでもない。

何故組織的ジードルングが?

これ迄の總ゆるジードルングにあつては、新しく連れ來られた住民は常に舊都市地域の中から供給を受けた(第三圖参照)。大道路や運輸や都市核に於ける業務の移行は次のやうなものであつた。需要が蔽ひ難く展開されて仕舞つた後に初めて、商業や或は手工業がジードルング地域の内部にも亦發生した。勿論それもこの發生が一般になほ可能な限りに於てではあつたが、それに反して公共的施設は

大抵、一切が建築物で塞がれるので、最早や如何なる餘地も有たなかつた。かうして發生するのは大抵の大都市の混亂した非有機的形像、仕事からの又仕事への道路の係蹄にかけるやうな状態、吾々の日常生活が負課する個々の業務や業務の見渡し得ない状況である。

住宅、商業、更に工業すらの舊いごつたまぜを周つて、出撃路 (Ausfallstrasse) に沿つて近郊へと伸長する謂はば新しい住宅區が横はる (第四圖参照)。部分的には新ジードルングにあつて既に新路が通じてゐる。だが又、より大きな工場のためのより多くのジードルングを中央に於ける中心的施設との統一に綜合するものとしては、生長してしまつたものに類似する生き生きした有機體は一として存在しない (第五圖参照)。このやうなジードルングは



第五圖 不十分な打開策

正に何と云つても激烈な個人生活を有つた協同社會ではなくて、自國と若干の文化的にして同時にその他の公益的素質を有つた衛生的形式に當て嵌つた工業勞務者のための宿泊所幹旋の餘地を残してゐる。

最善の有機的協同社會生活の表現のうち二三のものは殆ど純粹にその性格を保持して來てゐる中世の都市に於て吾々に立ち現はれる (第六圖参照)。此處では都市は自分自身の中から生きたし、一は他のために働いた。かうして生活と勞務との協同社會體は自然に形成された。假令今日生活需要を満すための手段が一切それ自身の場處に於て生産され得ないほどに生活需要が醉化されてゐるために、以上意見を吐露して來た協同社會ジードルング (Gemeinschaftsedlung) は最早や到達し得ないとしても、少くとも又、一のジードルングや或は一の新都市に於て、新設が自分自身に基

てなされる限り、その新設に關して同目的にこの協同社會に於て必要とされ或は生活力あるものたる一切の施設を建設しようとする試みは出來る。

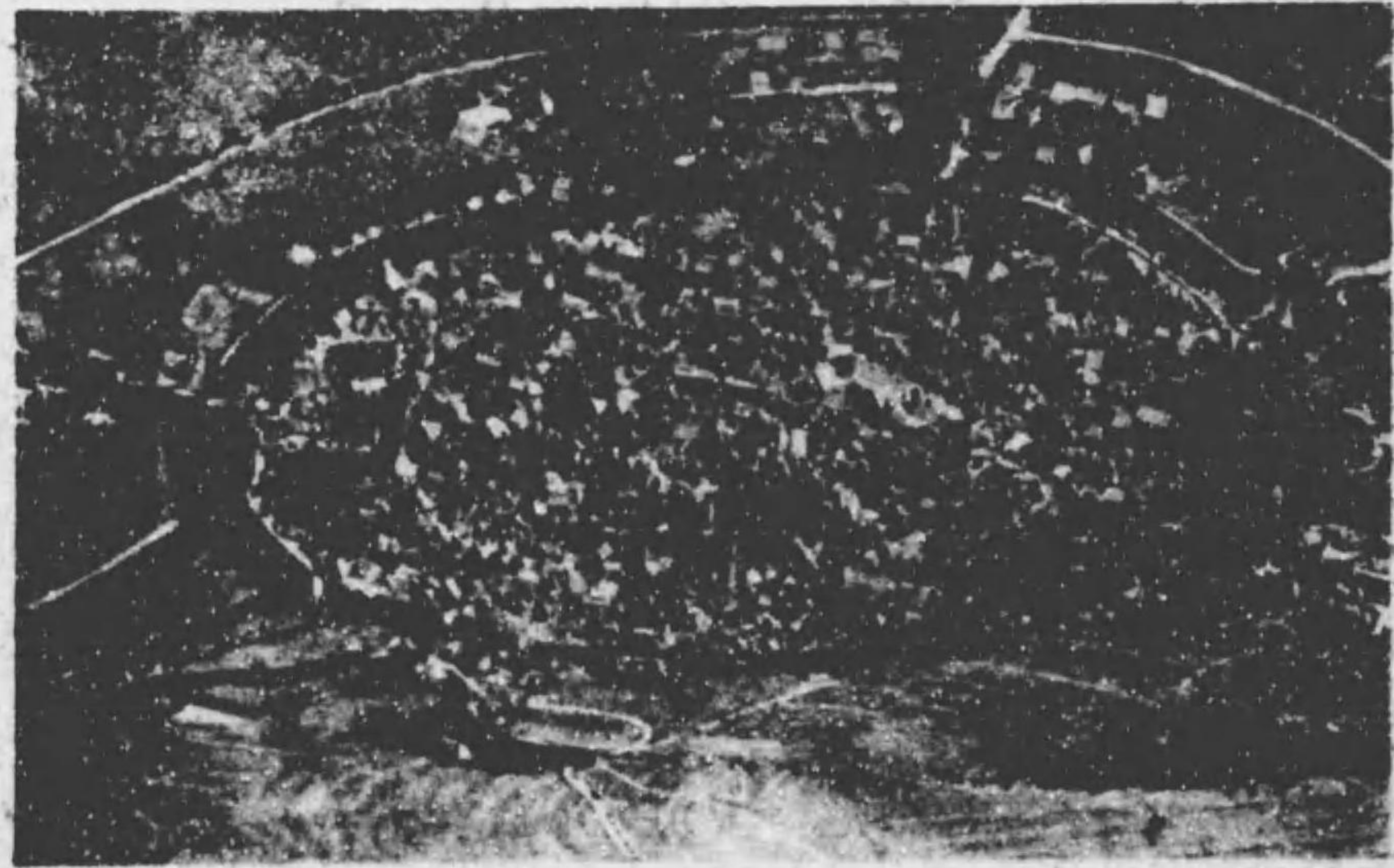
總ての都市は明かにそれ自身の生活を越えて作用する一種の民族經濟的課題をも亦有つてゐる。中世に於ても亦既に大きな疎隔を越えて延びる取引關係が現存した。

自立性は、假令徹底的には到達されなければならうとしても、凡ゆるジードルングに際しての目標でなければならぬ。

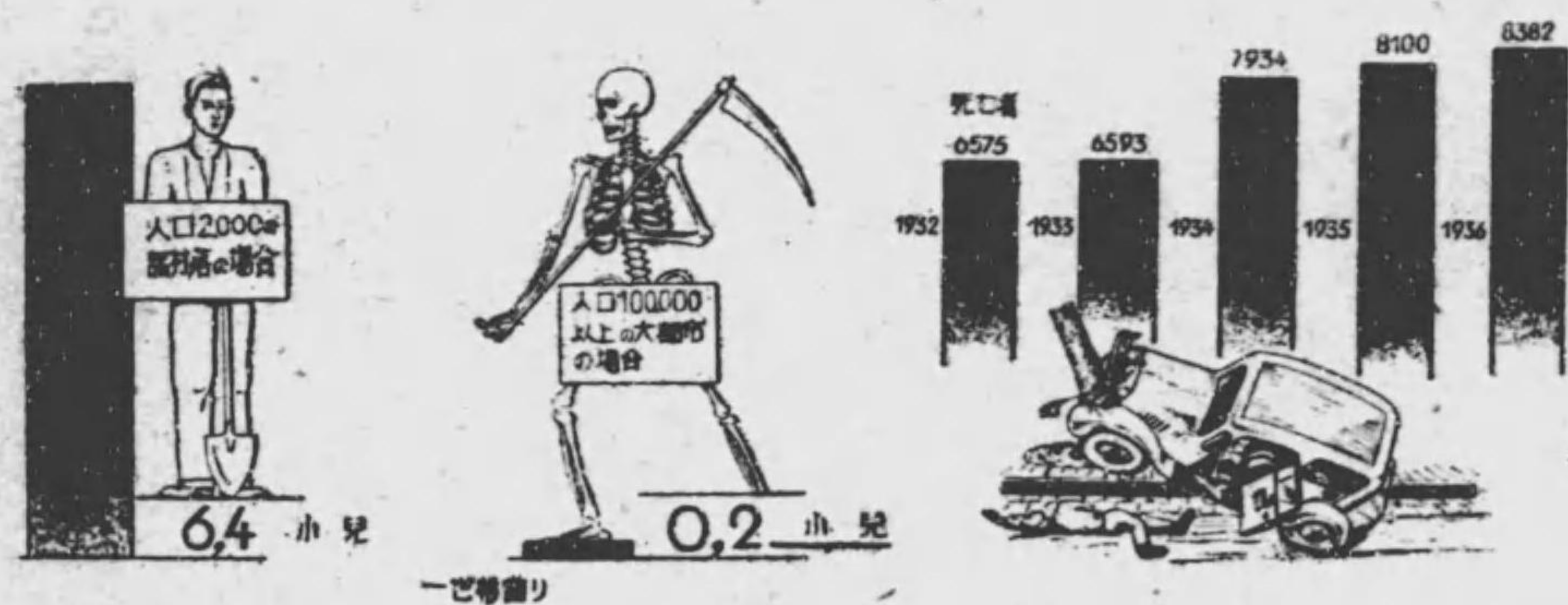
何故人口二〇、〇〇〇の都市が？

前數年のジードルング活動は、出來るだけ多くの人間を地方に定住せしめるために、主として地方的ジードルングに極限された。それなのに遺憾なことには殆ど凡ゆる大都市がそれ以上の成長を遂げた。所謂大住宅難が新しく開華した工業に依つて大都市に於て注目すべきものとなつた。而もジードルングの二形式も他の遣り方で到達し得たでもあらうやうな十全な生活形式を住民に呈示しなかつた。

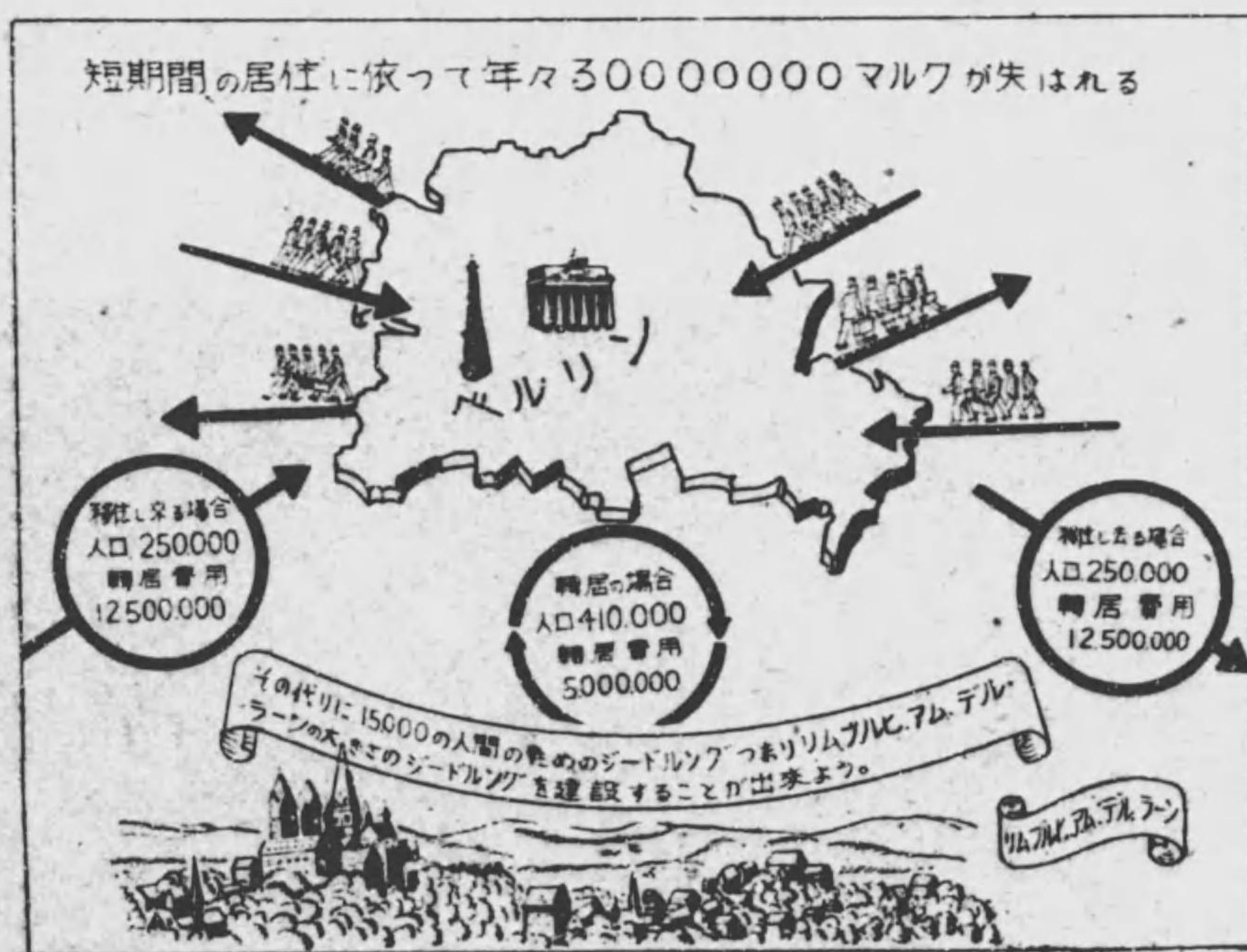
大都市の弊害



第六圖 ネ エ ル ド リ ン ゲ ン



第七圖 大都市と生物學的な國民死亡！ 第八圖 交通構事に依る全國死亡者！
 この数字の報告はベルグデェルファー Bergdörfer 著「第三國家に於ける人口發展」からとつた。 五年間に 3,700 の同胞が死去してゐる。



第九圖 ベルリンに於ける移動狀況

一、小兒の貧困 (第七圖參照) 次の通り。

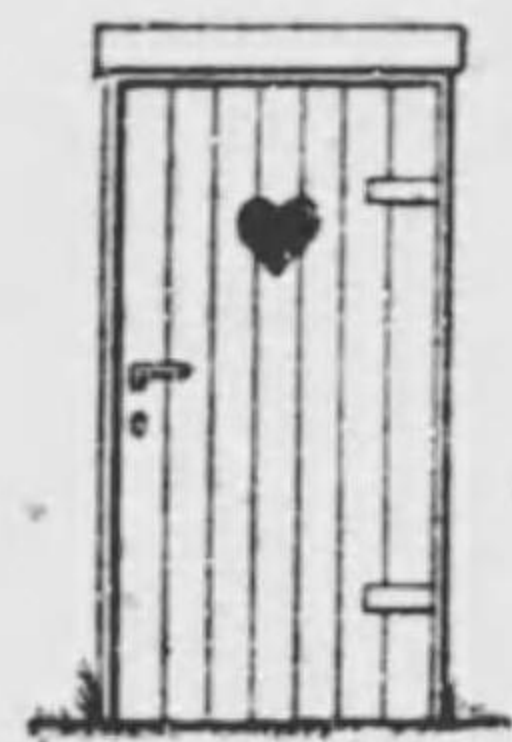
- a. 賃長屋に於ける不健康にして狹隘すぎる住宅
 - b. 騰貴した平均生計費
 - c. 度を超えて昂揚された慰樂癖と受用癖
 - d. 人倫上健康上の危険
 - e. 自然からの疎外や大地との結びつきの缺乏
- 大都會人が再び自然への歸路を見出した時にのみ、都會化の危険が超克されて故郷の大地への愛と共に子供への意志も亦再び還歸することが期待され得る。

二、無定性性 ベルリンは最大の「遊牧都市」である(ベルリンへの前進、ベルリン内での轉住、ベルリンからの出發(第九圖參照) Zuzüge, Umzüge, Fortzüge)。周匝な調査とそこから結果する認識は、局長ゴットフリート・フェーダー教授出版、ベルリン工科大学に於ける第三帝國勞働協同社會の地域研究のための連續刊行物「職場——住所」第三刊の中に述べられてゐる。

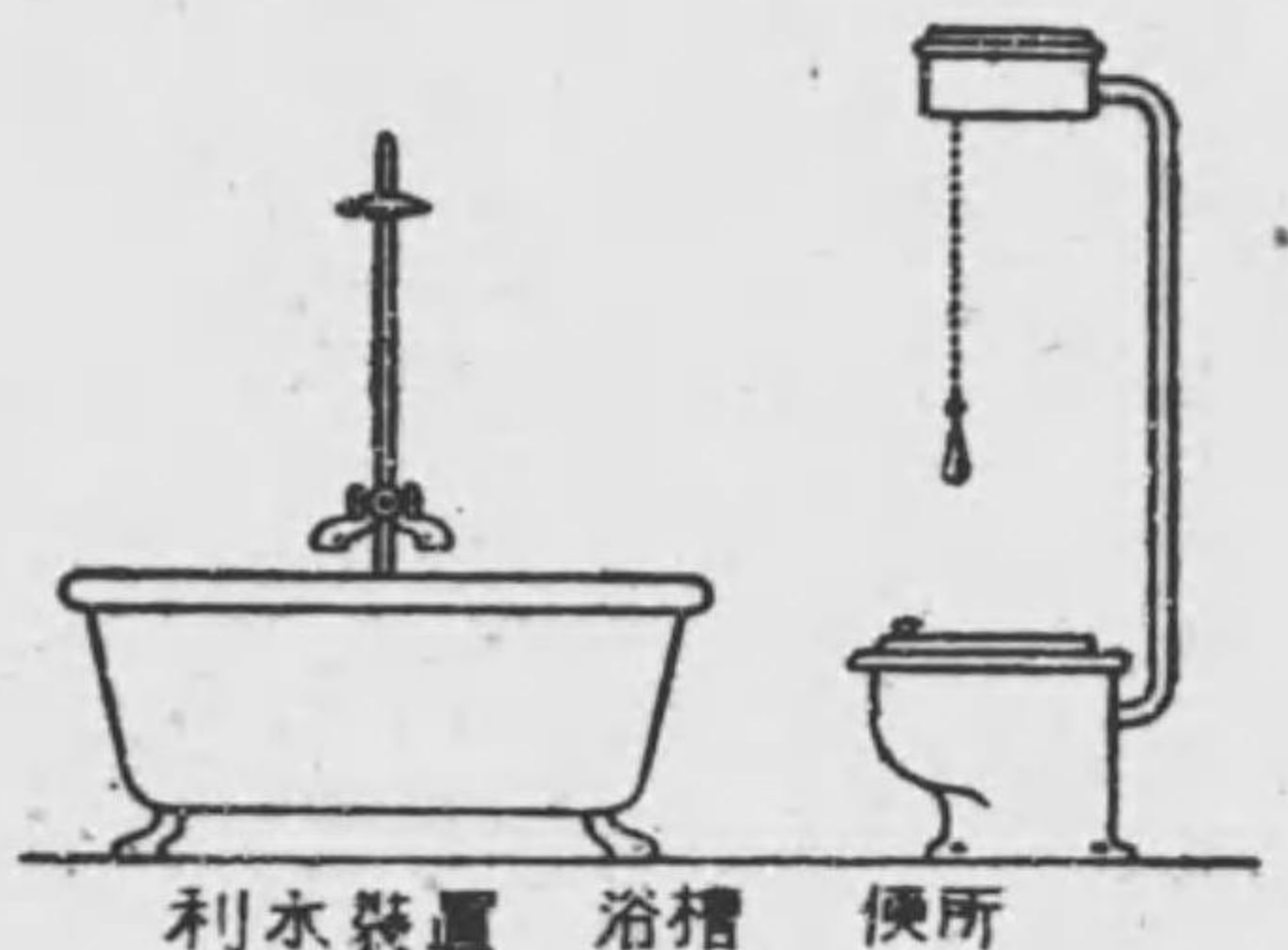
三、交通の犠牲 巨大な交通は人間に犠牲を促して神經の力と時間を費させる。過度の交通は脈膊波打ち花期盛んな生命の標識ではなくて、大都市施設相互間の拙劣な秩序に對する表現である。(第八圖參照)

村落の弊害

一、文明へ促す施設の不足或は全然的缺陥 利水装置、不淨、入浴、電氣、ガスの供給や給水等に関して。(第一〇圖參照)

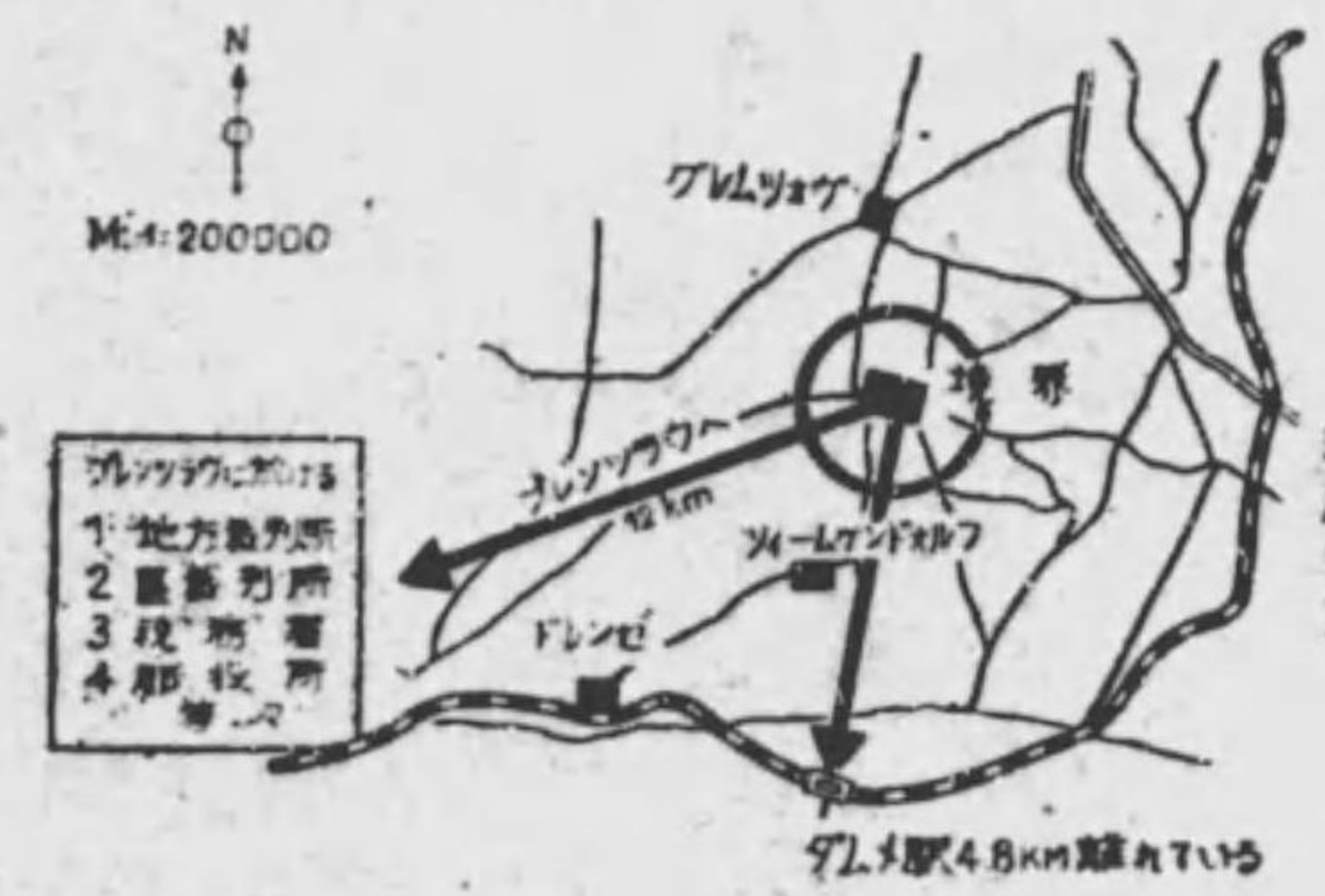


第一〇圖 a 村落に於ける文化施設の缺乏

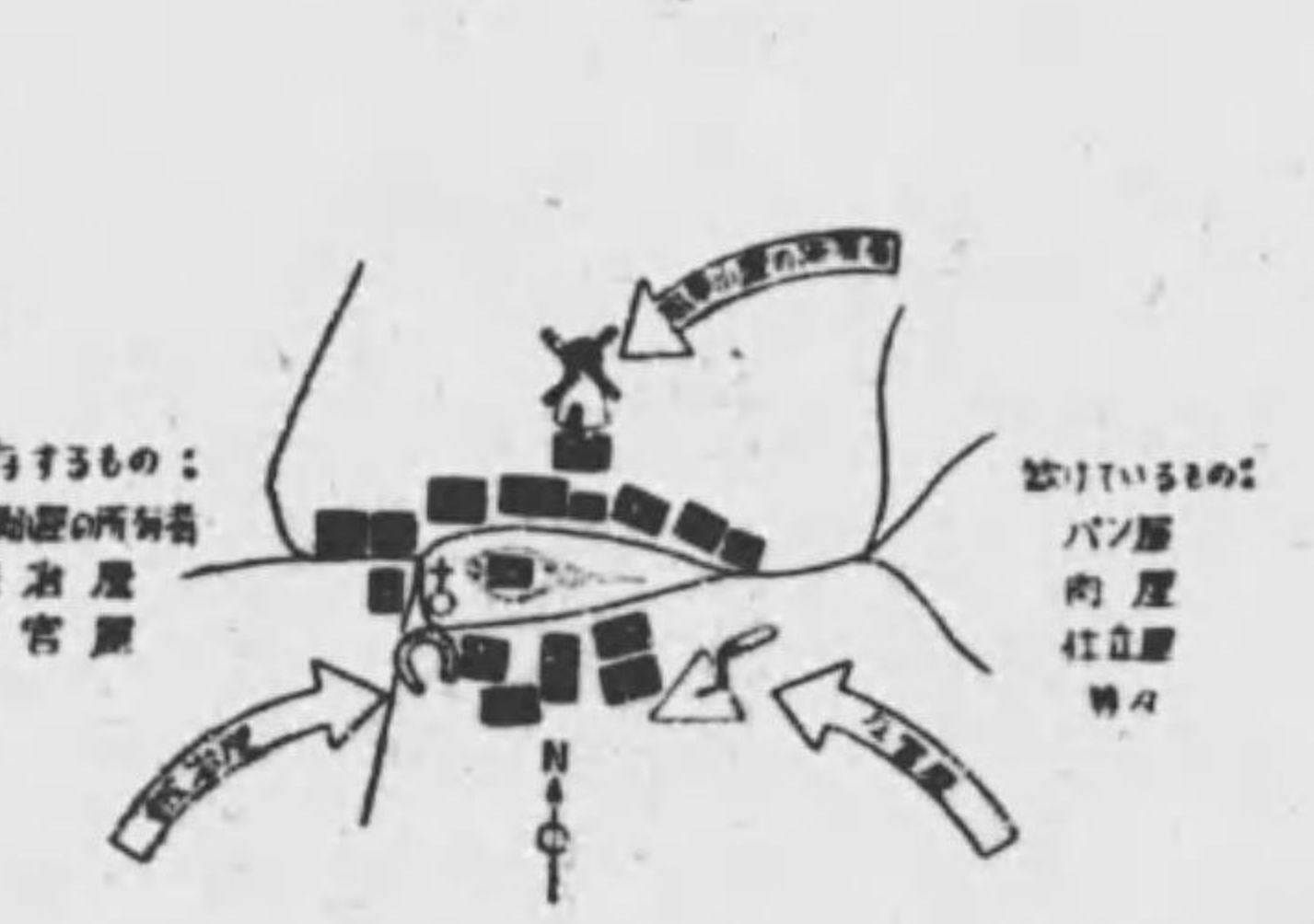


第一〇圖 b

- 二、文化的生活の中心點を形成するもの皆無 上級程度の學校、文庫、修養場の皆無、シネマの皆無、劇場の皆無。
- 三、行政に適つた組織的生活の展開の悉無 従つてより高度に展開した協同社會の皆無。(第一一圖參照)
- 四、綿括的商業的工業的生活の皆無 最も原始的な生活需要の満足のため最も必要な商業上の取引が設定されるに過ぎないのであるから。(第一二圖參照)
- 一、一、〇〇〇人を基数にした出產數は村落の出產數に甚しく接近する。



第一一圖 村落は國家の交通機構から離れてゐる

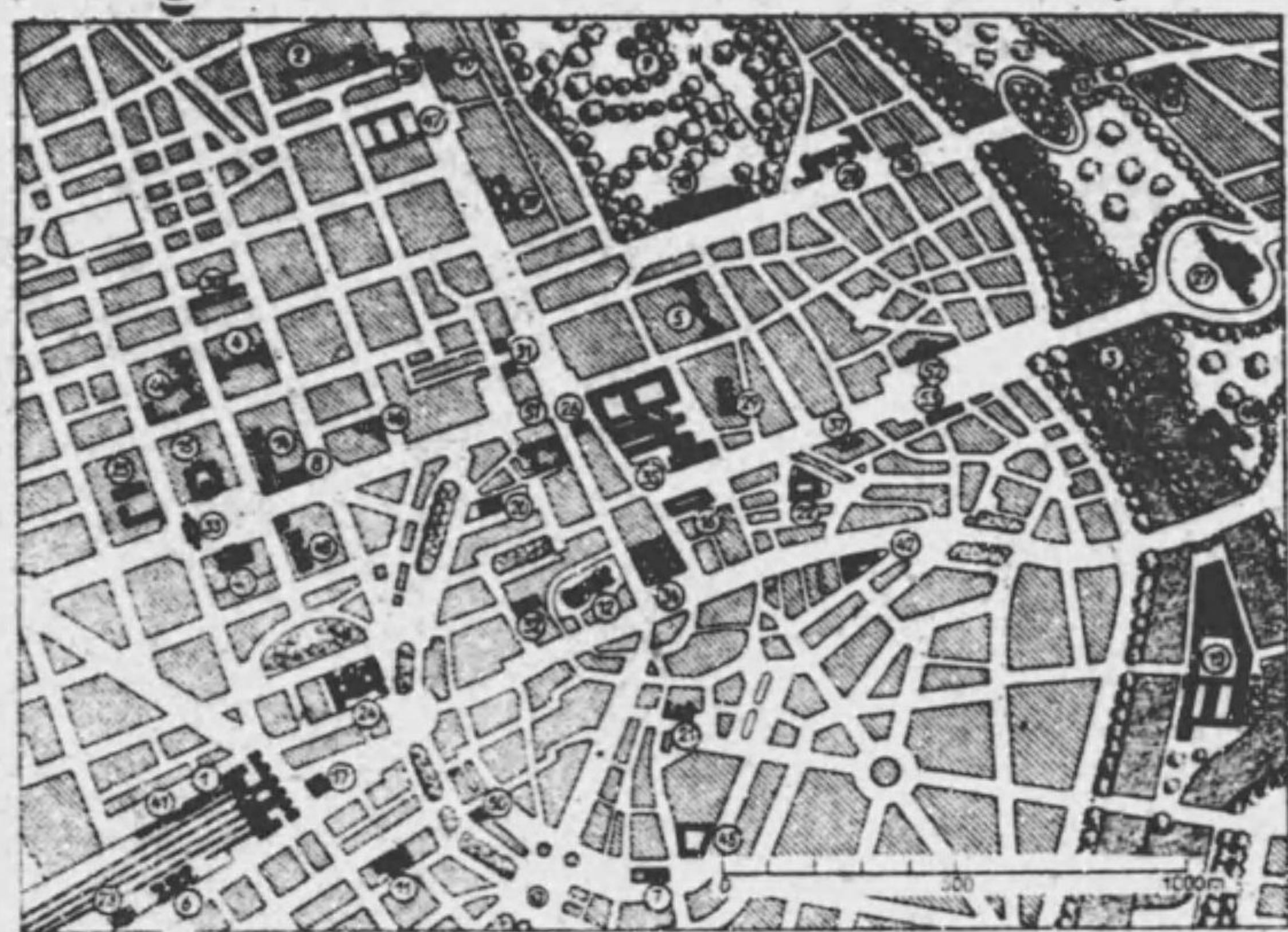


第一二圖 村落に於ける商業生活の缺乏

- 二、屢々市民は小家屋の所有者である。そのことは結果としてより大きな住居を有つてゐることになる。數多くの家族が數世紀以來さうした都市に住んでゐる。
- 三、三階建て住宅の造營は小都市に於いては既に極めて稀有である。建築物が地を蔽ふことさほど稠密ではない。都市の森は歩いて約十分以内で到達される。死亡率は遙かに大都市に於ける程には高くない。
- 四、このやうな小都市に於ける交通は適度の埒内に保持されてゐる。總ての道は快適に歩いて或は自轉車で經過し終ることが出来る。瀟灑な車輛の往來も一として通學途上の兒童を怕かすことなく、又大人にとつては職場へ通ひ緊張から悦ばしい解放へ立ち戻るのに短い通路が役立つ。
- 五、小都市に於ては文明へ促進させる施設が充分に存在する。浴水場、利水装置、電話、電燈。
- 六、一種文化上の核心を形成するものも亦小都市に於ては可能である。シネマ、コンサート、講演、郷土愛護と歌唱等々のための俱樂部、郷土博物館、高等程度の學校。
- 七、小都市に於ては都市と國家との色々に異つた器官を通じて既に一の行政に適つた中心化も亦現存してゐる。區裁判所、往々は地方裁判所及プロシヤ區裁判所、黨俱樂部、郵便局、停車場、財務局、勞務局等々がその地域に核心的性格を與へる。
- 八、然し、商業上工業上の生活も亦小都市に於ては既に高度に發達してゐて、其處では餘りに強力な工業化と餘りに大きな經營形式との融和が實現されてゐる。

大都市の利益

- 一、強力な集中化 行政の、又工業、商取引、實業及金融の、教會上文化上の施設及交通設備の。



第一三圖 大都市に於ける公共施設の集中化例としてのミュンヘン都心

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|
| 1. 中央停車場 | 27. マキシミリネウム |
| 2. 美術學校 | 28. 國立博物館 |
| 3. アルプス博物館 | 29. 國立劇場 |
| 4. 舊繪畫館 | 30. 新繪畫館 |
| 5. 軍事博物館 | 31. 詩樂館 (Odeon) |
| 6. 鐵道郵便局 | 32. 警視廳 |
| 7. ピンター操り人形劇場 | 33. 列柱堂 |
| 8. 褐色シャツ隊俱樂部 | 34. 市役所 |
| 9. 支那塔 (Chinesischer Turm) | 35. レズイデント博物館 Residenz-Museum |
| 10. ドイツ博物館 | 36. シャック-ギャラリー |
| 11. ドイツ座 | 37. 劇場 |
| 12. 尼僧院 | 38. 凱旋門 |
| 13. 平和記念柱 | 39. 國立圖書館 |
| 14. 指導者俱樂部 | 40. 國立ギャラリー |
| 15. 彫刻品陳列館 | 41. シュタルンベルガー驛 |
| 16. 中央郵便局 | 42. シュテルンエッケルプロイ |
| 17. 中央電信局 | 43. シュトゥック博物館 |
| 18. ドイツ美術會館 | 44. 工業大學 |
| 19. ドイツ法紀念館 Haus des Deutschen Rechts | 45. 技術院 |
| 20. ドイツ國家社會主義労働黨俱樂部 (NSDAP) (大管區指導) | 46. 音樂堂 |
| 21. 歴史博物館 | 47. 綜合大學 |
| 22. ホーフプロイハウス | 48. NSDAP 行政官廳 |
| 23. ホルツキルヒン驛 | 49. 民衆浴場 |
| 24. 法會會館 (Justizpalast) | 50. 民衆劇場 |
| 25. レンバウハ市立ギャラリー | 51. 内務省 |
| 26. マーンマール及フェルトヘルンハッレ | 52. 政廳 |
| | 53. 國立博物館 |

二、一切は公共的生活に關與してゐるといふ印象を有つてゐる(第一三圖参照)。

三、大都市は大きな勞働及販賣市場である。(然しその代りに十分な營養供給が特殊な困難と結びついてゐる！遠隔の領域からの生活資材の調達が必要である)(第一四圖参照)。

村落の利益

四、土壤と自然との直接的結合。

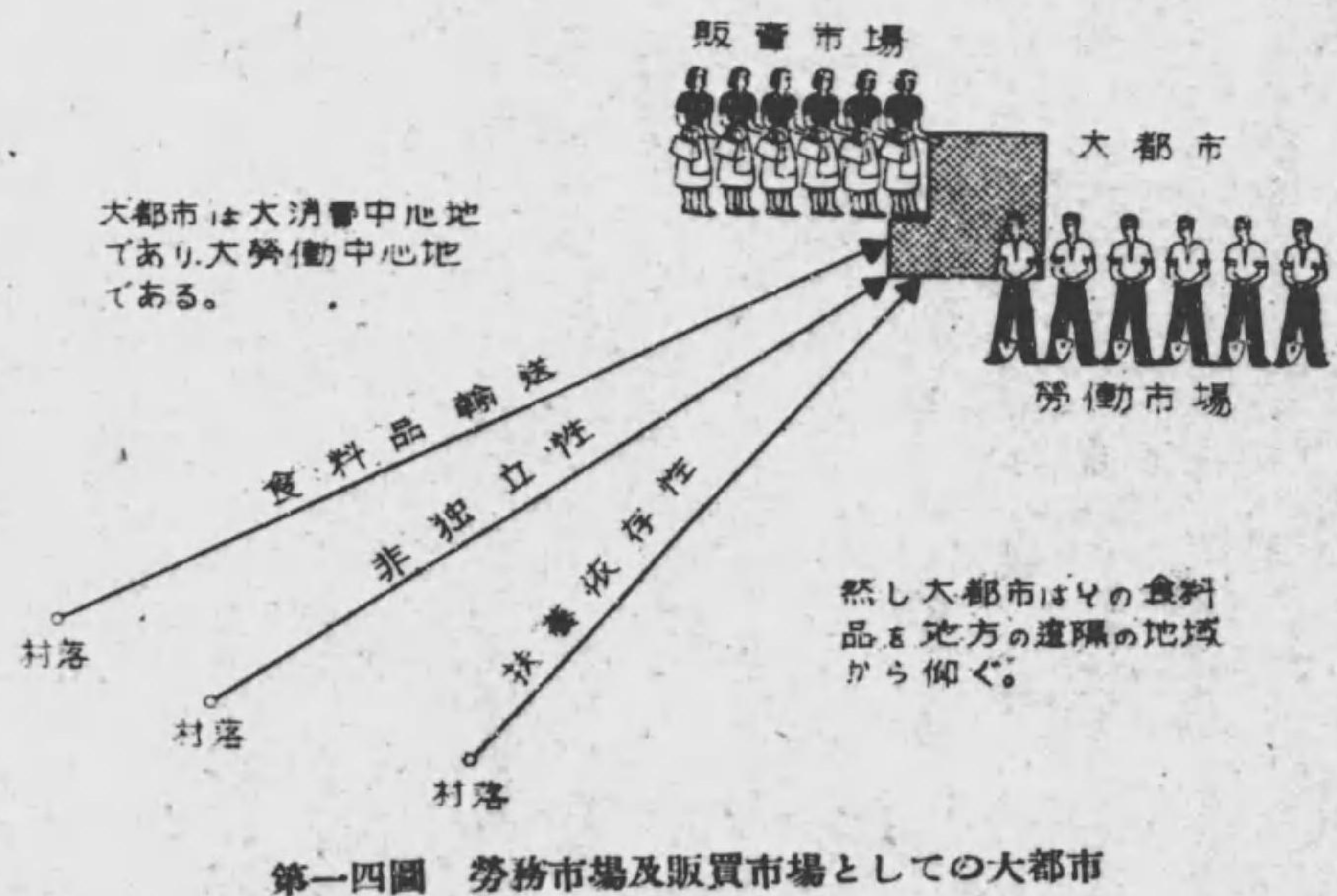
五、經濟的自立性と素朴な生活需要特に扶養に關する無依存性。

六、職業が健全な環境に於て 主として自由な天空の下で行はれる。最も密着した自然結合と土壤結合。遺傳的に健康な子孫の成長。

大都市と村落との利益の多くは小都市に於て首尾よく結合される

一、比較的大きい都市に在る國家的官衙と殆ど一切の自治團體的官廳との多數が、目立たぬ擴りに於てではあるが、既に現存してゐる。

二、同じことは文化的諸施設に就いて當て嵌る。勿論劇場を除



外する。その代りには學校（就中高等程度の）が大抵の場合特に悦ばれる。社交生活は往々大都市の場合よりもより良く發展する。

一八

- 三、一種の勞働及販賣市場の形成は小都市に於て十分な廣さに涉つて現存する。
 - 四、家屋の側の庭園や或は未だ間多くの人々の權内に在つた都市前面の田畑は彼等自身と大地との直接的な結合を齎らす。貸長屋住ひの大都市勞務者にとつて最後の通逃口である小公園（遺憾なことにはそれすら餘りにも少ない人々にとつての話だ）は、小都市に於ては我家に所屬するものである。
 - 五、小都市は緊急の場合常にそれを直接取り巻く土地から衣食の供給を受けうる状況にある。都市圏域自體は既に、大都市の場合と比べて農林業上遙かに住民の最も主要な衣食の供給に役立ち得る筈の面積が、住民の頭衝き合ひの状態を呈して居る。その他周邊地の諸村落に對して近接的、短路的關係が成立する。
 - 六、對目的即目的に不健康、狹隘にして息苦しい住宅の弊害と危険でさへ、牧場や原野、山林や水面を有つた解放された土地の直接的近接に依つて弱められてゐる。この自然の近接は健康な次代のものの生長を促進させ、さうすることに依つて子供への意志を自明的なものたらしめさへする。生活に關する一種の靜觀と完結性とは人間を生命の深い事象へと尙一層近づけて、自分の中に憩ふ人格性に於ける發展へと導く。
- 吾々の大都市の度を越えた進展とこのことから生ずる植民政策的状況の苛酷さと、何よりも先づ明かに停止することを知らない出產數の減退とこそが、ドイツ民族を喝かしてゐるこの最も困難な危険を時の宜しきに反撃するために新しい道を探索しようとする。過剰大都市住民の移植は往々具合よく進展しないことがあり、更にドイツ國土にとつて農業のために工業が制限されるといふことが殆ど顧慮されてゐないのだから

ら、都市文化と地方文化との間の新しい綜合が必要である。かうして始めて生業自由の達成に必要な、農業の強化を齎し得る。このやうな置換の歸結として、住民が大地と益々結合して行くことは、家庭を固め強化する基礎であり、民族協同社會の生きた原核である。緊迫した來るべき課題、傳承された文化價値を遅しく前進し續けて行く技術の文明促進的進歩と融和して一つの調和ある和音へと齎らすことは、ドイツ生活地域の新秩序に依つてのみ満足すべき程度に解決され得る。

以上述べた諸根據から現存小都市の機構を研究するに努めて來た。而もその際民族政策的に見て、大約二〇、〇〇〇の住民を有する地方都市が最も健全な生活條件を指示してゐるといふ結果に立ち至つた次第である。

B、調査の方法

どの都市の外貌も完全に他の都市の外貌から區別されるといふ事實、多様な場所的所與が都市の外観と發展とを限定するといふ事實が、一の都市像を總ゆるジードルングに共通な解剖學的構成から、また行政、經濟並びに都市建設的根本要因の見地から記録することをこれ迄人々が怠つて來た原因であつた。多くの事象に共通なものの特徴を記さうとするとき、總ての事象に内在する特殊性を認識して取り除くことが大事である。さうして後に一般的特徴が抽出される。實際家が價値の利用に際して後になつて逆の路を辿らうとするときには、彼はこの總て地方的所與の衣を剥いだ價値に對する特殊な場所的特質と前提とを見出して、それらを今茲に企畫された都市像に附加しなければならぬ。かうして始めて彼は生活能力ある都市の綜合體制を創造し出して來ることが出来るのである。恐らく唯一の決定的にも比較的にも最も單純にして最も迅速に目的に導く都市體制の一般的本質特徴の發見への手段

は基底数の比較である。この價値の源泉は統計學である。唯これを見出すに當つては單純な計算例を以て満足すべきではない。

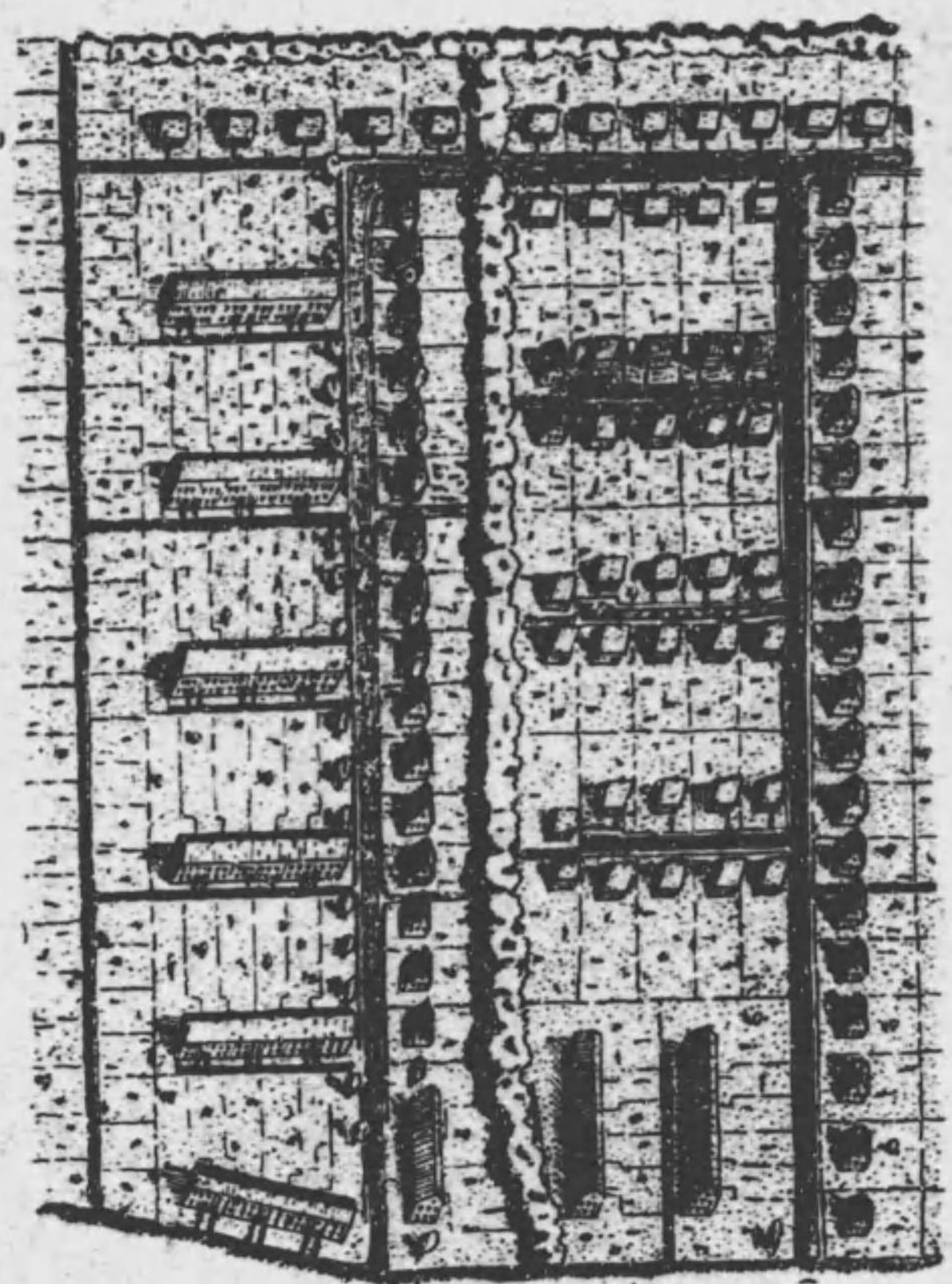
ドイツ都市の有機的根本接合部は、纔六ツから七ツまでの都市を研究比較しただけでは殆ど發見され得ないであらう。場所的制限は人が種々の變貌の中から確實に主導因を規定するといふことの不可能な程に強く優勢である。比較的多數にのぼる比較對照物に於いて始めて（茲には人口一五、〇〇〇—二五、〇〇〇を有する一二〇都市の悉くに就いて餘すところなくなされてゐる）このことは可能である。

一般的都市像が造型され終つた場合にも、個々の都市全部の略圖に就いて値數と比較して再び吟味しなければならぬ。このことは、四五の都市に於てそれらに適はしい大きさに就いて輪問して廻つた基礎の上に立つて居るのであり、到達し得る一切の論據の徹底的研究に從つて齎らされたのである。個々の營業や公共施設に於ける特に高い或は低い値數の説明のためには、この現象の原由に就いてより身近に研究することが尙必要とされた。多くの場合その結果は圖解に依つて明にしてをいた群表や類型を描いた紙葉の中で大抵諸群象が通常價値を周つて極めて明瞭に認識される。個々の場合に於てのみ、主要群象の中心に近い、殆ど到る處に妥當する、計算された平均價値を以て足れりとする必要があつた。その結果の總括は比例數の綜體に就いての概念を與へる。この見通しは從つて多くの部分的に實現されたジードルングに於ける構造と比較された。

最後に、この著作の結論として、茲に確められた値數の基礎の上に建設されてゐる都市は如何なる外貌を呈するかを二、三の例を以て示す。

C、調査の實際的適用と必要

中世、ルネッサンスのドイツ都市像は、調和ある完結性を呈してゐて、強い協同社會精神、意識的文化生活、確實にして藝術家的な感情等の完全な表現と云ふ印象を與へる。自由主義の世代にとつては、民族協同社會のために悦んで奉仕するといふ精神に依つて負托されたこの生き生きした有機體制の美しい形式を、個人主義の自由に就て



第一五圖 “製圖板” ジードルング

の謬説に依つて根柢から粉碎すると云ふ事情が無制限のまゝであつた。各人は欲する處に欲するまゝに家を建てることが出来たものだからして、家々の集團は與へられた極限を超えて泉のやうに溢れ出し、ひつくり返つた粥鉢の中味のやうに四方八方へ流れ出したのである。それは残酷なまでの醜惡さと、赤裸々なただ私利の理由から聽取されたに過ぎない所謂合目的性とを伴つた、無趣味な際物が場所をふさげてゐる、紊亂した、計畫もない巨怪な形像を

生じた。「都市への行進」と、従つてまた特に吾々の大都市の急速な成育とは、普佛戦争後の泡沫會社濫設時代に於て就中世紀の變り目に當つて出現したやうに、間もなく背德的結果を呈することになつた悦ばしからざる展開を支持した。この害悪に對して自由主義國家は無力であつた。かうして——單に二つの巨大な例證を擧げることとどめるが——出産率は驚くべく急速に民族現實態の保持に必要な最少限にまで低下した。然るに一方、増大する疎隔に依つて法外に高められた交通は漸次紛糾し、その結果交通の統制は高額を要する殆ど解決し得ない問題となつた。

國家社會主義的精神に於ける新ジードルグ計畫の最も高貴な課題は、乗り超えられた時期の缺陷を避けることばかりではなくて、より改善されたものをその代りとするところでもある。新しく建立するジードルグは最早や二、三人が多少とも協働してゐるといふやうな状態の私的企業者の恣意に委ねられてはならない。管轄官廳は寧ろ自ら右に左に喰ひ込まねばならない。勿論そのことが「自由經濟」に猿轡を嵌める——斯うした悪評は正當なことだ——ことと同義である必要はさらさらないが。

實地は所謂自由な發展といふものが總ての關係者にとつては如何に飽き飽きする程に又完全に經濟的な犠牲であるかを教へる。これを説明するために工業生活の中から次の一例を引用しよう。特定の場所に鍛冶の手職は餘りにも多過ぎる。に反して同じ場所に於て自動車修繕場は缺乏を告げる。この二つの工業は疑ひもなく時の經つにつれて經濟上の健全な關係に影響を及ぼすことにならう。が一度定住した手工業者は既に純粹に經濟的理由からさう易くは彼の立場を變へる譯にはゆかないのであるから、このやうな發展經過は數十年間繼續するものと見なければならぬ。恵まれない條件の下に働いてゐるときですら、彼は出来るだけ長く自分の立場を維持しようとするのだらう。彼の職業と同類の總ゆる他の手工業者にとつて禍なことに、實に唯一つ過剰な業務があるといふことでさ

へ、小さな場所の場合には他のものを重壓することが著しく大きい。

この著作は經濟體制を凝固した形のまゝで通常化しようとする企圖したものではない。併し都市のジードルグを建設しようと思ふものは企畫作業にあつて頼り得る經驗價值を必要とする。人は都市建設者が精密な價值を始めから決定的に設定することを期待してはいけない。が、個人的な扶養や管理にとつて促進的な一切の施設を備へてゐるジードルグを創ると云ふことは彼から要求されなければならぬ。都市の綜合計畫は都市がその性格を失ふことなく、起り來る需要に相應はしく更に發展し得るやうに立てられてゐる。とはいつても都市の成長は、都市領域が延長する場合それが比較にならぬほど長く、従つて手間どつて費用の嵩む住宅から職場への道が生産勞務者に要求されるに違ひないところに、限界を見出すべき運命でもあつたのであらう。

吾々は第一五圖が示してゐるやうな謂はば如何なる「製圖版ジードルグ」も退屈な家々の系列をも欲してはゐない。

吾々の欲してゐるのは何よりも先づジードルグが經濟的見地から云つて完結してゐることである。通常の要求に役立つ出来る丈一切の實業的公共的施設は、それ自身で完結した生活協同態を形成するそれ自身の場所の中に在るべき筈だつたであらう。これに就いてはこの述作がジードルグ思想に於ける總體へと努力する凡ての人に依つて踏襲され得る道を入口二〇、〇〇〇を有する都市の例に於いて示すであらう(第一六圖參照)。

遺憾なことには、ジードルグに必須な建築物や施設に關する様式や一定數や大きさへの數的論據と完全な報告が缺けてゐたことが、それ自身で生活能力あるジードルグの企畫を出来る丈周匝な個人的扶養といふ點に基いて建設することを不可能ならしめた。この述作はかうした缺陷を矯正しようとする。

将来組合に属してゾーグルンゼらわよ！
(Künftig Zünftig stöllen！)



ゾーグルン

第二章 面積の区分

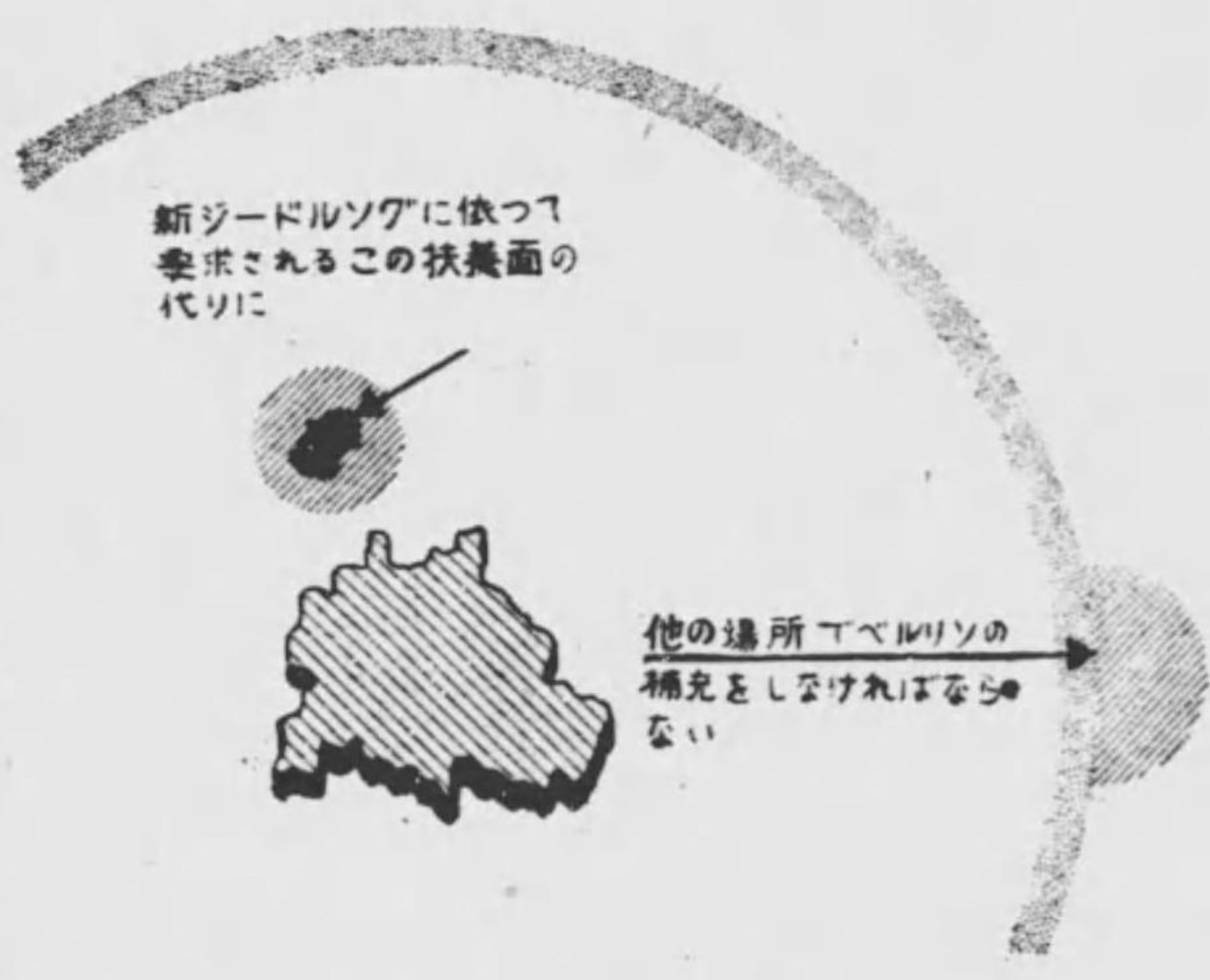
A、都市と周辺地

1. 人口二〇、〇〇〇の都市の周辺地

(a) ジードルングの生活圏

各ジードルングや或は新設された各場所こそ背後地たる扶養地域は属すべきである。ジードルングに際してこの周辺の地を考へないとき、其處には交通政策的とか市場商品的とか云つた類のものに關する未曾有の緊迫が生ずる。

かくて大都市近郊に於けるジードルング計畫に當つて言及されなければならぬことは、新しく構築されたジードルングに依つて要求される扶養地域のために大都市の背後地が削減されないかどうかである。と云ふのも、このことが他面結果として大都市のための扶養地域の擴張を持つことになるだらうからである(第一七〇圖參照)。このことに依つて、大都市への遙かな供給路は更に一層延長される。従つてより良い方策は、新しい工業を都市の前景に定着させることではなくて、遙に遠隔の殆ど工業的商業的に中心點をなしてゐない上にさして人口が稠密でない地帯へと移行させることである。大都市のために地方經濟が一時に激化されない場合にこそ、大都市の扶養地域内に於て新しく定住するとか或は新しい作業場を創るとか云ふことが可能である。新しい作業場が大都市の扶養地域内に設けられる程、益々大都市の扶養地域は遠くへ遠くへと押し出される。例へばオラニーエンブルヒに於ける新ジ



第一七圖 都市の扶養地域
 圖は扶養圏半径 100 km を有するベルリンの状態を示す。

ドルングに依つて要求される扶養面積のためには、他面ベルリンのためにそれを補償するものが創られなければならない。而もそのことが對目的にも即目的にも極めて錯綜した交通關係といふ新しい負課を結果するのである。とは云つても、激甚なる交通の紛糾はプランに則したジードルング政策に依つて連れを解かれてそれ以上見透し切れぬものとされてはならなかつた筈である。

ベルリンの扶養地域は少くとも半径一〇〇軒の圓ほどの大きさである。

(b) 都市市場の作用範圍

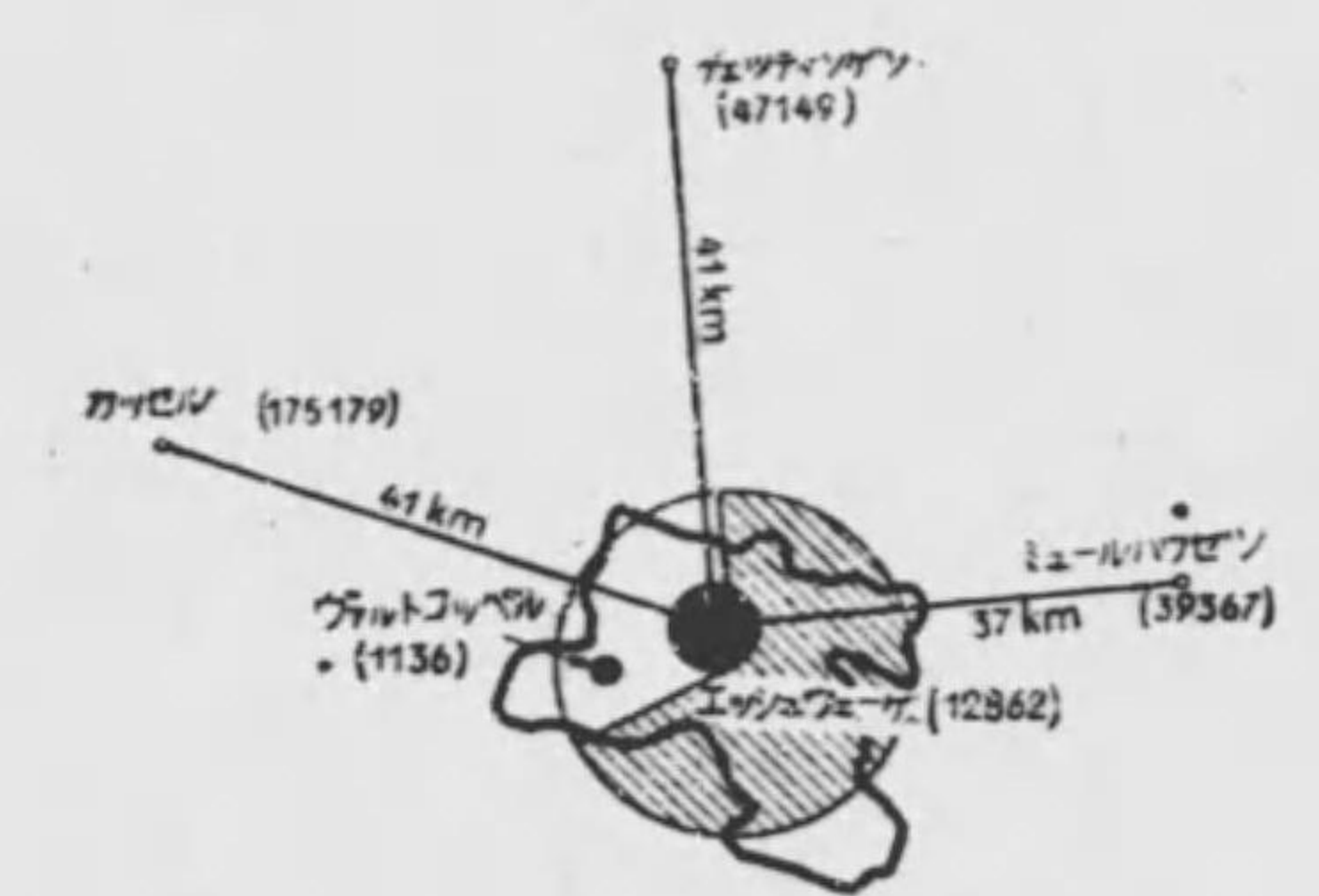
各都市に屬するものに地方の生活圏がある。此の經濟領野は流域 (Einzugsgebiet) とも呼ばれる。主として人口二〇、〇〇〇を有する都市を周つて周辺地は純粹に地方的領域として唯諸村落とのみ混和しながら存在する。

このやうな機構にあつては、村落に於ては最早何等生活能力の無い一切の營業が都市に在る。隔つた村落から都市へ至る道路は遠すぎるといふことなく、従つて農夫は困難なく都市で買ひ物をしたり生産品を賣つたりすることが出来る。

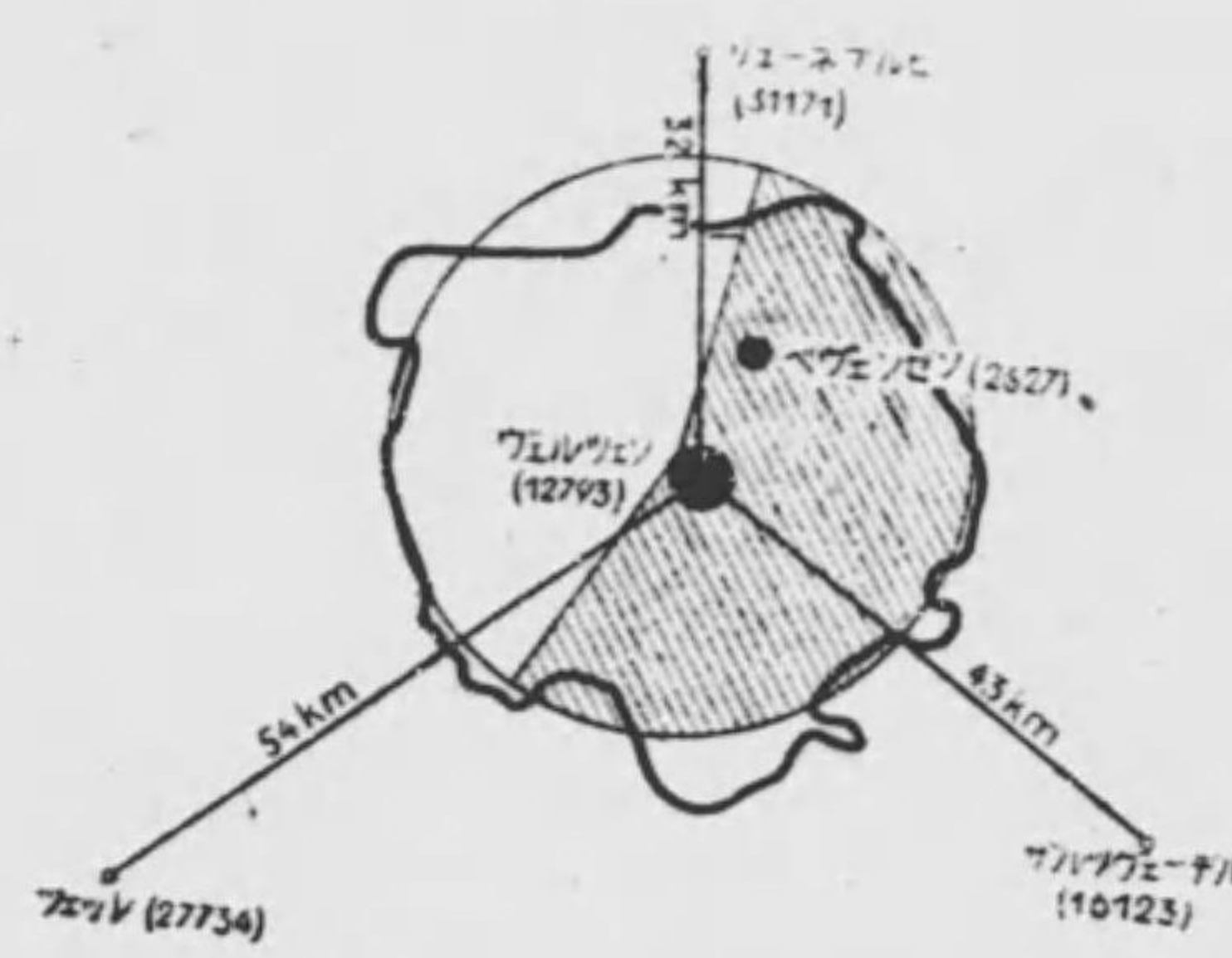
上述の圓圖説明のためにも次に述べるものの説明のためにも尙若干の報告を要する。挿入圖に於て行政圏全體

の面積は標尺 1/750,000 の大きさの圓に依つて叙述したものである。圏都市の面積も同様に同じ標尺を以つて記して、圏都市自身の面積單位に從つた割り當てを圖解した。更にの都市中心點は茲に圏都市にとつて現はれる住民の面積單位に從つて量を異にしたまゝに模寫された。従つて圏都市にあつて住民の頭數當に一定の面積單位が従ふとき、圏都市と並んで圓の中に現はれる都市中心點はその住民數に相應した標尺を以つて叙述される。大きな圓面積のうち平行線で影をつけた部分若くは諸都市に於ける暗い扇形は、幾百部の人口が工業上の職務(従つて地方經濟的業務ではない)に從屬するかを告げる。その際獨立してゐない家族のものは家長の職業に從屬して數へられる。

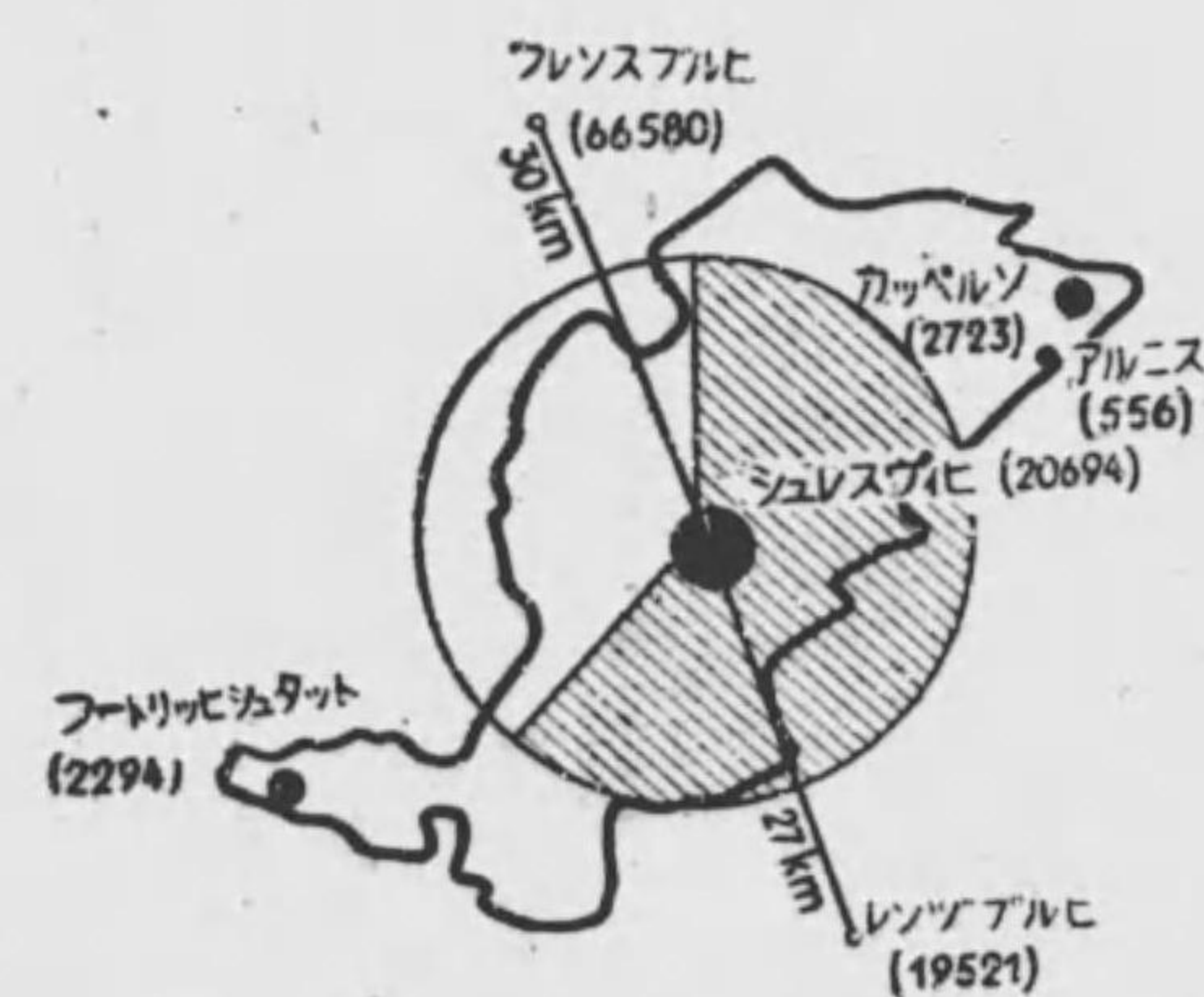
挿入圖は圏域エッシュヴェーゲ(一一二、八六二)、ウェルツェン(一一二、七九三)、シュレースヴィヒ(二〇、六九



第一八圖 都市と周辺地
 エッシュヴェーゲ (人口 12,862)



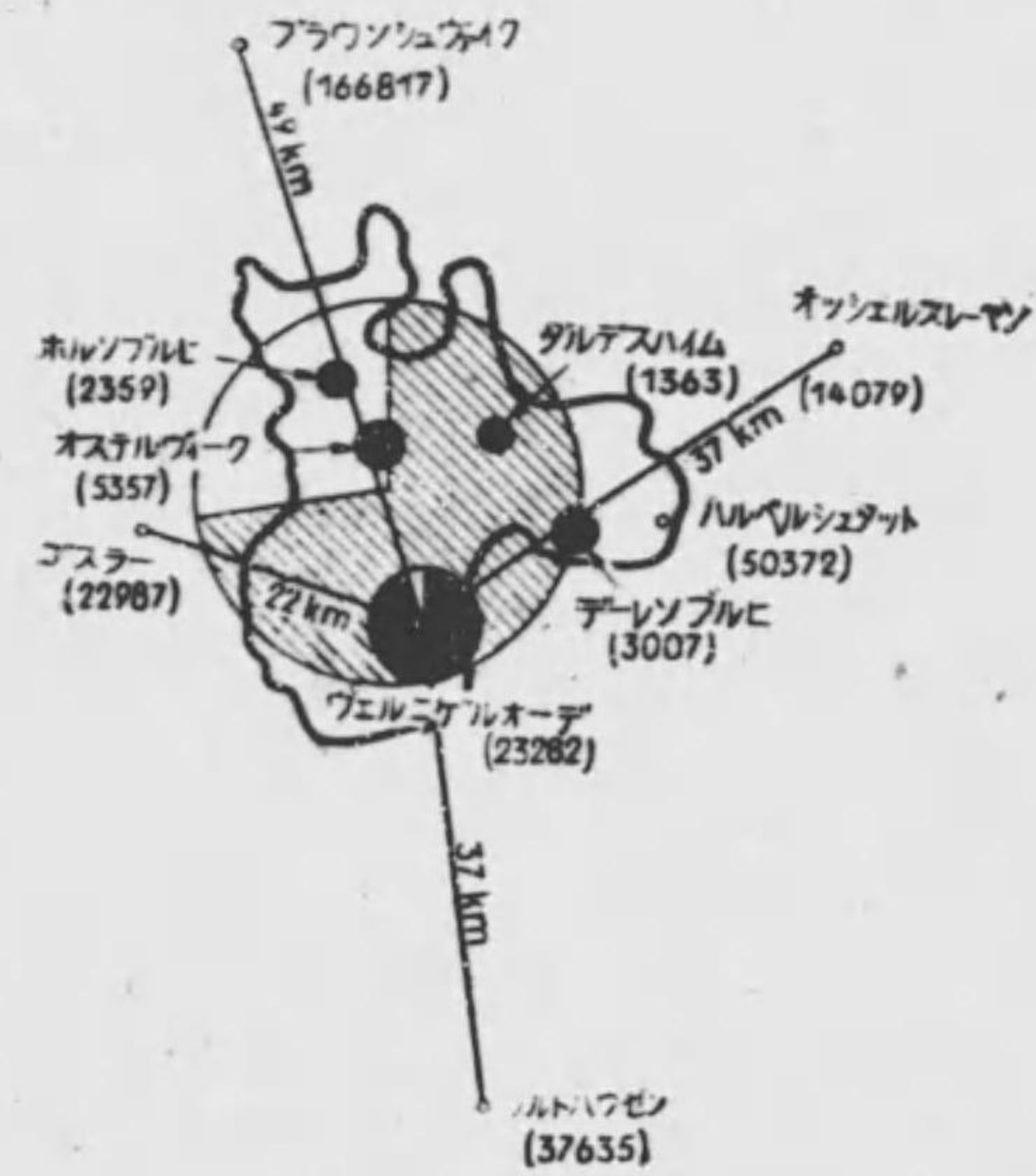
第一九圖 都市と周辺地
 ウェルツェン (人口 12,793)



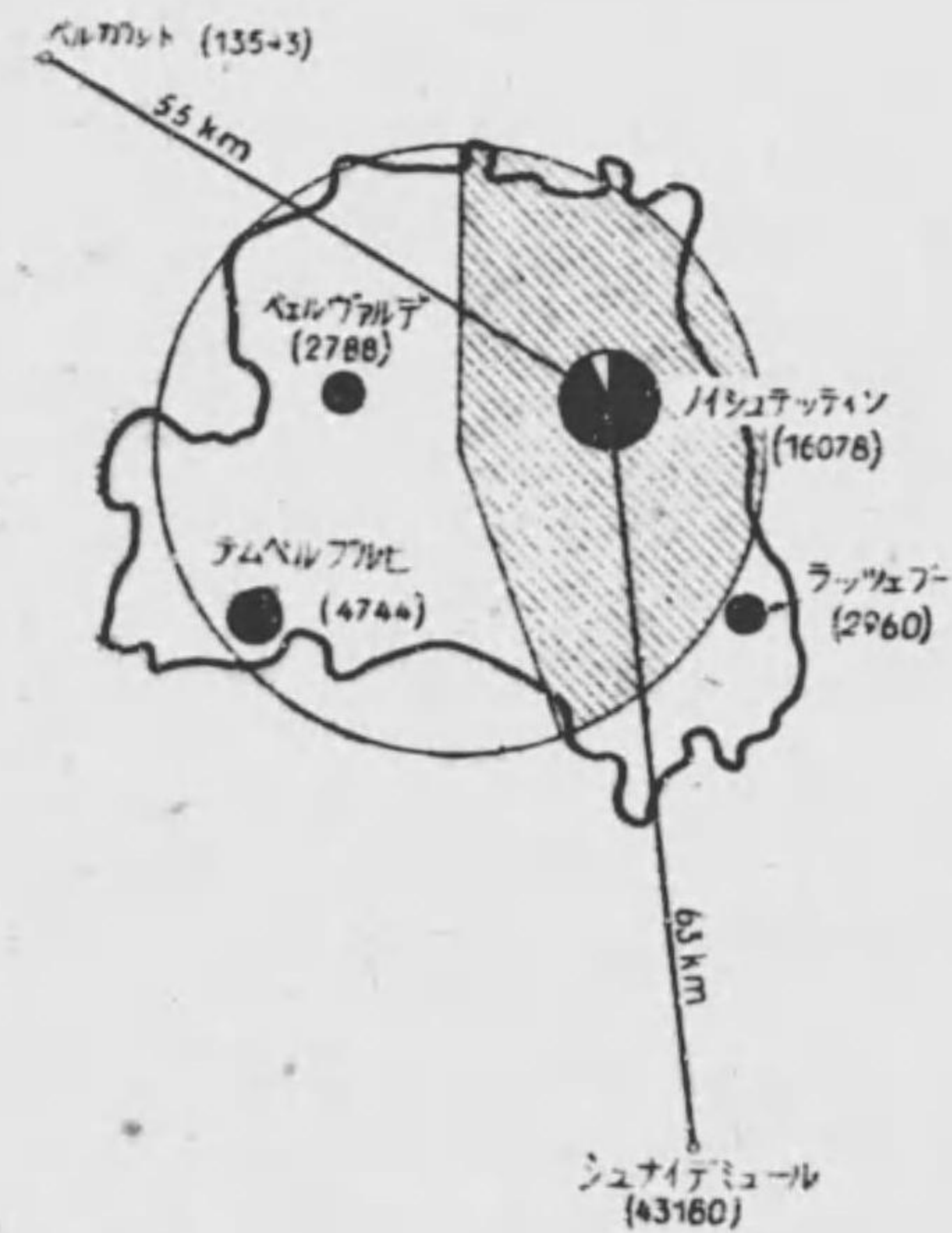
第二〇圖 都市と周辺地
 シュレースヴィヒ (人口 20,694)

四)に於ける人口二〇、〇〇〇の都市の外に在る微弱な都市隣接市場のための例を與へる(第一八、一九、二〇圖參照)。だが屢々人口二〇、〇〇〇の都市の周辺地はより多くのより小さい都市中心と混和してゐて、従つてその結果人口二〇、〇〇〇の都市のための本來的周辺地としては繼に地方の一部分が残存してゐる。勿論多くの商工業や公共施設としては、背後地を有する諸小都市も亦人口二〇、〇〇〇の都市の經濟圏に從屬する。この點に對しては、圏域ヴェルニゲルオーデ、ノイシュテツティン、ノイルツピンが例と見做され得る(第二一、二二、二三圖參照)。

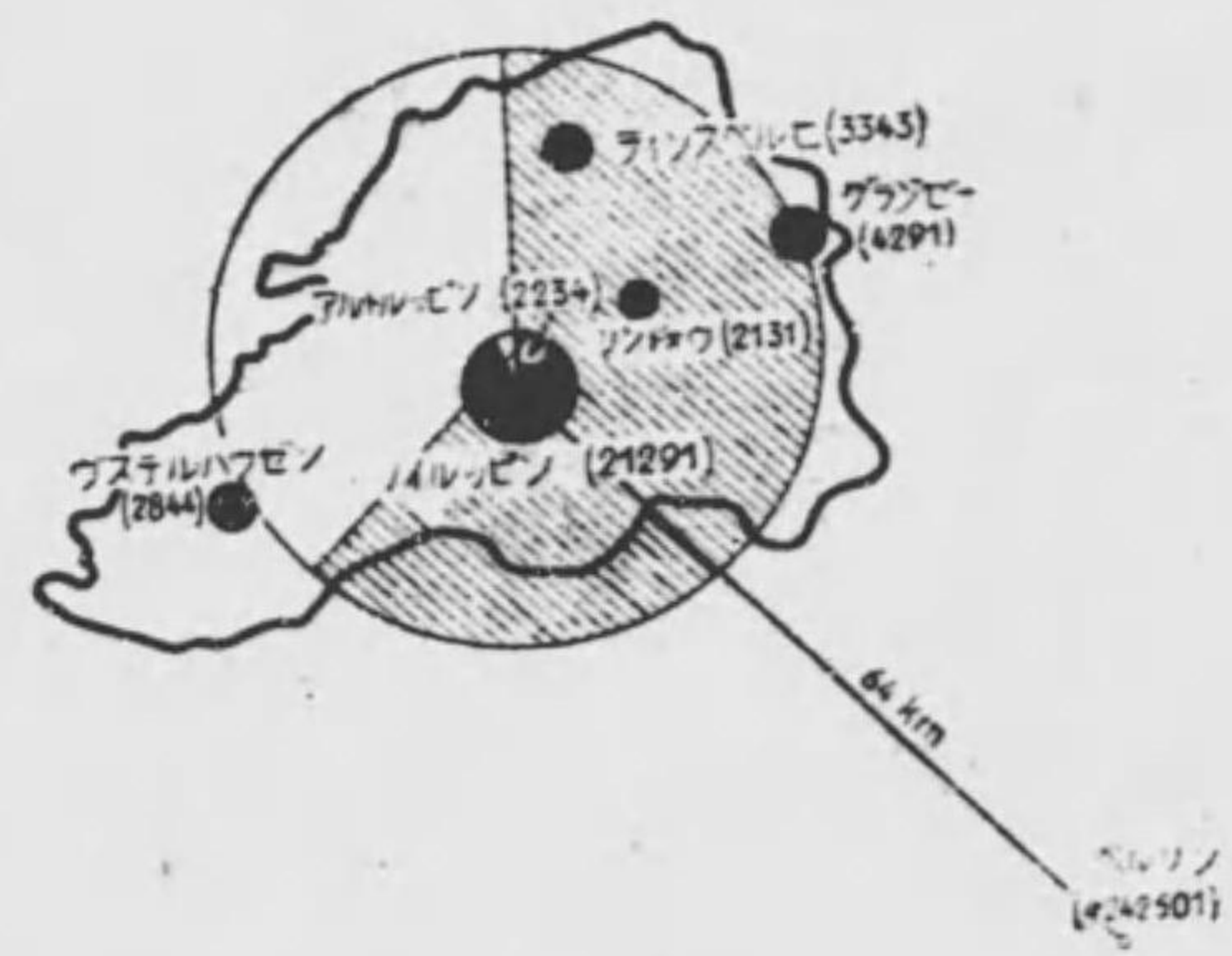
このやうな經濟機構によつて特徴となることは、周圍の小都市中心の中に既に現はれてゐる商工業が人口二〇、〇〇〇の都市の場合には稍微弱な役割を果してゐることである。比較的大きい住民數にあつて始めて酬ひられる商



第二一圖 都市と周辺地
ヴェルニゲルオーデ (人口 23,282)

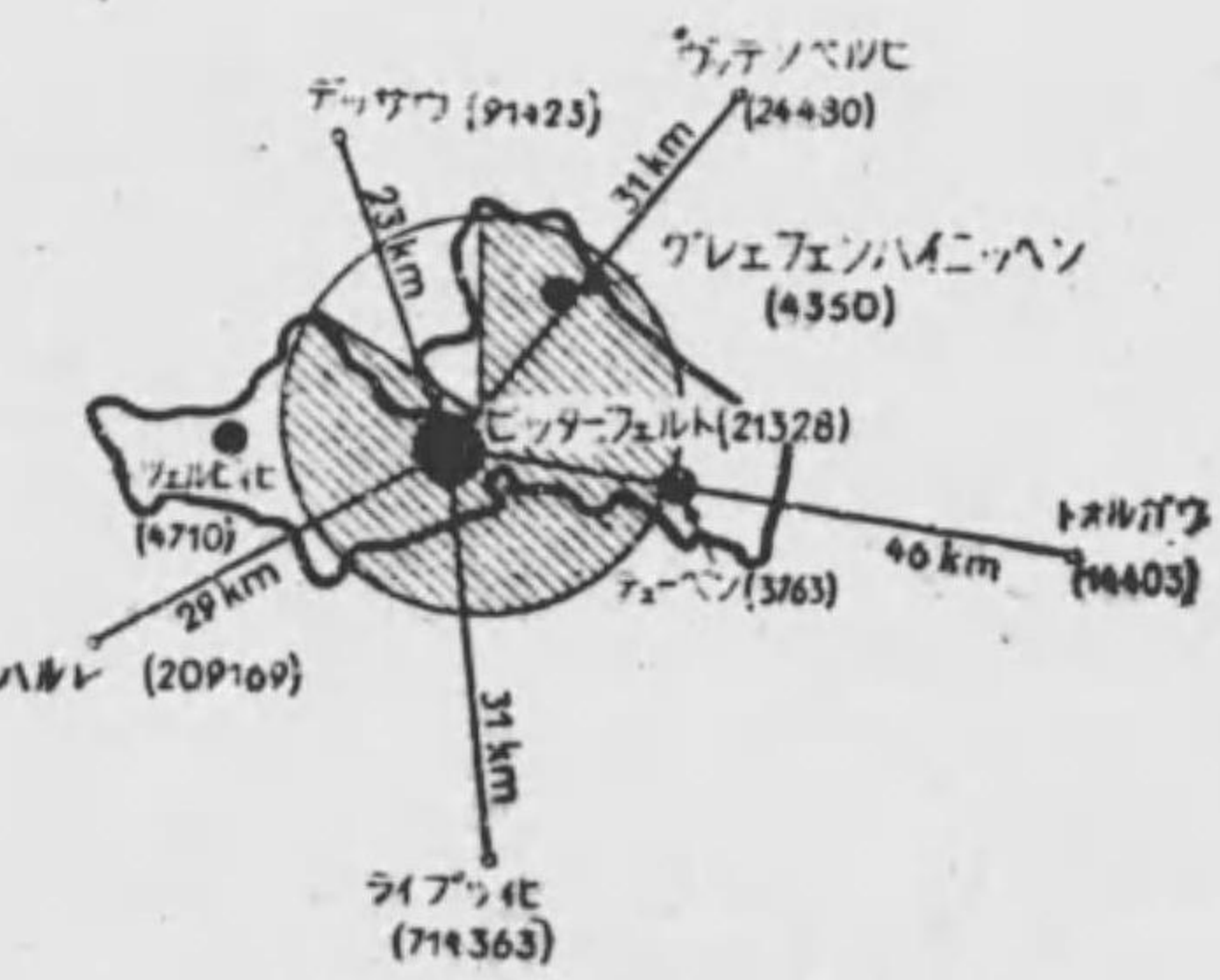


第二二圖 都市と周辺地
ノイシュテツティン (人口 16,078)



第二三圖 都市と周辺地
ノイルツピン (人口 21,291)

工業と施設とは勿論人口二〇、〇〇〇の都市の場合に於てノルマルなものとして主張される。同様に、近在大都市の流域が強く人の注意を惹く場合は、また或種の變革が人口二〇、〇〇〇の都市の機構の中に入り込む。このことは、商工業と施設とが人口二〇、〇〇〇の通常都市に於てはそんなに屢々現はれないか或は全然缺けてゐる代りに、近接大都市に於ては強力に存在するといふ事の中に繰り返へして現はれる。勿論この場合そのことは大都市の疎開に依存すること極めて大きい。この點に關する例としては、ビッターフェルト圏域が



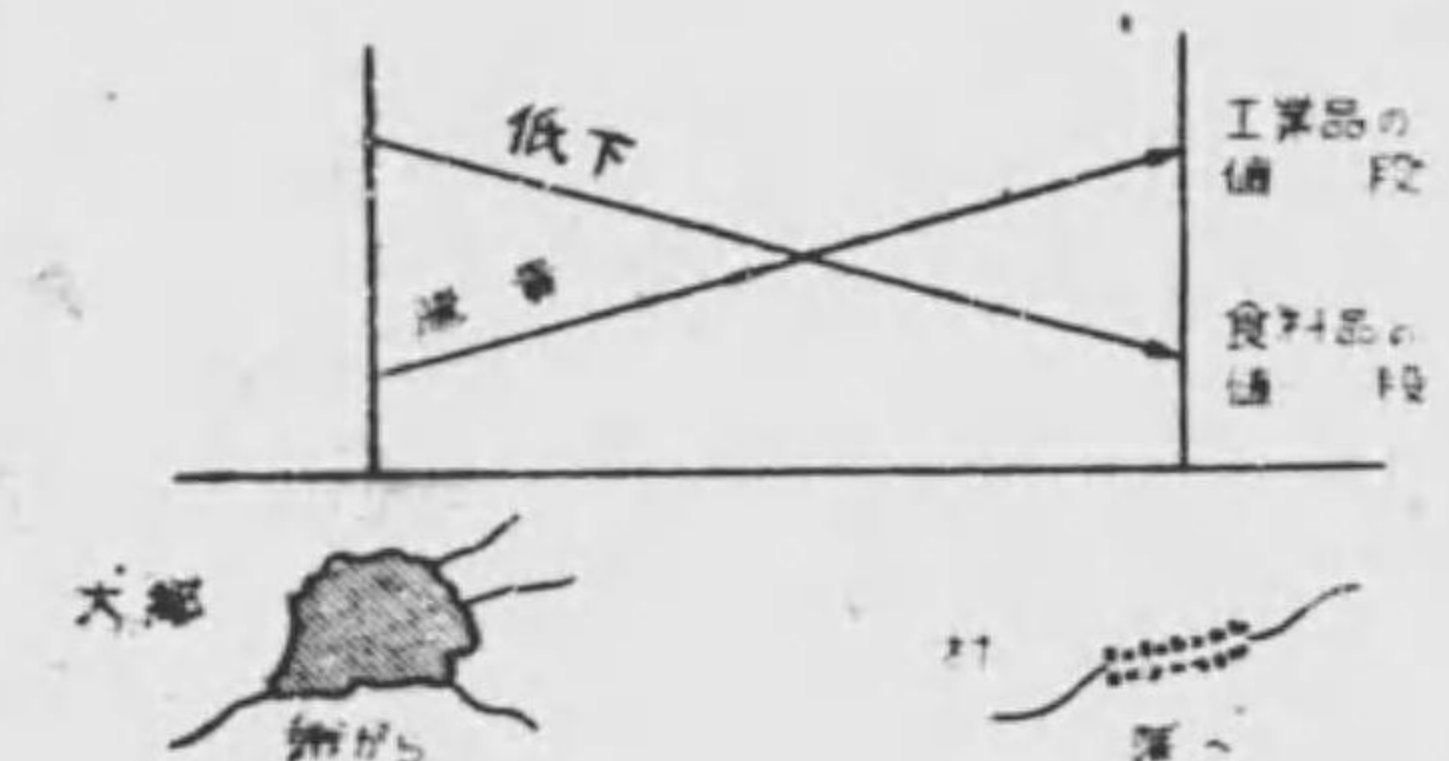
第二四圖 都市と周辺地
ビッターフェルト (人口 21,328)

描き出される。(第二四圖參照)
機構のこの變革は都市自體の中の經濟機構の企畫に際しては勿論顧慮されなければならぬ。他の都市に對する位置に依つて影響される機構のこのやうな變移を、諸都市の一大系列の中から一定値數を確認するといふ仕方に依つて取り除くことが試みられて來た。
例へば、區裁判所は、財務官廳、勞務官廳等とは全然異つた單位に從つて組織化されてゐる。
兎に角、商工業と公務との基本的關係數並びに大ききの整理と云ふことは本

質的なことである。かうした影響が一つの役割を演ずるといふことと、結論の實際的適用に當つてかうした影響が考慮されなければならないといふことは、絶えず指示されなければならないことである。

(c) 市場形成

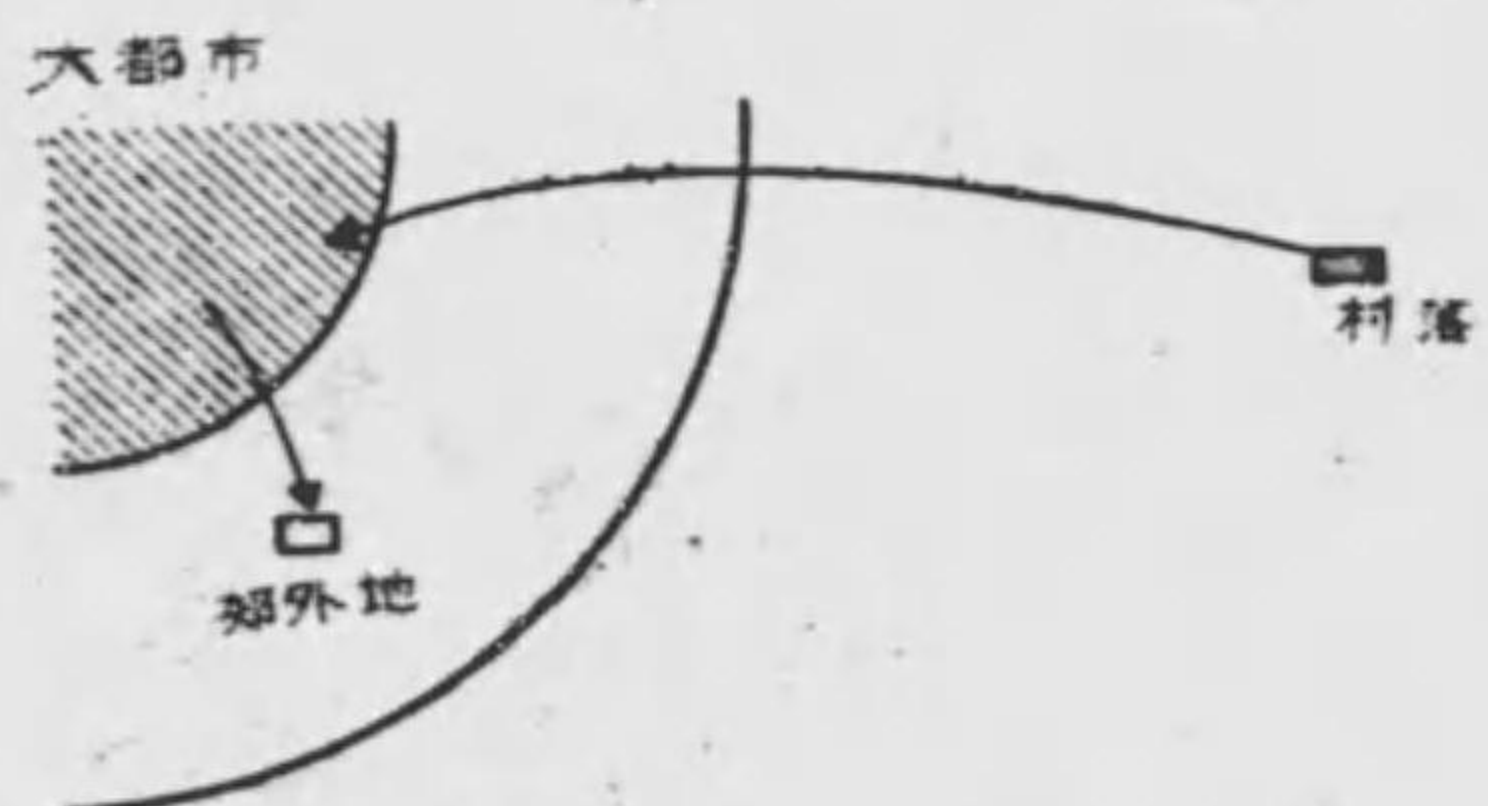
現存都市及新ジードルングを考察するに當つて重要な観點をなすものは市場形成である。例へば生活資材は村落遠隔地、つまり都市近郊ではそれを生産するところよりも高價である——と同様に都市近郊では工業財の値段が地方より低廉である、といふことは論を俟たない。(第二五圖參照)



第二五圖 市場形成作用

都市では生活資材の値段が高價で製成品値段が低廉であるといふ事情は、農民が先づ品物を都市へ持つて行つて、其處で彼に必要な財をその手取金で購入するといふ事態に導いた。従つて、かうした兩つの値段の形成は、農民が周辺地から日歸りの旅程で往復して市場所在地で交易することも出来るといつたやうな處で最も善く一致する。不自然な緊張は仲買業の中間連結に依つて始めて生ずる。従來の市場單位の支離滅裂な關係がいり込んで来る。かうした關係は極めて多くの大都市にあつて信じ得ない程に高まつてゐる。時としては指示し得る生活資材が多量に一の小都市から隣接大都市へ引渡され、やがて再び小都市の業者に依つて小都市へ持ち返されることがある。最も不自然なことには、かうした關係が大都市の中にも亦見られる。(第二六圖參照)

茲に、一面生産品が業者に依つて大都市のために買ひ占められるために、生産地自體に近く存在する近接前景地帯が却つて屢々大都市自體よりも生活資材が高價であるといふことになり、他面かうした風にして値段が尙より低廉に保持され得るのであるから、前景地は大都市からの影響度は受けるが地方に依つては影響されないといふことも亦屢々見出される。商品は極めて屢々不必要な迂回をする。遺憾にもかうして大都市に於ける資材やその他一切の商品や操作の總體價格水準は概して高い。といふのも、單純な市場交易に當つては脱漏される輸送配布の経費と極めて多くの中間利得が加はるからである。



第二六圖 大都市とその扶養地域との間の不自然な市場關係。郊外地にとっては大市場を経由する迂路の方が地方から直接仕入するよりも廉價なことが往々である。といふのは、大量の需要と大量の供給に依つて割安な仕入が行はれるからである。

廉に保持され得るのであるから、前景地は大都市からの影響度は受けるが地方に依つては影響されないといふことも亦屢々見出される。商品は極めて屢々不必要な迂回をする。遺憾にもかうして大都市に於ける資材やその他一切の商品や操作の總體價格水準は概して高い。といふのも、單純な市場交易に當つては脱漏される輸送配布の経費と極めて多くの中間利得が加はるからである。

2. 都市に並列する都市形成と周辺地面積及扶養

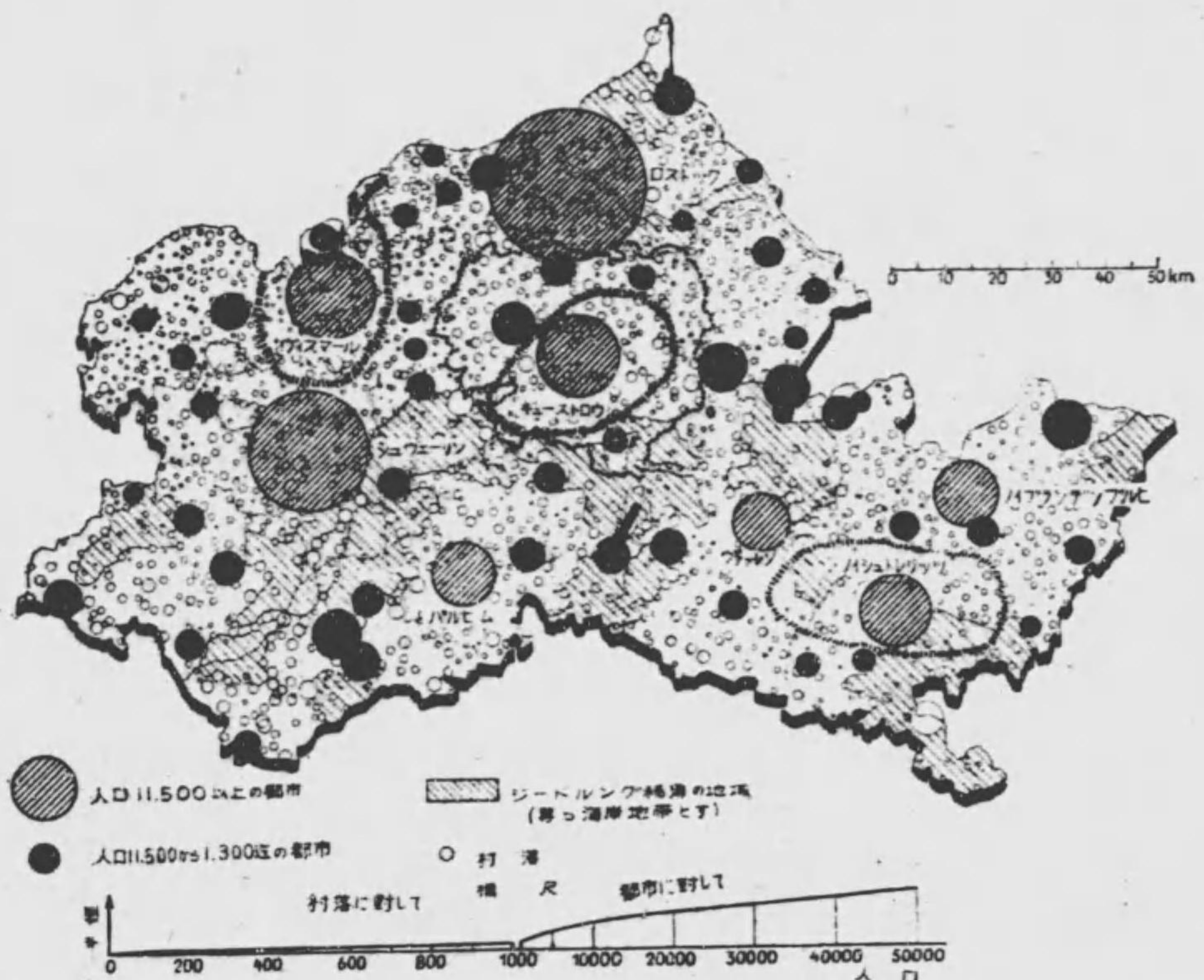
人口に関する査定

(a) 人口密度圖に従つて(メックレンベルヒと東プロシヤ

とに於ける都市中心點)

人口二〇、〇〇〇の都市の新設或はまた小都市がその大きさに迄發展する事情は、何よりも先づ當然全國の手薄な定住地方に於て見出されるのであるから、今茲ではメックレンベルヒと東プロシヤの定住事業に就いて稍々詳細に立ち入つて見ようと思ふ(第二七圖參照、メックレンベルヒの人口密度)。

上掲人口密度圖の中から明かに比較的手薄に定住の行はれたこの地方に於ける都市中心點形成が認められる。人口約二〇、〇〇〇を有する三つの都市は易く認められる(ギザギザで縁取りした圍域)。それより大きい都市圓球としては直ちにローシュトックとシュヴェーリンが認められる。かうして、人口二〇、〇〇〇を有する三都市、ヴィスマール、ギューストロウ、ノイシュトレッツを包轄する中位都市の一系列が續く。が、この三都市には猶バル



第二七圖 メックレンブルヒに於ける人口密度

キム、ノイブランデンブルヒ、ヴァーレンも亦從屬する。人口一五、〇〇〇に至るまでの比較的大きな都市的中心は統一した線影を以て描出した。ところでそれ等諸都市には往々多くの小都市形態や多數の村落が從屬する。都市中心は勿論交通上或はその他の意味で重要であると云ふことに相即して發展して來た。その限りでは一種不規則な分布をなしてゐるといふことに不思議のあるべきやうはない。だが諸小都市（人口一三、〇〇〇から一、五〇〇に至るまでの、黒圓を以て表はした）がこの不規則性を、主として中心の間に介在するそれ等の位置に依つて、如何にして一定の仕方であらうかが明瞭に觀察され得る。一、三〇〇人の大きさに至るまでの小都市圓球は、事實小都市の撤在が強く平均的に作用する仕方を示すために黒くしてをいた。

人口一、五〇〇以上のより大きな圓球は如何に常に相互に一定の疎隔を保つてのみ現はれるかが一目瞭然に觀察され得る。シュヴェーリン、ヴィスマール、グューストロー、ローシュトック、ノイシュトレリッツ、ノイブランデンブルヒの疎隔は約三〇軒である。ヴァーレン、ノイシュトレリッツも同様である。シュヴェーリンからバルキムまで約三五軒、ヴァーレンからグューストローまで四五軒、シュヴェーリンからグューストローまで約五二軒である。この最後の距離が現に表はれてゐる最大の疎隔である。従つて、場合に依つては起るかも知れない計地經濟及定住事業の建設に當つては、新農民社會が一定の都市小中心點でもあり得るといふことが結論され得る。そのやうな都市は例へば矢で記號付けた都市である。それに對して縣の縁邊に接する諸都市は勿論注視される。要がない。何故ならば、これがためには人口密度圖が隣接縣まで延長されなければならぬことになるからである。茲では單に、都市中心がラントシャフトの中へ假り初めに入り込むことから始まつて、都市がそれ以上の發展を遂げるための萌芽を見出す試みがなされ、ば足りる。かうした目的からこのことは茲では當座の行政境界、即ち郡境界、縣境界から獨立になされる（第三〇頁以下参照）。其處で述べた都市は、新工業の性質に考へ及ぶとき、特に交通状態が異常に本質的なものとなつてゐるのであるから、明かに無制限に建築能力をもつものであつてはならない。土壤の品質も亦勿論周密に顧慮されなければならない。このやうな事情であるから、創設或は擴充のために好條件な地域を、現在の交通要路や或は新しく竣功された交通要路（自動車道路、鐵道、水路）に沿つて、植民政策的、經濟機構的觀點の顧慮のもとに、如何にして見出し得るかといふ方法だけを叙述しようと思ふ。

圖表に基いて更に大都市中心點を取り圍む小都市を觀察し、その際特に人口二〇、〇〇〇の二都市ヴィスマールとグューストローとを立ち入つて調査するとき、人口二〇、〇〇〇の都市の經濟領域には常に小都市に住む一定數

の人間が従属するといふことが全く明瞭に看取される。更に、それには村落に住む或る数の人間が附け加はる。小都市は當然その扶養をそれを取り巻く村落からも亦受ける。従つて、ヴィスマールとグューストローの二都市にとつては纔に大略細い線を以て周りを極限した圏域だけが残る。このことは例へば都市グューストローが遠くからも亦扶養を受け得るといふ事情のないことを意味してゐるなどと考へてはならない。だが、ブレンツラウ圏域を精確に描寫するに當つても亦、どのやうにして或る地方面積が各都市に從屬されるかを見る(三九頁以下参照)やうに思はれる。このことは特に小都市と大都市とが有する間隔から結果する。例へば、グューストロー圏域を觀察して、この都市にとつては圏域境界がいはゞ經濟領域にも亦適應することを認めるときは、グューストローを取り巻く四つの小都市が如何にして圏域の縁邊領域をいば要請してゐるかが分る。その際、一方グューストロー自身にとつては一の核領域が残されてゐるのである。このことは行政上の圏域境界が經濟上の境界と合致しないときにも亦本質的には變らないであらう。原則としては兎に角都市グューストロー(人口二二、四六四を有する)にとつて、全くの概算で約七二、〇〇〇軒の面積が残つてゐる。ノイシュトレリッツ(人口一九、四一五)は大略六五、五〇〇軒の圏域を有する。

「海濱都市ヴィスマール」にとつては、その著しく強度の人口數(一九三三年度に於て二七、四九三)にも拘らず、纔に六一、〇〇〇軒の關係領域が結果するにすぎないとき、土地需要の些少なことに對する説明は、直接に海に依つて調達される食料品(例へば魚類)といふ支柱の中に探索されるよりは、寧ろ海邊に位置することが適當な水路を辿つて遠隔の地帯からも亦食料財を齎らして來る便宜に恵まれてゐるといふことの中に探索される。その位置するところが、大海の邊であらうが、一大内海の邊であらうが、或は河流の邊であらうが、水域に位置



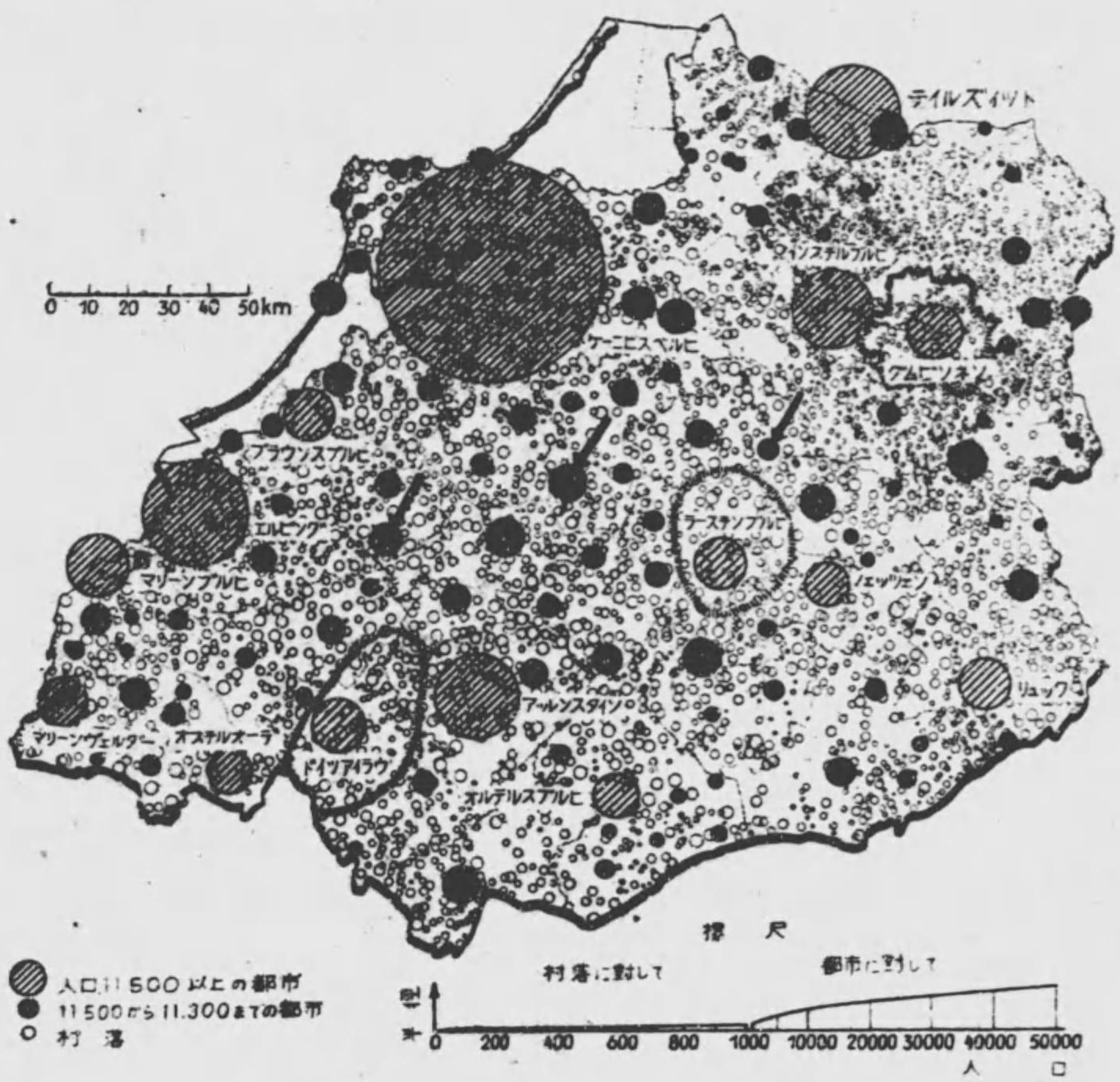
することは、ジードルングを食料供給圏域から獨立に成立させる。だがそれにも拘らず、何よりも先づ土壤の収益能力が都市の有つ農業上の供給領域の大きさ限定に對して決定力を與へるものである。

例へば、ヴァーレン市並びにシュヴェーリン市に於ては都市から自由な圏域が本質的により大きい。何故ならばこの兩都市の近郊には極めて大きな、これまでは稀薄にジードルングの行はれた面積が見出されるからである。この際、これらの面積が現在山林に蔽はれたり或は湖沼等に依つて充たされてゐるか否かといふことは全然考察の對象とされてはならない。茲に人口二〇、〇〇〇の都市に對する圏域として概括される面積は従つて單に偶然的課題としてのみ考察され得る。かうした都市に對して農業上供給力をもつ住民數の概算も亦同様である。

都市	面積	人口
ヴィスマール	六一、六〇〇 ha	一七、四七五
グューストロー	七二、〇〇〇 ha	二四、二〇〇
ノイシュトレリッツ	六五、五〇〇 ha	一〇、〇〇〇

ノイシュトレリッツは著しく小さな値數(ブレンツラウ亦然り、第三九頁以下参照)を示してゐる。恐らくは、より大規模な農務に依つて、その上尙都市近郊に於ける比較的廣い範圍に渉る稀薄にジードルングの行はれた領域に依つて、此處彼處と局部的に限定されてゐるかのやうである。

ノイシュトレリッツは例へば太公居住地として發生した極めて僅少の工業をしか有しない都市である。これは多くの商業上の往來と公務に結びついたそれ自身では無職業的——自立的——都市群に屬する。事實、茲では農業が正當な強度に於てある(B型都市参照)。その上ノイシュトレリッツ市自身極めて多くの土地を所有してゐて、面積



第二八圖 東プロシヤに於ける人口密度

區劃の中に計畫されてゐる十都市のうち最大の版圖の一を所有してゐる。

この種の更に廣汎な試みは東プロシヤに及んでゐる(第二八圖参照)。茲に都市大圓舞として登場するものは、ケーニッヒスベルヒ、ティルズイット、インステルブルヒ、エルピング、マリエンブルヒ、リュック、マリエンヴェーダー、ドイッチェーアイラウ、オルテルスブルヒ、アルレンシュタイン並びにレエツエンの諸都市である(人口一、五〇〇迄のものに平行線で影を付けた)。その際、人口二〇、〇〇〇を有する試案都市に屬する、オーステルオーデ、ラーステンブルヒ、イブラウン

スプリヒ及グムピンネンには、その周圍にギザ／＼をつけた。人口一、五〇〇以下約一、三〇〇迄の小都市には黒點記號を用ひてをいた。茲では、この小都市中心、特にケーニッヒスベルヒの南部に於ける小都市中心の異常に均衡のとれた分散が、前の場合よりもなほ明瞭に看取される。それ自體で人口約二〇、〇〇〇を有する四都市を觀察する場合、この量を有する協同體に往々常に若干の下部小都市が附加する。しかも、其の下部小都市と合體して經濟領野が形成されるといふことは、茲でも亦殆ど到る處に看取される。四都市に固有な周邊地面積も亦比較的容易にその輪廓が附けられる。グムピンネン、オーステルオーデ及ラーステンブルヒに對しては、既に大略輪廓付けを行つた。グムピンネンに於ては、行政上の圈面積が、略々グムピンネン市に所屬する周邊地と合致するやうに見える。

勿論メツクレンブルヒに對して既に爲されたと同様の制限がこの大略の面積調査にも妥當する。三都市の周邊地のための面積と人と數は大略次の通りである。

都市	面積	人口
グムピンネン	七二、八〇〇 ha	三一、〇〇〇
オーステルオーデ	九一、二〇〇 ha	二六、五〇〇
ラーステンブルヒ	七〇、〇〇〇 ha	三六、六〇〇

東プロシヤに於ける大都市は相互に異常に大きな疎隔を有する。

アルレンシュタイン——ケーニッヒスベルヒ……………約一〇〇軒
 ラーステンブルヒ——ケーニッヒスベルヒ……………約九〇軒

インステルブルヒ	ク	八五ク
テイルズィット	ク	一〇〇ク
ライステンブルヒ	ク	七〇ク
エルビン	ク	八〇ク

最少の疎隔は次の諸都市間に見られる。

インステルブルヒ—グムビンネン	約 二五ク
エルビン—マリエンブルヒ	二五ク
ライステンブルヒ—レエツェン	二五ク

メックレンブルヒとの比較から、東プロシヤに於ける商工業中心點は多く小都市に依つて形成されて居り、大都市は遺憾にも相互に極めて大きな懸隔を有してゐるといふことが判明する。工業とのより強度の混融が造られる結果は、大圓舞臺の中に廣汎な隔りを以つて多くの都市ジードルンクが相互に發生し（例へば矢を以つて記したものの）、かうして各場所の市場距離と文化距離とは除去される。

この考察を通じては、縱に各都市の農業上の供給領域としての背後地域或は周辺地の必要性に目が向けられれば足りる。周辺地は事實都市の生産財のための交易市場として重要である。都市とそれを取り圍む土地が扶養上及經濟上接近してゐるだけ、益々綜體的な生活經過の結末は、地方に於ても都市自身に於ても、組織的であり自然である。かうして、文化上及經濟上對立する結實が最も強烈である。第三帝國の若干の州域の場合には、彼等を取り圍む土地に依存して生活し得るといふことが不可能なのに、他方人間が絶えず稠密に集められて定住するなど

いふことは行はれない。彼等の扶養は遠く距つた農業領域からその周旋を必要とする範圍に齎らされる。しかしして農業領域はそれ自體の側で商業或は工業とのより良き混融を再三要望することになる。新しく發生する工業活動の大多數は、まだ猶餘りにも稀薄にしかジードルンクの行はれてゐない。これ迄工業のなかつた領域の場合には、特別の困難なく設定される。量的に特に廣大であり、もとの状態のままでは運搬し難い原料（石炭、鐵礦等）の生産に結ばれてゐるやうな工業だけが除外される。立地に關聯しない業務の轉移、従つてまた大都市及現今工業中心點に密集し過ぎてゐる人々の著しく大部の轉移は、原料並びに國家に依つて要求された負擔のための荷主制限に依つて容易になされ得る。計畫に準據した圏域秩序はかうしてのみ可能である。高度にジードルンクの行はれた地域に落ちかかる高度の徵稅收入は、人口を確保しようとする試みが行はれるに相違ない稀薄な領域にも亦役立たなければならぬ。例へば既に境界壁並びにボムメルンに於ける街路構築は當該地域經濟の興隆に多大の寄與をなすであらう。

農業地方、主として稀薄にジードルンクの行はれた地域に於ては、稠密にジードルンクの行はれてゐる領域に於けるよりもより擴張された都市の移入領域が見出される。茲ではその他、他の地區への供給品が生産される。然るに一方、工業地域では都市の人間は猶大部分全く他の地域に於て産出される生活資財に依つて生活を営んでゐる。工業地域に於ける所謂「地方都市 (Landstadt)」は、既に幾度かその農業的基柢を斷念し、大都市前景地の性格を帯びて來た。移入領域量並びに扶養されてゐる殖民の頭數に對する通常値數は、土壤の品質と經濟形式に依存するのであるから、直ちには見出され得ない。だがどんな場合にも、工業地域に於いては都市に農業品を供給する周辺地は大抵小さ過ぎ、農業地域に於いては大き過ぎるのが當然であるといふことは確定的であるといつていゝ。だが、獨逸の農業的或は一般に經濟的自立化は、事實吾々をして縣單細胞並びに大聚落の自立化に向つて漸次努力せ

しめることであらう。この問題に就いての根本的研究勞作を成就することは徹頭徹尾骨折り甲斐のある課題である。殖民(一定の土壤の上に、一定の經濟機構に於て、一定の聚落量の中に集約された殖民の)扶養のために必要な所有地の大きさ如何といふ問ひは漸次重要な意義を獲て來るであらう。若干の例を擧げて、少くとも量秩序の實際的計畫に對する大ざつばな支點を示して見よう。

祖國に於ける各ドイツ人のために〇・七四軒の面積が自由になると云ふ指示に依つて、廣汎な標準値數が保持される。それは七、四〇〇平方米である。勿論これは特に良質であるか或は特に惡質である土壤に對する規準として考へられてはならない。水面積、荒蕪地、交通面積には茲では關係しない。だが、ジードルングの人口數をこの數(〇・七二軒)と掛け合はすと、背後地の大きさに就いての凡その概念が得られる。

この問ひに就いての第二次調査が、今や尙、周邊地の第一次調査方法並びに新ジードルング面積に對する新しい充當地の發見に連結されなければならない。第一部は人口密度から發足した。第二部は行政圏から始める。

(b) 行政圏に從つて

一、圓都市、その機構並びにそれを取り圍む周邊地の機構

四二都市に就いての精密な觀察は、ドイツ地方圏の差異が人口二〇、〇〇〇の圓都市の選ばれた計量規準に於てさへ著しく大きく、圏及圓都市並びに圓都市關係領域量自體の面積量、人口數、人口組成に對する規範を發見し得ないと云ふことを示してゐる。それにも拘らず若干の類型となる構造が示される。

ドイツ市町村會長エーゼリッヒ博士はドイツ地方圏の研究に於て同様の結果に達した。彼は吾々と同様に圏はその行政政策機構に從つて根本的に相異した課題を有するとの見解を持つてゐる。工業圏は強度に農業的な圏とは異

つた課題を有つてゐて、繰り返して全く異つた行政課題を施行しなければならず、且つ又ドイツ境界領域に於ける圏と同様に全く異つた機構建設を實施しなければならない。それに對して圓周的に大都市に連繫される圏の機構關係は孤立的位置の圏とは全然異なる。エーゼリッヒ博士はドイツ地方圏の發生並びに類型に就いてなほ極めて興味ある思想經過を開陳してゐる。

既にドイツ地方圏の發生史は往々個々の行政類型の差異を説明する。

個々の各類型の形式化に對しては政治的、經濟的並びに社會的因素が決定的なものであつた。エーゼリッヒは茲で次の類型を引用してゐる。

(1) クルト・エーゼリッヒ、ドイツ地方圏一九三七、XIV—Joseric, Kurt, Die deutschen Landkreise 1937, XIV.

1. 恒久的類型 (Ständige Typus)

これはプロシヤに於て最も強度に認められる。

2. 合理的、行政技術的的地方圏 (rationale verwaltungsrechtliche Landkreise)

この形式はザクセン及バイエルン並びにバーデンに於て認められる。

3. 地方圏の合理的類型と同一系列に立つものに第三のものがある。即ち、茲では地方の圏形成に對して本質的に經濟的であるか或は地理的である觀點が決定的である。

4. 地方圏の最後の類型は純粹に聚落的な必要から展開される。

茲に特記された差異に加ふるに、尙圏の經濟機構に依つて制限された差異がある。この影響から地方圏、圓都市並びにその周邊地の量關係の大きなヴァリエーションが説明される。

ドイツ市町村會首腦部の例年の會に於ても亦、圈制の新秩序、特に地方圏の新秩序といふ問題が緊要なものとなされた。といふのは、郡長ルードヴィヒ・ザールフェルト⁽¹⁾氏をして云はしむれば、地方圏の活動が實現されてゐる地方圏の殘餘形式は、國家社會主義的革進と同時に行政の中へ素き入れられた新精神と今猶相應してないか或は纔に必要な範圍で適應されてゐるに過ぎないからである。

(1) Deutscher Gemeindetag, Jahrestagung 1937.

圈制 (Kreisverfasungsrechts) の新秩序は容易な課題ではない。それは、纔に、追ひ越された形式が除去されて新しい形式がその代りに置かれるといふことの中にのみ成り立つ。そのためには、寧ろ新しい法が妥當すべきであるドイツ地方圏の新しい創造的に形成することが肝要である。郡長ルードヴィヒ氏は、事實、「地方圏の、法の事實的機構行政上の態度、行政上の均衡は全然異なる」といふ、吾人の調査を是認した意見を持して居られる。

更に、地方圏に關する將來の形成に於ける量並びに人口數の最も合目的な規範化に就いてなされた帝國內務大臣フリック博士の詳論は極めて解明的示唆に豐んだものである。その所説は明晰であつて根本法則的なものであるから當大臣談のこの部分を遂語的に茲に再録する。

(2) Deutscher Gemeindetag, Jahrestagung 1937

「吾人の眼前に搖曳するが如き地方圏の規範量に就いては最近ミュンヘンで談話した通りである。その際吾人は既に規定の人口數を六〇、〇〇〇—一〇〇、〇〇〇と指定した。將來のドイツ通常地方圏はその人口數内でなければならぬ。その際、通常の場合往々特別の場合をも亦經驗し得るといふことが、自ら理解される。従つてさうした事情から、從來其處に成立してゐるものより

はより大きな地方圏を多數の地方に於て創るといふ事態が、近いうちに問題とされるに至るであらう。現今の事情のもとに於て、唯吾人が記述した量の状態に於てのみ、秩序ある地方圏の遂行を保證する十分に伸展した活動領域と十分な作業能力を有つといふことは地方圏に對しても亦妥當する、が他面地方圏のこのやうな大きさは地方圏行政といふ民族的近親をも亦保證するものであるが、これは將來も猶如何なる事情のもとに於ても斷念されることはあるまい。

地方圏の新しい創成に當つては、吾々の考へるところでは、行政政策と共に全然異つた經濟政策的必然性が企てられ顧慮されなければならなかつた。このことは、吾々が確立し、主任エーゼリッヒ博士が機構試案をなした後、これまで殆ど起らないことだつた。ドイツ地方圏の經濟領域に就いての次に述べるやうな試案はかうした觀察に對する具體的な基礎であると思ふ。

茲に列記した試案はジードルング新設に當つての前進し得る支點として役立つ筈である。例へば、都市の新設といふやうな場合に際して實施さるべきだつたやうな簡単な試案は、更に下の場合にも亦適用されてゐるのである。

二、ドイツ地方圏に所屬する諸都市の經濟領域

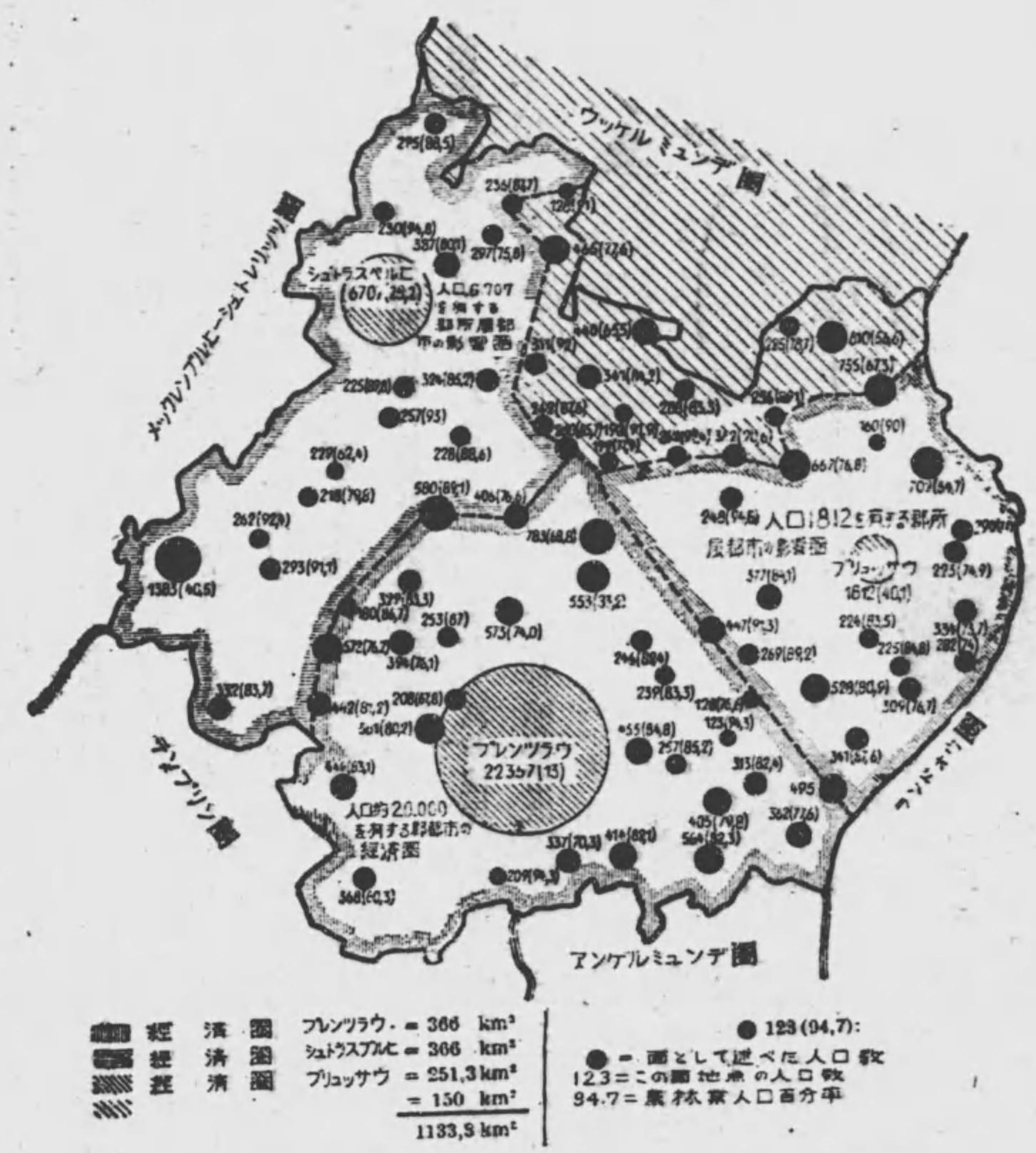
吾々は典型的なドイツ地方圏をウッケルマルクの中に企圖した。即ちブレンツラウ⁽²⁾である。この地方圏は大地方經濟流域を有して大都市から可成り遠隔の地に在る。將來ジードルングを設定するに際しては、主として類似の機構を有する領域が問題視されることにならう。比較的大きな隣接都市(人口二七〇、七四七人を有するシュテッティン)が圏都市から四五軒離れてゐる。従つて既述の孤立状態に在る地方圏が問題となる。調査の結果、圏都市を周つて、總計人員一一、二五五人を有する三二地方協同體から成る奥結した經濟地域が流布してゐるといふ事實が確められた。

この經濟領域は圏都市の直接的な生活圏として特色づけることが出来る。都市の經濟的生活能力が保證されなければならぬものとするとき、このやうな周邊地は地方自治體の必要数を以つて現存しなければならぬ。この經濟境界は地方自治體或は大都市が近接して現存する事情に應じて往々異つた経過をとることにならう。土壤財とジードルングの密度が本質的役割を演ずるであらう。この際、周邊地に在る地方協同體の農業人口の百分率、商工業の分割が特に重要である。圏都市の商工業人口とそれを取り巻く地方協同體或は大都市間の交通關係は異常に大きいことにならう。

大都市の大きさとその經濟機構はこの事象に依存するであらう。

研究中の地方圏プレントラウの場合には尙圏に屬する二つの都市協同體がある。一つの小都市は六、七〇七の人口を有し、他の一つは一、八二二の人口を有する。

吾々は、地方圏に於けるこの協同體の經濟的合流を特に圏建設指導者と經濟顧問の助言に依つて調査し確立した結果、地方圏から人口六、六九〇人を有する二〇の地方自治體（シュトラスブルヒ市の流域）と四、五二二人を有する一四の地方協同體（ブリュッシャウ市の流域）とが經濟的に姿を消した。圏都市に對する扶養圏域として、繼に第二九圖に見られる經濟境界が存立し残つた。勿論それにも拘らず尙この地方協同體と圏都市との經濟的結合は支持されてゐる。既に、地方住民と中間局地の市場施設との間の交通の必要から、また官公行政施設及交通施設からさへ、圏都市との間の經濟的錯綜が生ずる。然し都市の經濟的生活能力と自立性は狭い經濟地域の中に在る地方協同體に依つて保證される。地方圏内に於いては、北東部の場合、圏都市プレントラウの狭い影響領域より尙廣い人口五、五三〇を有する一七協同體が脱落する。この協同體は文化上經濟上バーゼヴァルク市に凌駕される。隣接圏に屬するこの都市は、行政上プレントラウ圏の一五〇平方杆まで包括する北東部に所屬する協同體の全經濟的潮流



第二九圖 ドイツ地方圏（プレントラウ）所屬都市の經濟圏

を自分自身へ吸収する。

行政圏プレントラウ（一、一三三・三平方杆）の面積のうち、バーゼヴァルク（一五〇平方杆）、シュトラスブルヒ（三六六平方杆）及ブリュッシャウ（二五・三平方杆）の影響領域を撤去した後に、プレントラウ市の狭い經濟領域として殆ど三分の一（三六六平方杆）しか残存しない。

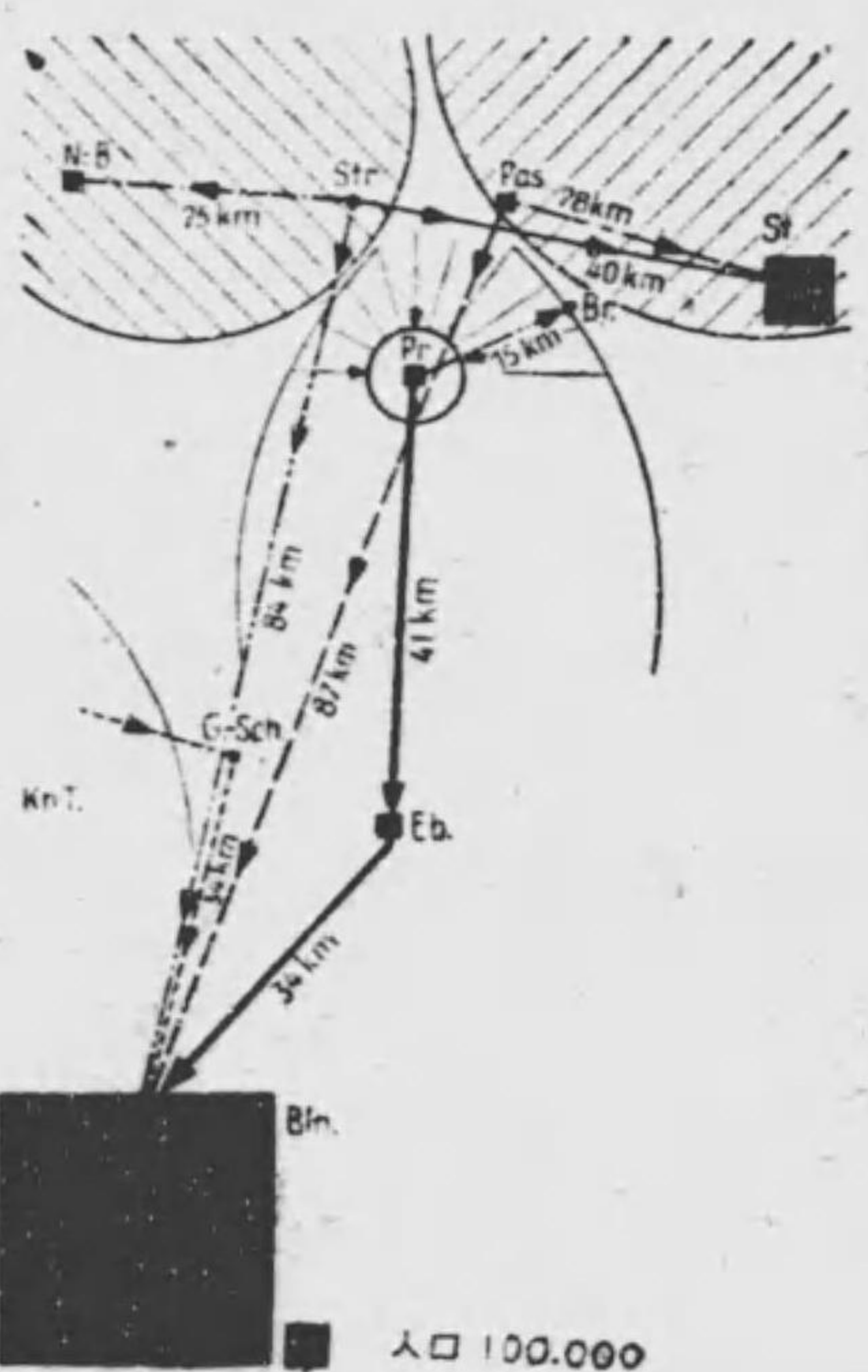
圏都市の經濟領域を調査することに依つて、行政上の圏境界が圏の經濟的影響地帯を以つて覆は

れないといふ事實を確認するに至つてゐる。

ドイツの他の圏に属する經濟地域から一の形像を得るためには、適當な調査が完遂されなければならない。然し衝に當る専門家が明かに説明して居り、吾々も亦調査の中から見て來たことではあるが、圏都市或はそれを取り巻く周邊地の大きさに對する規準を、地方圏の行政區劃の中からは得ることが出来ない。地方圏の行政的經濟的機構に於ける相異は餘りに大き過ぎて、人口二〇、〇〇〇を有する圏都市所屬周邊地の大きさを整備するといふ重大課題に對して普遍妥當的規準を保持する譯には行かないのである。

三、フレンツラウ地方圏に於ける農産物の交易關係

農産物の交易關係は、交通關係以外、尙購買力ある住民を有する諸大都市の現存に依存する。地方圏フレンツラウの中では圏都市が最大の協同體である。その他圏都市は、圏域中最良且つ最も生産能力ある部分である。従つて、



第三〇圖 ドイツ地方圏（フレンツラウ圏）の農業連繫
地方圏フレンツラウはその農産物を何處へ交付するか？

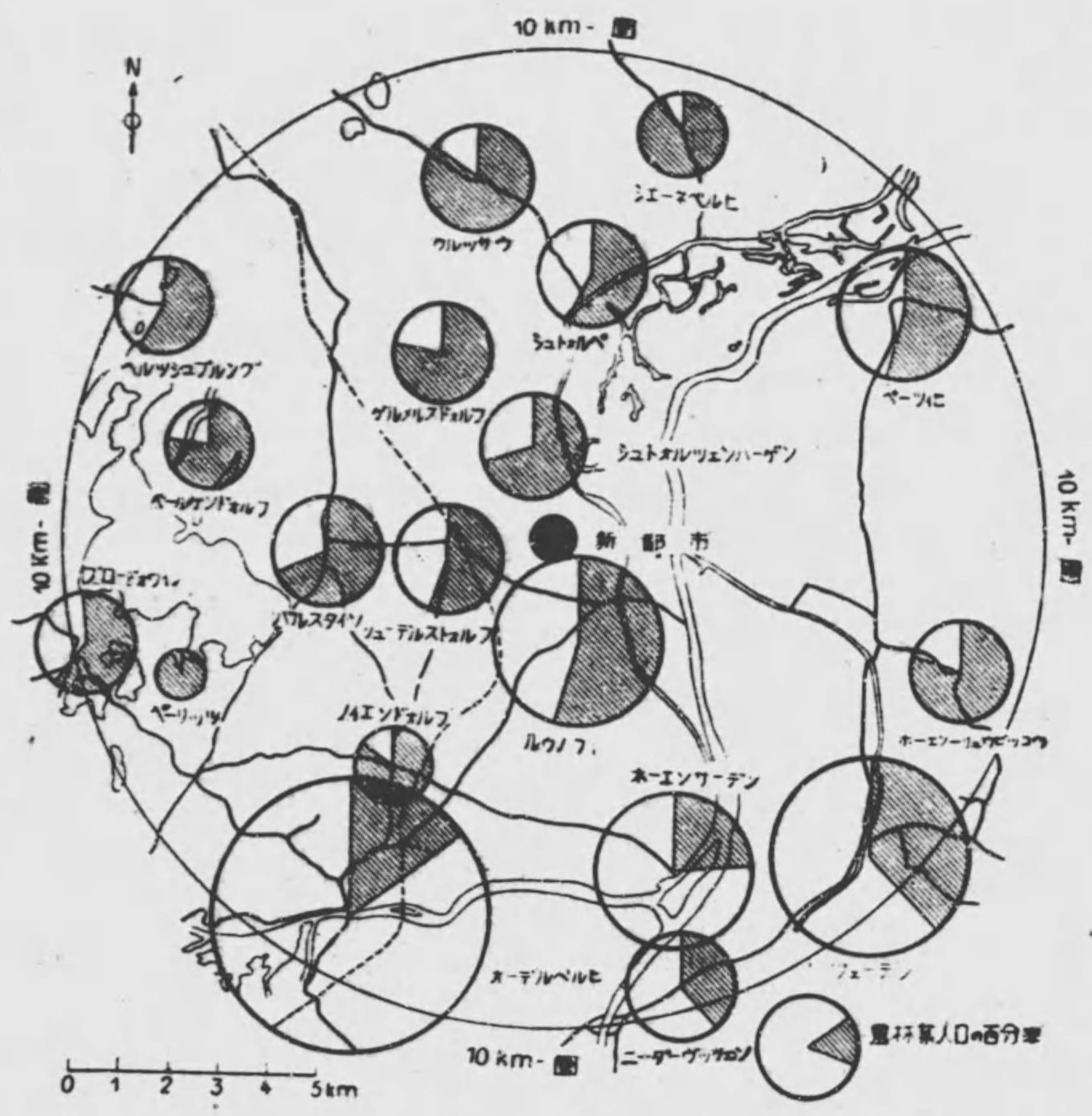
それが交易の場所として大きな役割を果していることは當然である。この事情は尙圏都市へ向つて通ずる街路と鐵道の極めて具合良い分布に依つて強められる。圏中に在る諸都市の外に、尙他の二つの更に遠隔の地に在る都市、就中圏都市ベルリンが交易關係上問題となる。圏域のこれ等諸都市への交付は直接になされないで、圏都市の商業機關を通じてなされる。次に掲げ

る圖（第三〇圖）から、農産物の唯一の交付地帯と交付の經過が看取される。典型的農業領域の圏中心點である都市が問題となる場合、この地帯形成は圏都市を取り巻く經濟領域の大きさ、圏域所屬都市及廣範な周邊地内に在る需要中心としての大都市の數に異常に強く依存する。

3. 人口三〇、〇〇〇の都市新設に當つてのこの述作の適用

範例として、地方圏アンゲルミュンデに在る地方協同體シュトルブ近郊の一都市を展開して見よう。新協同體は人口約二〇、〇〇〇を有してゐなければならない。この都市の機構事情はフレンツラウ圏に於ける機構事情と凡そのところ相應してゐなければならない。農業的條件、土壤事情、大農業流域はフレンツラウ圏の事情と同様の状態に置かれる。新都市は諸大都市の影響地域から十分に離隔された位置に在る。従つて、それは強く孤島的狀態を帯びる。

扱て、新都市の作用半径一〇軒内に人口一五、六九〇を有する二二の地方協同體が存在する。これ等の地方自治體のうち、一四は四〇%以上の農林業人口を有する（第三一圖參照）。これ等の地方協同體は、フレンツラウ圏に在るものより面積大にして人口數も亦多い（人口は面積〇・七五軒に依つて表はす）。フレンツラウ圏の場合には、可成り大きな百分率の農林業人口を有する極めて小さな地方自治體が取扱はれる。新都市の市場近郊の場合には、既に人口三、二三七人を有する一都市協同體と人口一、〇〇〇乃至二、〇〇〇を有する四地方協同體とが存在する。特に目立つことは、新都市周邊地の人口が農林業的見地から見てフレンツラウ圏に在る協同體の場合程強力には混和されてゐないといふ事實である。従つて、新都市の場合、商工業經濟の割當ては當然人口が周邊地方協同體に於ける手工業、商業及交通業へ職掌所屬する高率の割當てに比して百分率的に減少しなければならないといふことにな



第三一圖 農林業人口百分率 新都市の作用する周辺協同體影響圏

る。地方協同體機構とこの地方協同體及圏所屬都市（新都市の確定された經濟圏の中に在る）人口の職掌所屬と新都市の經濟上商工業上の機構との間に行はれる強度の交互作用は全然別種に考察される。

その地域は、地方圏アングエルミュンデ、オーストハーヴェラント並びにケーニッヒスベルヒ/N-EM 圏に依つて經濟上影響される。地方圏オーストハーヴェラントの圏都市は一六・五軒、アングエルミュンデ圏の圏都市アングエルミュンデは一・五軒、地方圏ケーニッヒスベルヒの圏都市ケーニッヒスベルヒは二二軒といふ具合に、直線コースの間隔で夫々新都市から距つてゐる。地方圏アングエルミ

ユンデのうち、次のやうな地方及都市協同體が作用半径一〇軒内に於ける新都市の影響圏になる。

地方圏アングエルミュンデの地方及都市協同體

協同體	人口數	農林業人口百分率	協同體	人口數	農林業人口百分率
シュトルツェンハーゲン	四一七	四九・五	クセルツェン	四九六	八五・七
シユトル	五一二	五八・六	シエーネベルヒ	二五三	九二・九
ゲルメルスドルフ	三三五	七七・九	ヘルツスブルグ	三三八	五九・五
リューデルスドルフ	五四一	五五・一	ペールケンドルフ	二四九	七七・九
パルス	四二三	六八・八	ブロードオウイン	一〇五	九二・九
ノイエンドルフ	一八一	八五・六	ノ	四五七	六一・三
ホーエンザーテン	一、〇〇〇	二二・七	ノ	一、四一〇	五四・四
オーデルベルヒ	三、〇〇〇	一四・四	計	九、九五四	

地方圏ケーニッヒスベルヒ/N-EMの地方及都市協同體

協同體	人口數	農林業人口百分率	協同體	人口數	農林業人口百分率
ベーツィヒ	七四〇	五四・五	エーダーザツツェン	五〇五	三八・六
ホーエンリュービッホフ	四一六	八〇・〇	計	三、四三六	
ツエーデン	一、七七五	三七・四			

(1) この表は「ドイツ國家統計職業數」四五四卷四號からとつた。

ブレンツラウ市の経済地域は面積三六六平方杆に人口一二、一二五を有する。新都市の経済地域は人口九、九五四十三、四三六一一三、三九〇を容れる。従つて謂はゞかうした影響地域は、新都市の経済地域として他の舊都市を消失せしめるといふ事情を算定しなければならぬ。この地域の交通開通は強く新中心點に向つて方向付けられなければならぬ。この周辺地なくしては新ジードルングは生命を有しない。従つて新都市内に新工業を設定する場合、新協同體は一切に涉つて固有の生活を營むため強固に地方と結びつけられなければならない。かうして新協同體は實際にその根柢を把握することが出来ることになるのである。

B、都市建設上の機構

1. 道路

増大し行く都市の人口率と同時に、住民の扶養に要する周辺地と、従つてまた生産物を都市市場に持つて行くための地方植民から都市に至るまでの距離とが發展する。同様にして人口數の上昇と同時に、作業者が職場に至る道路と主婦が買ひ入れのために往來する道路が長くなる。

人口二〇、〇〇〇から四〇、〇〇〇に至るまでの状態の下に在る都市の場合には、このやうな一般の生活基準に基いて棄脚され得るものは纔に賤賤し行く交通手段だけであらう。といふのは合理的計畫に於いては、都市制度内部の云ふに足るほどの距離も問題とはならず、總量も大き過ぎるものとなることはなく、また組織も複雑過ぎるものとなることのないからである。

(a) 職場から住宅に至る道路

ベルリン工科大学に於けるジードルング制度、圏域秩序、都市建設各講座の豫備的研究結果は、フィルム アム ビーツド・ベルリン・ニードルシェーネヴァイデの二、二九四人の作業者が職場から住宅へ往還する平均道路として、日々四一、九〇〇杆の道路が要せられる事實が判明した。このキロメートル數は赤道圓周を踏み越えること約一、九〇〇杆であつて、これを個々の従業員に就いて換算すると、住宅から職場までの日々の平均一行程が直線コース九・一杆の延長に當る。

個々の従業員に就いての平均消費時間は日々四六・九分となる。

ベルリンのその他の機構、フィルム ローレンツ株式会社とかベルリン聖堂庭苑とかの場合には、部分作業が二四〇人の作業者の割當を以つてなされた。この二四〇人の作業者は日々三、五〇〇杆の道中を通つたことが確かめられた。これはベルリンからコンスタンチンノーベルまでの往復の距離(直線コース)に相當する。

また吾々の確めたところに依ると、それは住居から職場に至る一行程が一個人に就いて直線距離七・三杆に當る。

平均進行時間はこの場合有業者にとつて五三・八分となる。

圖に示した叙述から(第三二圖)、作業者の住宅が都市の都市圖の中で如何に散在してゐるか、また住宅から職場に到達するためには個々のものが時間や金錢の浪費の外に如何云ふ交通制約の障礙に架橋しなければならないかが分るであらう。

(1) フィルム ローレンツの従業員が平均經過距離直線コースで七・三杆、時數五三・八分を要するのに、他方アムビーツ

ド工場の各従業員が直線コース九・一杆、時數僅かに四六・九分で行動出來るとするとき、この明白な矛盾の説明は全従業員

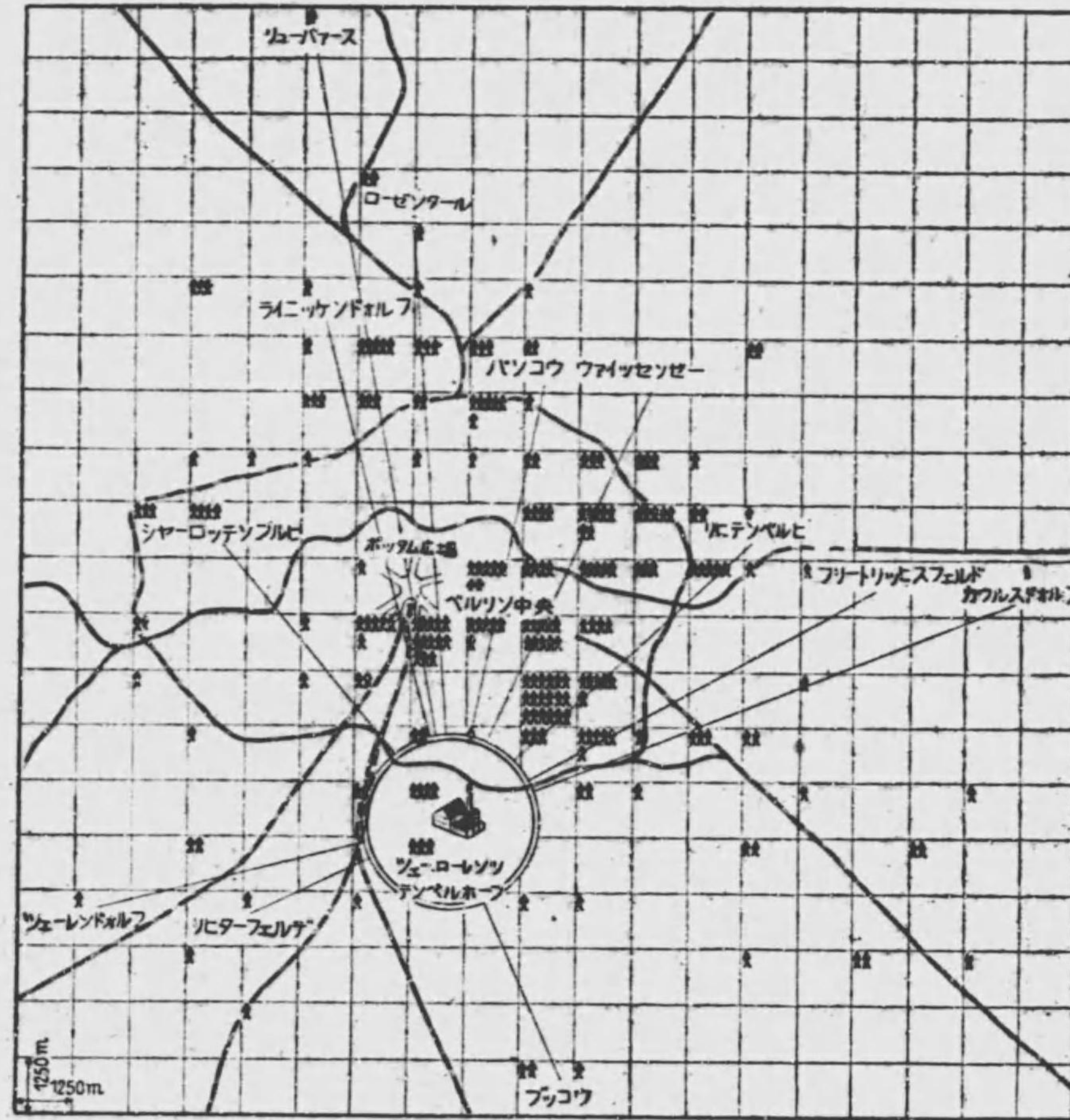
員の自由になる大都市の快速交通手段の數と種類との中に見出さる。

それに反して小都市の人間は平均一〇—二〇分直線コース約一・二五軒の道を有するに過ぎない(第三三圖ウルツェン参照)。

(b) 購買道・路

主婦の購買道路は大都市の場合には極めて遠く極めて時間がかかる。日の需要ならば猶大抵の場合は住宅の近くのパン屋や肉屋等で手に入れられる。だが新ジードルングの場合はさうした商賣もない。従つて主婦は「街市へ車を駈ら」なければならぬ仕末になる。靴とか衣類とかいふやうな稀かの購買は、主として都心の一層よく装備した大商店の中で給與される仕組にならなければならぬ。そのためにこの都心は大抵純ビューロー及商業地区となつてゐて、僅かにその他のものと云つても住宅は殆ど包含してゐない。街市(City)へ至る道路は交通手段で通過されることになる。

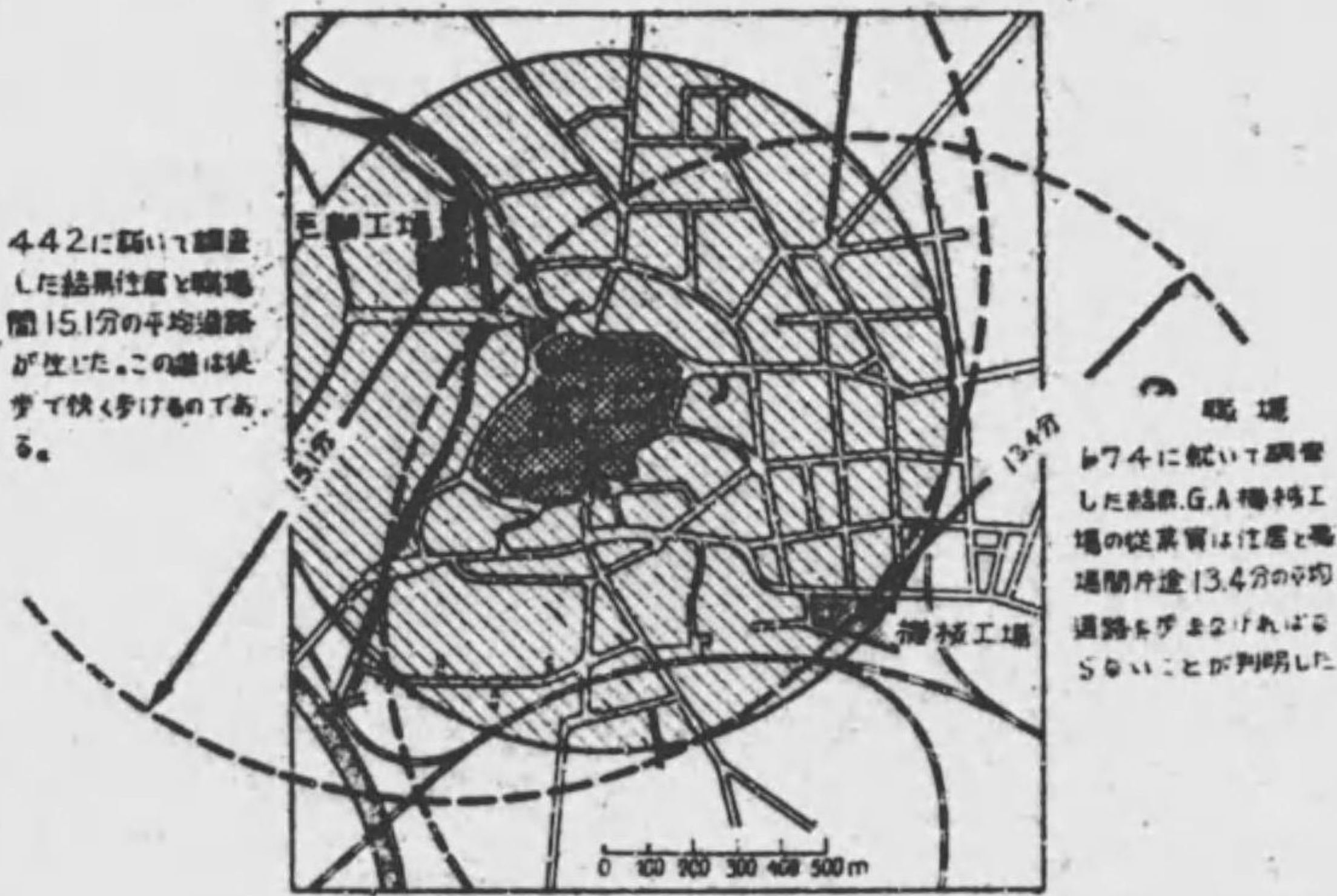
都市の東側に住んでゐる一主婦は日々の需要(パンとか肉とか)だつたら近所で手に入れることも出来よう。だがそれに反して、日々の需要に入らない(衣服とか靴とか)購買の場合には往々數軒の道程を通らなければならぬ。



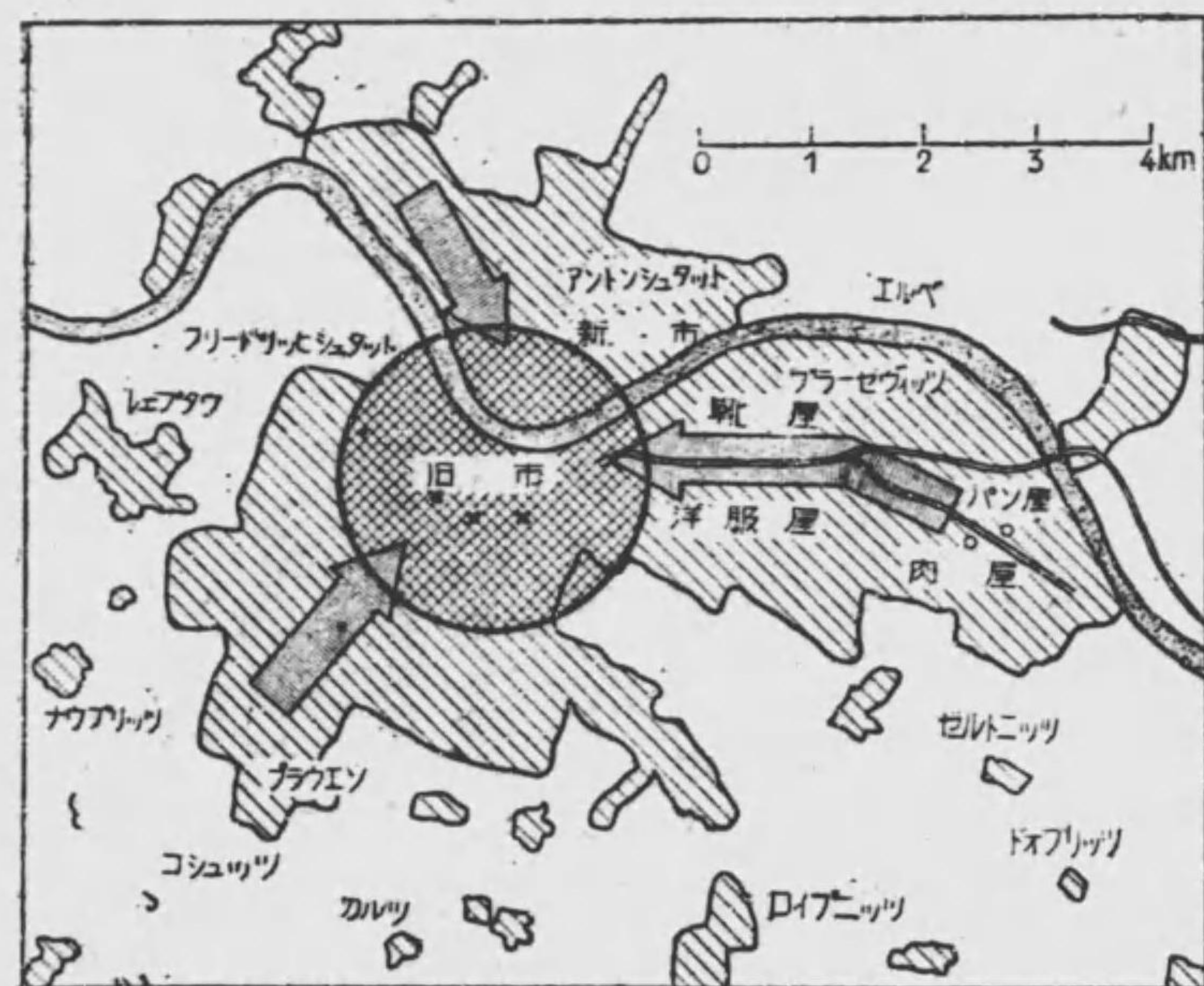
第三二圖

240人の勞務者が日々3,500kmの道程を通ふ。これはベルリン—コンスタンチノーブル往還の距離に相當する。

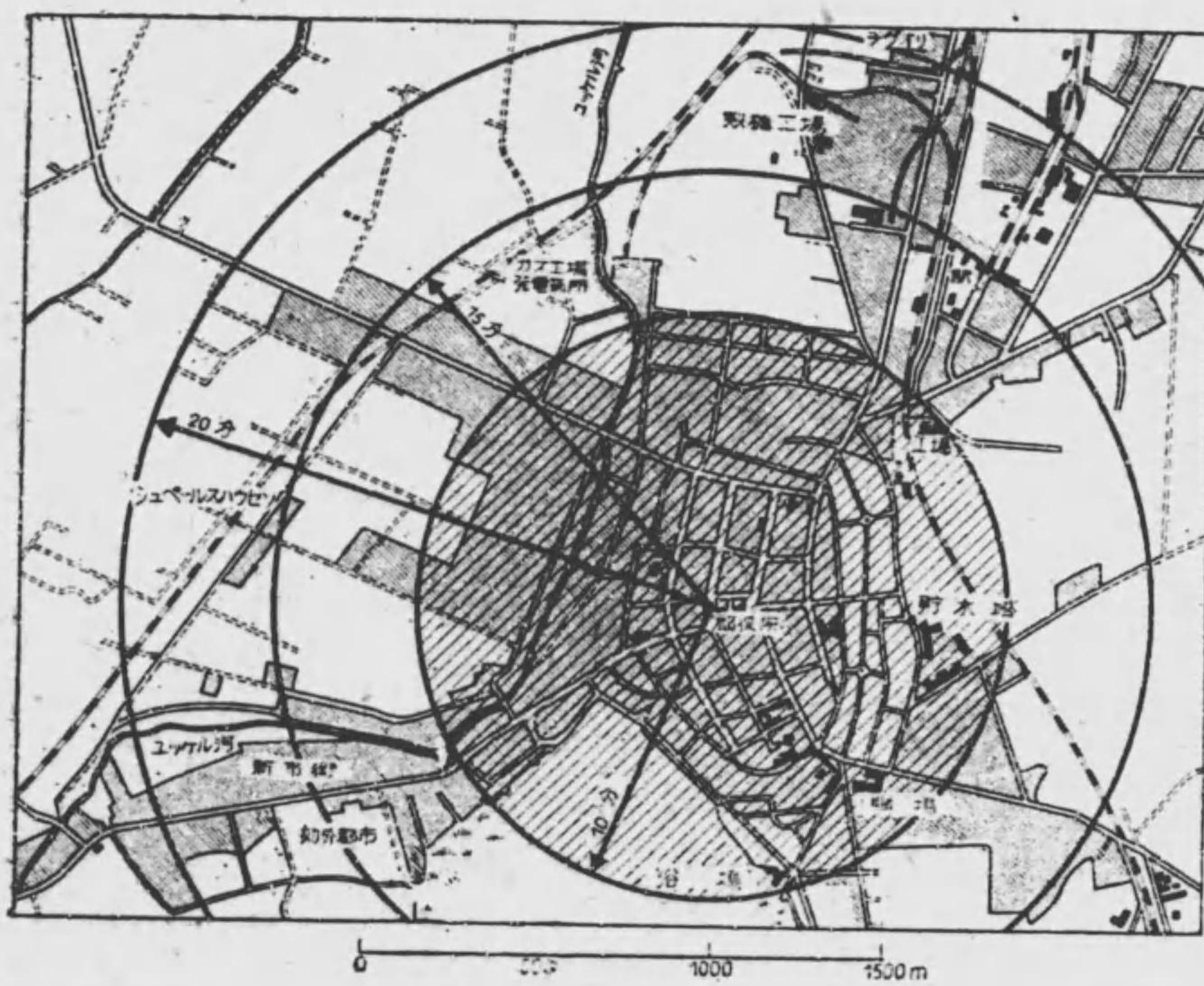
フィルマ・ローレンツ・エイゼー、ベルリン—テムベルホーフの部分業務に關係する全都市に涉つて散分した住宅。



第三三圖 人口約20,000の都市の主要住宅地域は半径約800mの圓内に在る。従つて都市に於ける道路は全然徒歩で済まされる。



第三四圖 ドレスデン (人口 649,000) 廣範な購入路



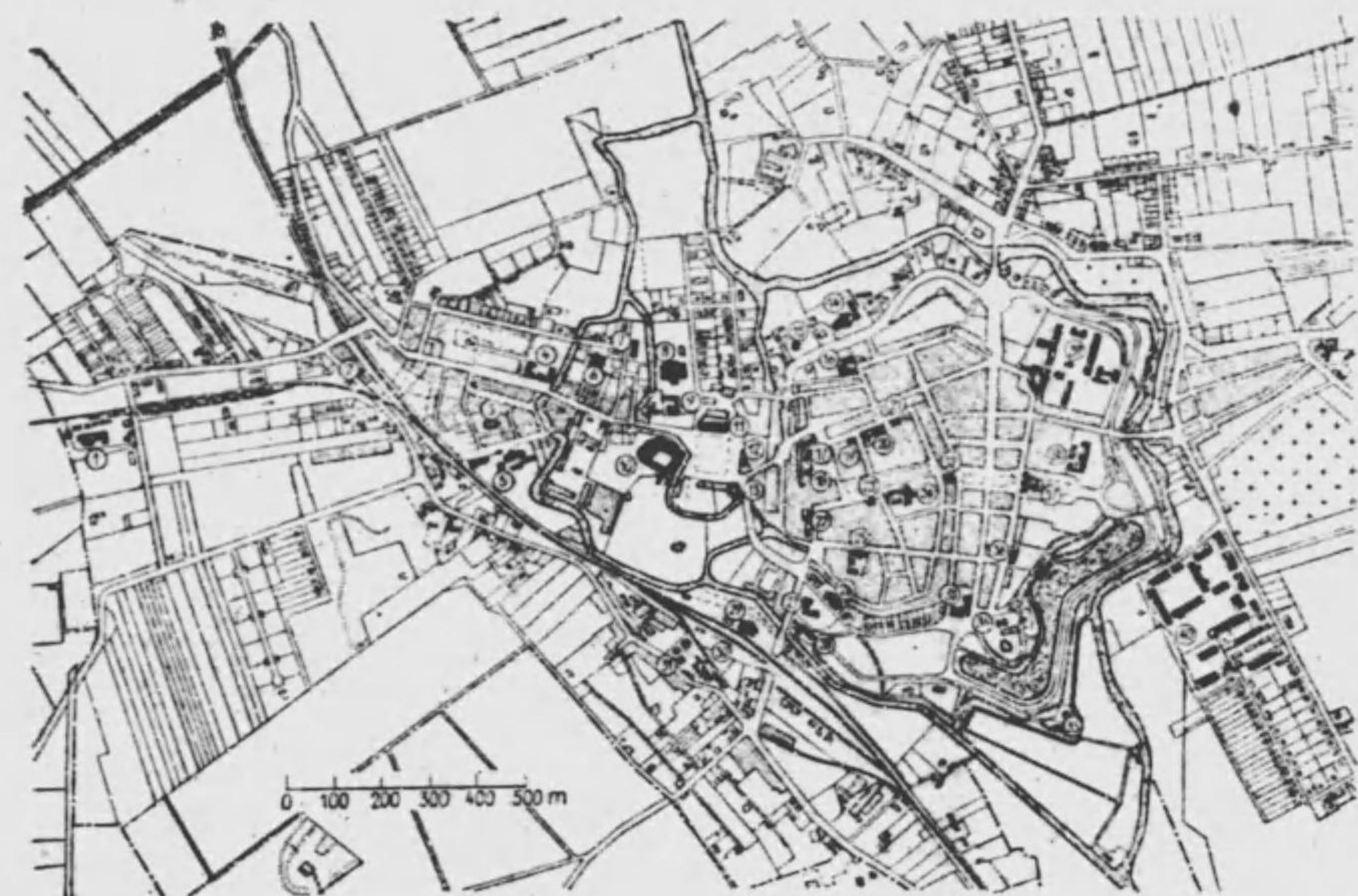
第四五圖 プレンツウ (人口 22,357)。人口 20,000 の都市の主要住宅地域は都市中央まで 10 分の道程の地帯内に在る。都市境界から中央までの最長距離は約 20 分の道程である。

い (第三四圖参照)。従つて主婦は交通手段を利用しなければならぬことになる。

小都市の場合には、住宅から商業地区への距離は精々歩いて十分間の道のりである。商業特にビュロー地区と住宅地区との間の分離は大都市或は世界都市の場合程鋭く明瞭ではなくて、都心が茲では多くの人間に住居の可能性を呈示してゐる。従つて、購入に出かける主婦は彼女と家族との必需品を手に入れる機會の悉くを住宅の最も近くで見出すことになる (第三五圖参照)。

2. 都市建設上の区分と核形成

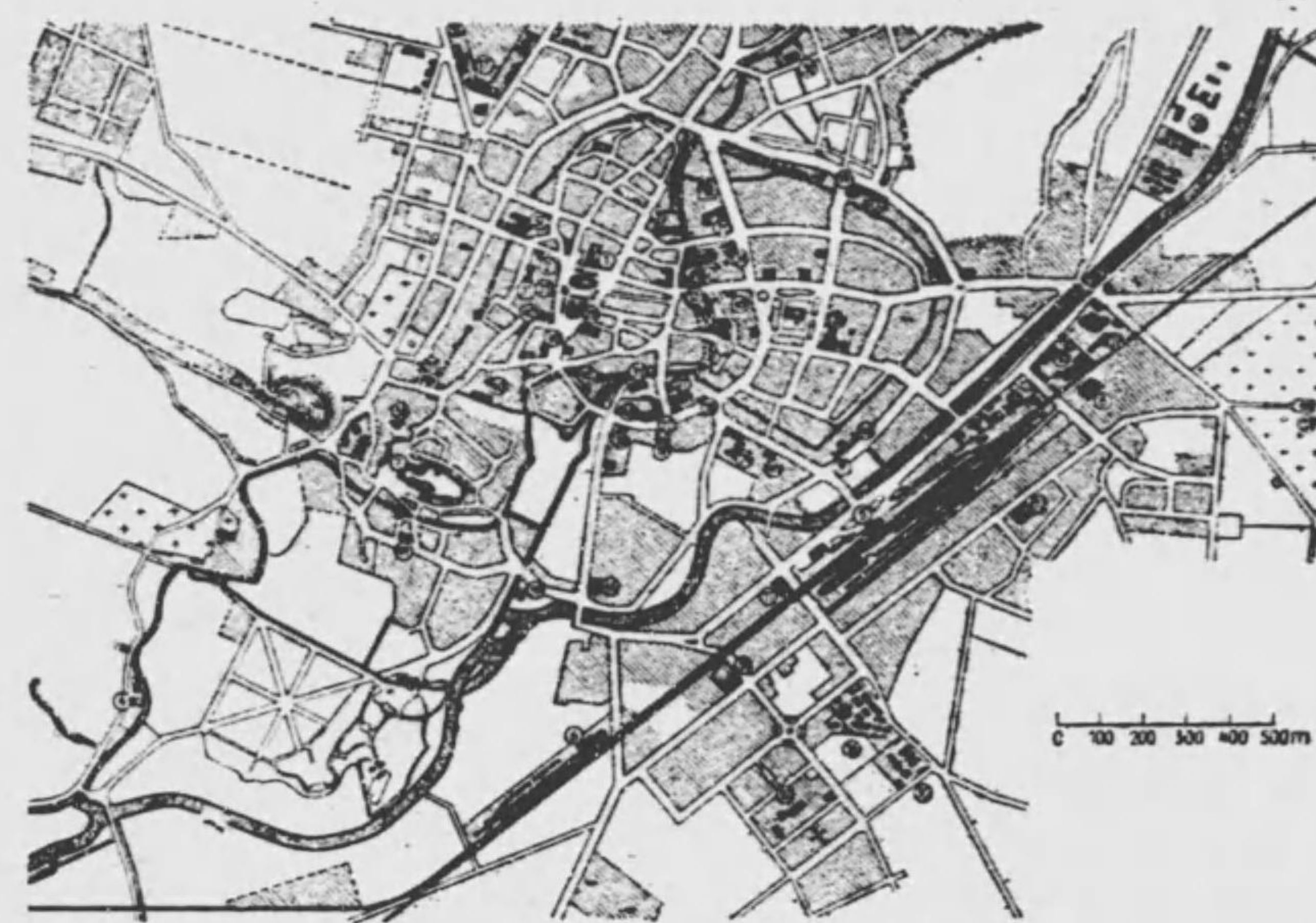
假令時としては明白に顯はれてゐないとしても、計畫に基いて成立した諸都市としては明かに綜都市体内の核形成と細胞形成とを考察すべきである。少くとも現在中心的行政建築物或は官廳は悉く中心點にはなくて、偶然の地域的關係に従つて部分的に存在してゐる。といふのは、異質の都市部分の中に建てられることが都市建設上の区分から必要とされたからである。だが遺憾なことには、そこには組織といふものが明瞭に認識されない。大抵の場合、この細胞核の中には尙また事務所、商舖などといったやうな類の他の累積物が見出される。申分なく典型的なものは、何といつても街路を有つて到る處に登する停車場地区である。その他では尙また大抵の場合、舊保砦の外廓に見出される所謂前景都市の中にこの核形成が現はれる。勿論核形成の發展は狀況關係の或る特異性に依つて (クエドリンベルヒ第三六圖参照) 一定の様式で進捗して來た。といつても、凡有ゆる變更と異質性にも拘らず、都市機構の構成がそれに従つて生じるのが常である一の組織は認められる。従つて新計畫として特異な狀況に適應するやうに新團體制度を区分する一の圖式案が整備出来る。



第三七圖 ヴォルフエンビュッセルの都市計畫案

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1. 市設屠殺場 | 22. 国立職業學校 |
| 2. 地方鐵道 | 23. 中央税關局 |
| 3. ヨハネ寺院 | 24. 中央寺院 |
| 4. 女子孤兒院 (fr. Waisenhaus) | 25. 中學校 |
| 5. 市立病院及訓練場 | 26. カトリック寺院 |
| 6. 發電所 | 27. 郡管理局 |
| 7. 税務所 | 28. 郵便局 |
| 8. ヘルツォーク-アウグスト-圖書館 | 29. 国立停車場 |
| 9. レジダンの家 | 30. 地方線接続點 |
| 10. 城、高等實科學校及女子高等學校 | 31. ガス工場 |
| 11. 舊兵舎 | 32. ブラウンシュヴァイク国立銀行 |
| 12. 地方宗務局 | 33. ドイツ高等學校 |
| 13. 農業學校 | 34. レジダ劇場—コーヒー店ケ
ークラーハイム |
| 14. 改正實科(九年制)高等學校 | 35. 給水場 |
| 15. 工藝學校 | 36. カルルス街國民學校 |
| 16. 區裁判所 | 37. トリニタティス寺院 |
| 17. 市役所 | 38. ヴェル街國民學校 |
| 18. 交通及劇場ビューロー | 39. 地方刑務所 |
| 19. 市立古代博物館 | 40. 砲兵隊兵舎及糧食係 |
| 20. 地方主要文庫 | |
| 21. 国立測量局 | |

五七



第三六圖 クエドリンプルヒの都市計畫案

- | | |
|---|--|
| 1. 區裁判所 | 28. グーツムーツ學校 |
| 2. 勞務局 | 29. 女子高等學校 |
| 3. 浴場(市設) | 30. 中學校 |
| 4. 浴場、河水(ヴィベルティ-浴場)、
浴場溜池、クリーツ | 31. ボツセ學校、ムムメンタル學校、
ヂュデルシュタット學校、ベスタ
ロツツ學校、カトリック學校 |
| 5. 停車場(操車場) | 32. 商業學校 |
| 6. 西部停車場(貨物驛) | 33. 農業學校 |
| 7. 官有地出納局及山林會計 | 34. 幼稚園保母學校 |
| 8. 局發電所(市立) | 35. ハルツ-ユ-ゲント-ハイム |
| 9. 税務所 | 36. 市立書籍店及通俗文學書籍店
(Stadt-und-Volksbücherei) |
| 10. ガス工場(市立) | 37. 劇場(シリッゲ-) |
| 11. ハウトマン-レーバーの家とク
ララー-ヒットラー-ハイム | 38. 交通ビューロー |
| 12. ドイツ勞務俱樂部 | 39. 給水場(市立) |
| 13. 聖アンナ病院 | 40. 保安局及青少年局 |
| 14. マルチンホフ病院 | 41. 税關 |
| 15. トーテンコップ病院 | 42. 市貯金局 |
| 16. 聖ヨハネ病院 | 43. 郡貯金局 |
| 17. 歩兵營舎 11/12 | 44. 国立銀行支局 |
| 18. ユ-ゲント-ハイム(市立) | 45. 国立銀行組合及ディスコント-ゲ
ゼルシヤフト
コムメルツ銀行及私立銀行
ドレスデン銀行
ディッペ銀行俱樂部
ベステホルン
フォン・モラー-會社
農業銀行及商業銀行 |
| 19. 青少年宿泊所 | |
| 20. 病院(市立及郡立病院) | |
| 21. 疾病互助會(一般的局地疾病互助
會) Krankenkass (allgemeine
Orfs Krempenpasse) | |
| 22. 郡廳及郡貯金局 | |
| 23. 火葬場 | |
| 24. 郵便局 | |
| 25. 市役所 | |
| 26. 屠殺場(市設)、學校 | |
| 27. ギムナジウム | |

五六

主核の區分

第二部の末尾(公務)に詳細に述べたところの大抵は人口二〇、〇〇〇の都市の中にだけ唯一回限り現はれる施設が、同様に全然計畫通りに都市像綜體の中へ一群一群排列され得る。この點に就いては、全都市領域に亘る完全に非有機的な分布に依つてこれ迄特に多くのものが誤られた(第三七圖 ヴォルフエンビュッテル)。各種の制度の目的と機能とから、それらの制度が果して主核の中心點に、特にそれに隣接した近所に、或はもつと具合良く外廓に設けられるべきであつたらうかどうかといふ問題が自ら生ずる。

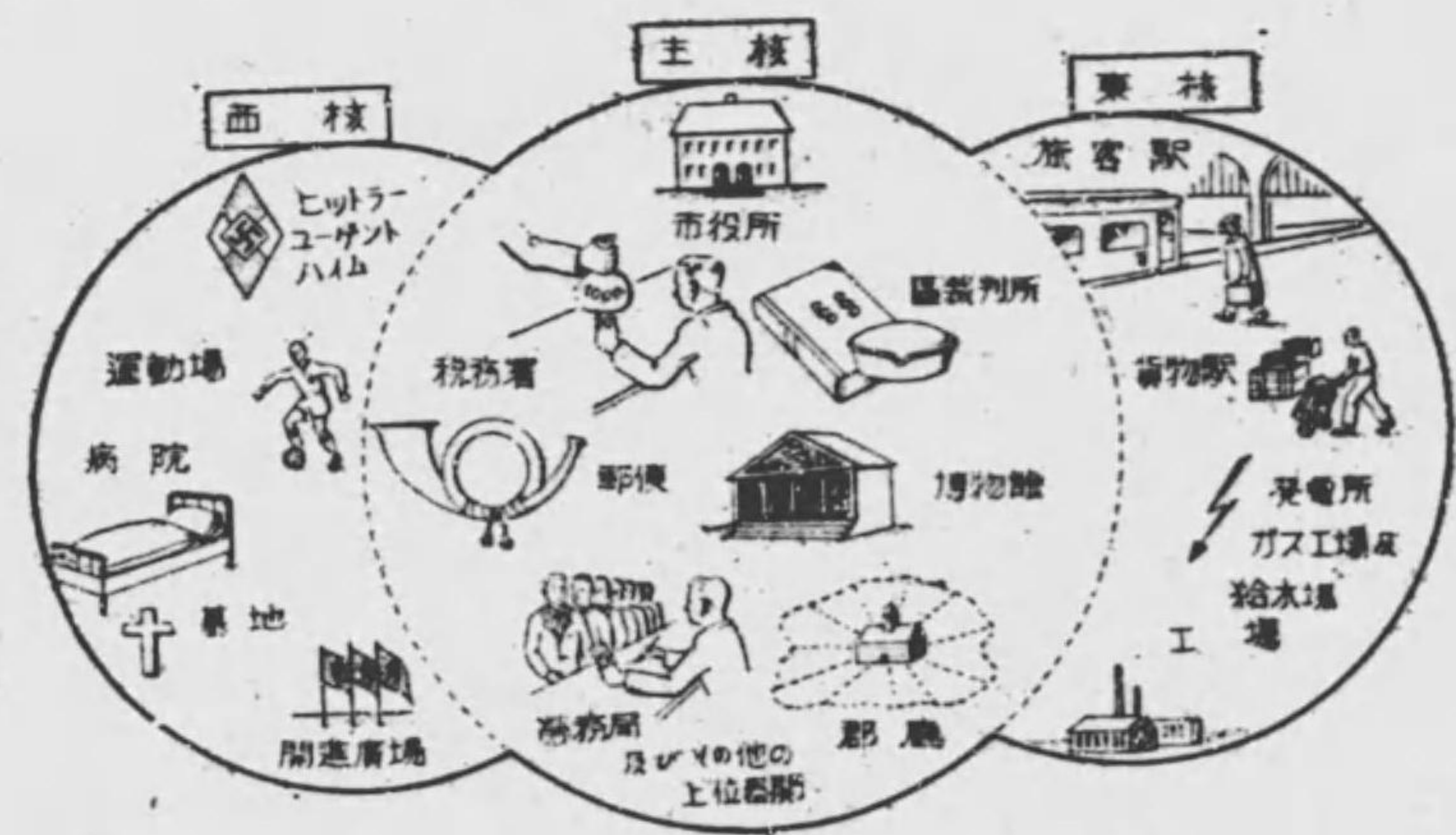
都市設計案は

- (1) 中心核
- (2) 都市の西部に區分された諸施設
- (3) 地域上都市の前面に擴つた面積

の三つに分類される(第四部及附錄第一表の新都市に就いての構造像と設計圖をも併せ参照せよ)。その際他のどういふ領域に就いても謂はば凝結した圖式案が與へられてならないことは勿論であつて、地域的所與性に從つて夫々の秩序を選択するといふことが計畫者の造型力(形成力)に絶對的に委されなければならない。停車場、特に貨物停車場は例へば原則としては常に風下に、つまり風の當らない物蔭に在るのがよい(貨物停車場の近くに幾重にも連結されてゐる全工場建設に就いても同様である)。ドイツでは一般に西風が優勢であるから、風下は大抵東になる。停車場設計と工場設計とをこの方向に於いて連結する目的はかうした手近なところに在る。排出ガスと煤煙と騒音とに

依る住民の煩累は出来るだけ低減されなければならない。給水工場も審美的理由からさへ同じやうに工場地域に据え付けられよう。

然し都市の風土的狀況が停車場設計、從つてまた往々にして工業的業務の設定の場合に他の方位を要求すること



第三八圖 都市の主核とその二つの姉妹核

主要部分の三つの核への分割

西部地區	主核	東部地區
H.J.-ハイム	議事堂	旅客停車場
運動場	財務局	貨物停車場
墓地	郵便局	工場地帯
病院	勞務局	供給施設(ガス、電氣等)
開進廣場(整列廣場)	區裁判所	等々
等々	園庭並びに其他の上位施設	
	等々	

がある。給水工場に對しては屢々周囲の山岳水路上の事情が決定的な役割をなす。

施設の位置は個々の場合に決定するとして茲で述べる譯には行かない。然し一群の施設は該地域に於ける行政組織、秩序、保全に役立ち、その大部分が都市中心點に於ける高位の秩序、國、地方等に關係する施設に屬することは兎に角明瞭なことである。國の保全と防護には役立つが都市には役立たない國防の草案といふものを假定して見給へ。それは確かに都市の縁邊に置くのが一番良いことが分らう。文化、スポーツ、衛生に關する施設、その他一定の社會的施設は西部が好條件であつて、従つて雜然とした成長の代りに熟慮し抜いた合計畫性を有する形態を得るためには、都市前景の線狀核の中に或は副核の上に散在されるのがよいといふことになる。第三の群團は勞働、供給、大交通に關する施設から外部へ向つて構成される。こゝでも亦、發展に伴つて生じたもののやはり雜然としてゐる地域の經濟性を精確に保持出来るやうな一種の秩序が強力な完成に當つて志向される。

都市の全體像が色々異つた部分に(市區 "Viertel" 街衢 "Quartier")に區分されると同様に、東西の軸(停車場、中心、西部住宅圏域及文化圏域)に沿つて置かれた都市領域——該領域には大抵の最重要な公共施設がある——も亦、少くとも三つの多少とも明確に相互に境界付けられた核に分割される。(第三八圖參照)

3. 住宅の配分

(a) 住宅様式

人口二〇、〇〇〇の都市に於ける住宅様式如何の要點を把握することは法外に重要なことのやうに思はれる。住民を個々夫々の住宅様式、例へば貸屋とか私有家屋とかに配分するに就いては、元來特殊研究が企圖されたのであるが、時が足りないので中絶されてゐるのである。

人口二〇、〇〇〇の現在都市の住宅形態を観察するとき、住民の大部分が貸屋に住んでゐることが確められる。貸屋の折々は可成りに狭い建築様式であるにも拘らず、住民は大都會に於けるよりもつとさうした天性に本質的に接近してゐる。幾何かの數に昇る人間は絶えず貸屋に腰を落着けることを繰り返へすことにならう。三階建の貸屋建築は利用面積ヘクタール數の上に個別的家屋の建築様式よりは多量の人口密度を許容する。階層の最高許容數は勿論3とされなければならぬ。三階建ての貸屋建築様式の投下資本はより低廉だからである。三階建て建築様式の場合の建物で圍まれた空間の立方米は建築に當つて系列個別家屋の立方米よりも廉價につく。従つてこの理由から、唯賃貸がより低廉であり得るといふに過ぎない住宅部門が、三階建ての建築の場合施設されなければならぬのは自然のことである。多くの家族はまた田園や地所を所有することに繫縛される煩勞の多さのために既にさうしたものを所有することを拒否するやうな態度を持してゐる。さうした家族の各員、特に田園に對して主力を示すべき筈の主婦が農地管理に全然何の關係も有しないといふことが往々にしてあり、その結果田園がなくて済みますことが出来ることになる。ところが他方では田園が多くの人々の需要であり生活の欲求なのである。その上殆ど凡有る産業の場合に、單に一時的從業に過ぎない多數の勞働力がある。これは特に國或は縣の公共施設に當つて採用されるか或は各種供給工業に従事する。小賣商業の場合にも亦、若干の時を経た後に他の都市へ移つて行くためにその地位を變へる多くの使用人がゐる。當地域のかうした總ての住民が同様に出来るだけ貸屋住ひだけに止められ得るやうな具合に處置されなければならぬであらう。所有地と一所にある自宅は人と職場とを極めて近く結びつける。かうして基本的分割が作用を及ぼす定住問題は、主として商工業の場合に於ける多數の血統勞務者と獨立商業業務者とに對する問題の中に在ることになる。

これら一切の理由から、住宅のうち約一〇〇分の二〇―三〇は貸屋として建てられるのがよいと考へられる。それは兎も角、この貸屋と自宅といふ配分は大略のものとしては人口二〇、〇〇〇の現存都市の中にも再び見出される。降つて人口三、〇〇〇から四、〇〇〇の小ジードルングにとつてさへ貸屋住宅に於けるこの割當ては承認され得る。

時に人口の一定の密集は當地域に對する有機的中心點形成にも亦通ずる。かうして個別家屋の些細な相互系列の代りに、都市細胞核を有する實際的聚落ジードルングが生ずる。一階建ての開いた建築様式から一階建ての閉じた建築様式へ、更に二階建ての開いた建築様式を超えて二階建ての閉じた建築様式へ、中心點に向つて閉じた建築様式に至るまで高まることは何等困難なく有機的に實施され得る。

此の機會に當つて尙、二階建ての建築様式の場合には貸屋整備は二重にも不經濟であることを注意してをかなければならない。この場合には二階建ての貸自宅のタイプに移した方がよいであらう。かうする場合、割讓土地が小さいとしても、庭園のある住宅を連關する方がより一層強力である。階段空域といつたやうなものより以上のもの必要なことは云ふを俟たない。

(b) 住宅の數と量

人口二〇、〇〇〇の都市に於ける建築中の住宅數と量は意外に重要なことである。先づ一九二七年度人口五、〇〇〇から二〇、〇〇〇並びに人口二〇、〇〇〇から五〇、〇〇〇に至る聚落に於ける住宅の大きさに従つて概観してみよう。絶対數はドイツ國統計 B. B. S. G. から得られ、百分率はそれに従つて得られる。

次に掲げる表は一九二七年度現在住宅を住宅量へ配分するに就いての大略の支點を與へるものである。これには

住宅とその居住者

住 宅	住宅數	%	居住者數	%
人口 5,000—20,000 の聚落の場合				
1 地 域.....	75,316	3.70	191,973	2.38
2 地 域.....	302,646	14.80	943,364	11.70
3 地 域.....	555,316	27.20	1964,594	24.30
1—3 地域總計.....	933,278	45.20	3099,931	38.40
4—6 〃.....	936,985	45.20	3990,092	49.50
7 以上 9 地域.....	173,084	8.80	961,752	11.90
總 計	2043,347	100.00	8051,775	110.00
人口 20,000—50,000 の聚落の場合				
1 地 域.....	37,473	3.50	90,423	1.84
2 地 域.....	178,627	16.45	554,115	11.35
3 地 域.....	366,458	33.75	1301,002	26.60
1—3 地域總計.....	582,558	53.70	1945,540	39.29
4—6 〃.....	400,461	36.90	2392,905	49.06
7 及 7 以上地域.....	102,582	9.40	545,317	11.15
總 計	1085,601	100.00	4883,762	100.00

1933 年度協同體のドイツ全國に於ける世帯量等級より見た

様式と量 世帯の種類と大きさ	協同體總體		百分率	入口 2,000 以下	
	數			數	
	世帯	個人		世帯	個人
個別世帯.....	1,482,347	1,482,347	8.37	313,711	313,711
家族世帯					
2人を有する.....	3,840,455	7,680,910	21.65	742,378	1,484,756
3 ".....	4,390,670	13,172,010	24.75	967,009	2,901,027
4 ".....	3,400,828	13,603,312	19.18	967,121	3,868,484
5 ".....	2,097,024	10,485,120	11.82	775,162	3,875,810
6 ".....	1,185,414	7,112,434	6.68	533,813	3,202,878
7 ".....	637,287	4,461,009	3.60	324,393	2,270,751
8 及以上の個人を有する.....	660,893	5,948,459	3.72	371,065	3,356,905
準備世帯.....	40,659	1,272,810	0.23	10,383	204,975
世帯總體.....	17,735,577	652,218,461	100.00	5,005,035	21,479,297
一世帯(個人)當個人.....		3.61			4.26

- (註) 1) ザールラント (Saarland) を除く。
 2) 一個人の世帯を指す。
 3) 準備世帯を除いた二人又はそれ以上の個人を有する世帯を指す。

(1933. 6. 16 付國勢調査).

そのうち次の協同體に於いて						
人口 百分率	人口10,000より20,000に至る		百分率	人口20,000より50,000に至る		百分率
	世帯	個人		世帯	個人	
6.27	101,846	101,846	9.05	131,880	131,880	9.18
14.83	252,230	504,460	22.60	335,760	671,520	23.40
19.32	293,220	879,660	26.40	382,544	1,147,632	26.62
19.32	218,235	872,940	19.60	278,983	1,115,932	19.40
15.49	123,837	619,185	11.05	154,542	772,710	10.80
10.67	62,820	376,920	5.65	76,901	461,406	5.36
6.48	30,916	216,412	2.78	36,994	258,958	2.58
7.41	28,934	258,450	2.61	34,124	599,975	2.38
0.21	2,991	100,242		3,838	162,869	0.28
100.00	1,115,029	3,930,115	100.00	1,435,566	5,028,133	100.00
		3.44			3.40	

人口五、〇〇〇—二〇、〇〇〇と人口二〇、〇〇〇—五〇、〇〇〇の聚落が一括されてゐるのであるから、人口二〇、〇〇〇の都市にとつての値数が茲に擧げた値数の略中間に位することは想定するに難くないと思はれる。この指針に従つた後述の住宅計数は今日では繼續されてゐない。といつてもやはり小都市に於ける事情は本質的には變改するところ少い。

遺憾ながら、住宅に就いての考慮が部分的になされてゐるといふ關係から、この住宅需要が人口調査に條件に相應するといふ點には行かない。従つて本來の住宅需要の調査に當つては家族の狀態から出發しなければならぬ。この點に就いては次に掲げた表が一つの素描を與へる (St. J. d. G. 1936)。茲で再び百分率が得られる。一世帯當個人數の比率として人口二〇、〇〇〇の都市にとつては約三・四四の値数が認められる。住宅需要に於ける差異性は、所得に相應してより大きな住宅を經理出来る良く調整された一定數の家族の高位生活狀況に基くに過ぎない。

一般に志向價値あるものとして主唱されてゐるところであるが、人口二〇、〇〇〇以下の小協同體は高位の家庭狀況を呈示してゐるのである。一世帯當個人數の比率は茲では四・二六となる。従つて、子實民族たらうとする意欲が再び強大とならざるを得ぬとすると、先づいつて新ジードルグの中に成長し行く家族のために必要な空域を創つてやらなければならない。

新都市にとつて良い住宅狀況を調査するに當つては、一九二〇年度の舊建設に倣つて住宅を住宅量へ配分することを確立しなければならない。このためには一世帯當個人四—三の見積となる。この狀態が最初から到達されないことは勿論である。人口二〇、〇〇〇の都市に於ける差し當つて必要な住宅の假想數は、三・四四の世帯量が想定されてゐることから見出される。つまりかうして約五、八〇〇軒といふ住宅數に到達する。その際個別世帯の成長は何

人口 20,000 の都市に於ける住宅量への住宅配分

次の廣さを有する住宅	前掲表「住宅とその居住者」に從つて算出された人口 20,000 都市に對する百分率 百分率約	住宅の一定數
1 地域	3.60	208.00
2 〃	15.60	905.00
3 〃	30.45	1760.00
1—3 地域總計.....	49.45	2860.00
4—6 地域.....	41.60	2420.00
7 及それ以上の地域.....	8.95	520.00
總 計	100.00	5800.00

時でも可能である。「住宅とその居住者」といふ前掲の表から得た百分率を基抵として、この世帯或は住宅を更に配分することが出来る。この際世帯數イコール住宅總數でなければならぬのは云ふまでもない。次いで個々の住宅量に對する附隨數が結果する。住宅數は一九二七年度に由來するものであるから、特に「一—三 Raine」を有する小住宅に對する住宅量が相應するのは志向さるべき將來人口にはない。従つてこの數字には三・四四から約四・三までの世帯量の成長が顧慮された修正が施されなければならない。この點に就いては「子供には空域が必要だ」といふモットーから實施されなければならないことにならう。家族が伸張された廣場を有するときにのみ民族の健全な成長が期待されるのである。

こゝに尙一言してをかなければならないことは、一定數の個別世帯（獨身者、寡夫又は寡婦、離婚者）も亦「一九三三年度世帯」表の中から間然するところなく把握出来るといふことである。獨身者達のためには恐らく一室一室が充ち足りた大きさの貸室である共同家屋が準備されなければならないと

思はれる。

4. 土地配分

第四部に述べた總面積に關する規準に於いて種々の土地配分が可能である。假令全部に對してではなくても貸住宅のために約二〇〇平方メートルの小田園を準備することが建築形式に相應して適當と思はれる。それ等は三階建てプロツクの中に置かれることもあるし、或はまた都市建設上の機構を明確にするために都市部門個々の中間緑地帯として挿入されることもあらう。その他貸屋プロツクは輪環狀に閉ぢられたものであつてはならなく、蹄鐵形か巧な並列狀態に整備されなければならないものである。このことは防空的根據からも亦必要なことであるが、その際一の家屋前面から他の家屋前面まで少くとも四〇米の間隔が保たなければならないことになる。敵の爆撃密集隊に都合のよい、軍事上或は經濟上特に重要な攻撃地點を提供する施設の現存は、このやうな小都市の中では極く稀なのが普通である。萬一の場合——例へば極めて高度の従業員數を有する工場が問題とされる場合も亦危険に曝され或は危険を誘致する恐れのある對象物とその他の建築物との中間に安全地帯として少くとも五〇〇米の間隔が保たれなければならないと思はれる。二階或は三、四階の私有建築物の敷地としては小面積が當てがはれるのは當然の結果である。複合家屋と個別家屋の場合も同様に、家屋側近にそんな大面積の土地を必要とすることはない。六〇〇平方メートル（精々で八〇〇平方メートル）で十分である。かうしてのみジードルングは謂はば完結したやうな形態を示すことにならう。勿論無駄な費は省くのが有意義である。吾々の考へるところでは個々の家族に多過ぎる土地を當てがふことは不必要だと思はれる次第である。

以前世に行はれた一、二五〇平方メートルの土地配分は、忙殺されてゐる所有者がそれ程の土地を有効に運用し得ると

いふことはないのだから、屢々高度に過ぎると見做されるのは正常なことと思はれる。一家族に於いては、特に小さな子供等の居る場合には、その所有土地を十分積極的に經理するための遊んでゐる勞働力といふものが十分ではないのである。

特殊の場合、六〇〇—八〇〇平方メートル以外に尙それ以上の土地の運用を欲しもしそれが可能でもある人々のためには、協同體管理の追加賃貸土地が農地管理上の副所得を十分可能ならしめるであらう。良質の土壤上の場合には悪質の土壤上の場合よりも小さい面積配分で十分であるとされるのが一般である。小田園經理の場合には、同じ土壤狀況の下にある普通の農務の場合に比較して遙かに、同一面積から經理されるのが一般である。

第三章 公務及實務の區分

1. 圈都市の支拂差額と商業決算

「經濟的生活基準の設定が、新都市建設の前邊である。」（一九三三年國ジードルング特命委員長としてゴットフリート・フェーダーがプロシヤ貴族院に於いてなせる彼の第一次施政方針演説中の一節）

近代發展の宿命は、凡有るジードルング創建にとつてこの命題が完全に忘却の彼方に押し流され、住宅圈域の新設の悉くが總ての有機的必然性を閉却しながら舊來のジードルング核に固着されることを欲した。蓋しこゝにのみ生活基準の可能性が見出され得ると信じられたからに外ならない。惟ふにこのことは個人にとつては確に妥當する。公共的經濟的個人的生活に就いての千種萬様の關係一切から獨立に自分自身だけで生活し得るものでない以

上、個人は何處か自由な土地で定住し生活し得ないのが通則であらう。その上どういふジードルングに就いて云つても、それ自身だけで存立し得るといふものは先づもつてあり得ないのである。一〇〇人足らずのジードルングでは停車場は勿論郵便局も裁判所も見出されないであらう。かうしたところに住むことはとりも直さず總ての文化的施設を断念することに外ならない。いやそれどころか大半は外部から仰がなければならぬ日常必需品の購入可能性の最大部分をさへ断念することに外ならないのである。都市と地方との協働からして初めて、都市團體の大多數の人間の綜合聯環を通じて初めて、こゝに再び繰返へして云ふならば、環境との、平野との、扶養基地との密接不離の結合に於いてのみ、それ自身完結した社會的聚落の創造といふものが可能となるのである。

然しまたどういふ領域も、どういふ聚落も、どういふ都市も一として完全にそれ自身だけで完結し獨立して自給自足をやつて行けるといふものはあり得ない。極めて重要な消費財——石炭と鐵とを考へて見ても——は國の殆ど數へるに足りない少數の箇處に見出されるに過ぎない。これらは發見された場所から大規模な交通手段に依つて全國土を超えて配分され個々のジードルング核に齎らされなければならないのである。これと同様に、州・地方・國統治、諸本省、國防等に關する上位のまた最上位の制度を有する政府の諸機關は、一般に自立經營の各團體の中には存在しないで、作用地域の擴張に比例して稀に若しくは國內唯一のものとして見られるに過ぎないことも明かなことである。

それにも拘らず、いや正にその故に、全然原初的な村落状態を超えて高まつた比較的高次の各大ジードルング協同體はその支拂差額と商業決算とを整頓しなければならぬ（と云つてもそれが故に村落に於けるまた平地の上に於ける合計畫的經濟と制度とが全然餘計のものであつていゝとは決して云はれてならないことである）。

或る大きさの都市人口——つまり人口二〇、〇〇〇の吾々の都市——は、都市では生産され得ない一定量の生活資材、纖維製品、鐵製品、植民地産物、機械、研究材料を必要とする。都市がこれらの「移入品」の支拂をなすに就いては、謂はば「外地」へ賣つたその手取金の中から「移入品」の支拂ひがなされる、さういふ値段がつけられなければならぬ。近邊から搬入される食料品も亦同じやうな支拂ひがなされなければならない。この場合は大抵農業機械とか農民が都市で買ひ入れるその他一切の物品とかの引き渡しに依つて生ずる。また同様にしてより高い意味では農業主が例へば總ゆる種類の手引料や交付料を返済しなければならぬ操作に依つても生ずる。

茲に活範な且つ興味ある調査が問題とされることになるのだが、この調査は商工業交通に役立つ農業施設を有する都市の配置に對してそれ自身再び異常な解明を齎らすものである。だが然しこれに關する詳細な考察はその本性上當面の著作の中に置かれた課題からは餘りに遠ざかり過ぎてゐることでもあり、就中狹義にしる廣義にしる都市と周邊との間のかうした經濟的相互關係を一般典型的に叙述するといふことは不可能なことでもあるので、その折に觸れて一つ一つの對象に即して出来るだけ精密に研究することにしよう。

今日ドイツに於いて到る處新ジードルングの創設に歩が進められてゐるとき、より大規模な經濟上の企畫が常に出發點となり前提となる。最大の外延を有するこゝのやうな課題を孕んでゐるものが、KdF-Wagen と Hermann-Göring-Werke とのために建設された都市であらう。この兩都市の場合には、特に重要な全業務の設計に依つて、要部に建設中の都市のための生活基準は既に與へられてゐる。従つてこの種の都市の商業決算は比較的容易に概観される。賣却された生産物の手取金の中からは原料仕入の支拂ひがなされて、それは外へ向つて流れ出し、また新都市の中に残るものであるが新都市の側で大部分を外から仰がなければならない食料品や必需品のために其處で再び

交付される賃金が支拂はれなければならないことになる。この新都市の中に官廳施設が若しくは國防支部でも置かれることになれば、そのときには國家から官廳や國防支部へ支拂はれる金額が同様にして都市の經濟循環の中へ注ぎ込まれ、其處から賃金に就いて上述した様式で一部分は再び外から他のものを仕入れるために出て行くことになる。都市の支拂差額及商業決算は、一協同體の有する商工業上、經濟上、官公上に涉る殆ど總ての施設の財政的、經濟的映像である。

尙又、専ら都市の内部的需要のためにある業務、或は都市住民の外的需要のために従業し或は農業に携はる住民と一緒に外へ或は他の都市や地方へ交付する業務、最後にその生産品が殆ど全く輸出に定められてゐる施設——かう云つた商業上の業務の間の區別は本質的重要性を有することである。

だが茲で我々はこの魅力ある生きた民族經濟上の鏈れをこれ以上追求することを斷念して、次にただ各種施設を區分するに止めなければならない。

1. 消費のためにする商賣（パン屋、肉屋、靴屋等）。
2. 恒久施設の完成のためにする商賣（建築業、鍛冶屋、鋳力屋、鍛前屋、電氣架設業、馬具師、車大工、製本屋、印刷業）。
3. 小賣業。
4. 自由職業（醫師、辯護士、劇場、映畫館）。
5. 協同體行政と協同體の扶養業務と諸施設（廣い場所の活動地域を有する建造物と國中央建造物はこゝには屬しない）。
6. 勤勞者仕着とその他直接の勤務。
7. 飲酒店、但しこれは外人出入といふはつきりした性格の業務でない場合に限る。
8. 最後に家屋所有者。

家屋所有者は家賃から得た剩餘金をまた大抵の場合協同體に交付する。

外地の制限を受ける經濟に算入されるものには、外地に本據を有する商工業、精製加工工業品の外地向けのためになす直接間接の業務、問屋業等がある。

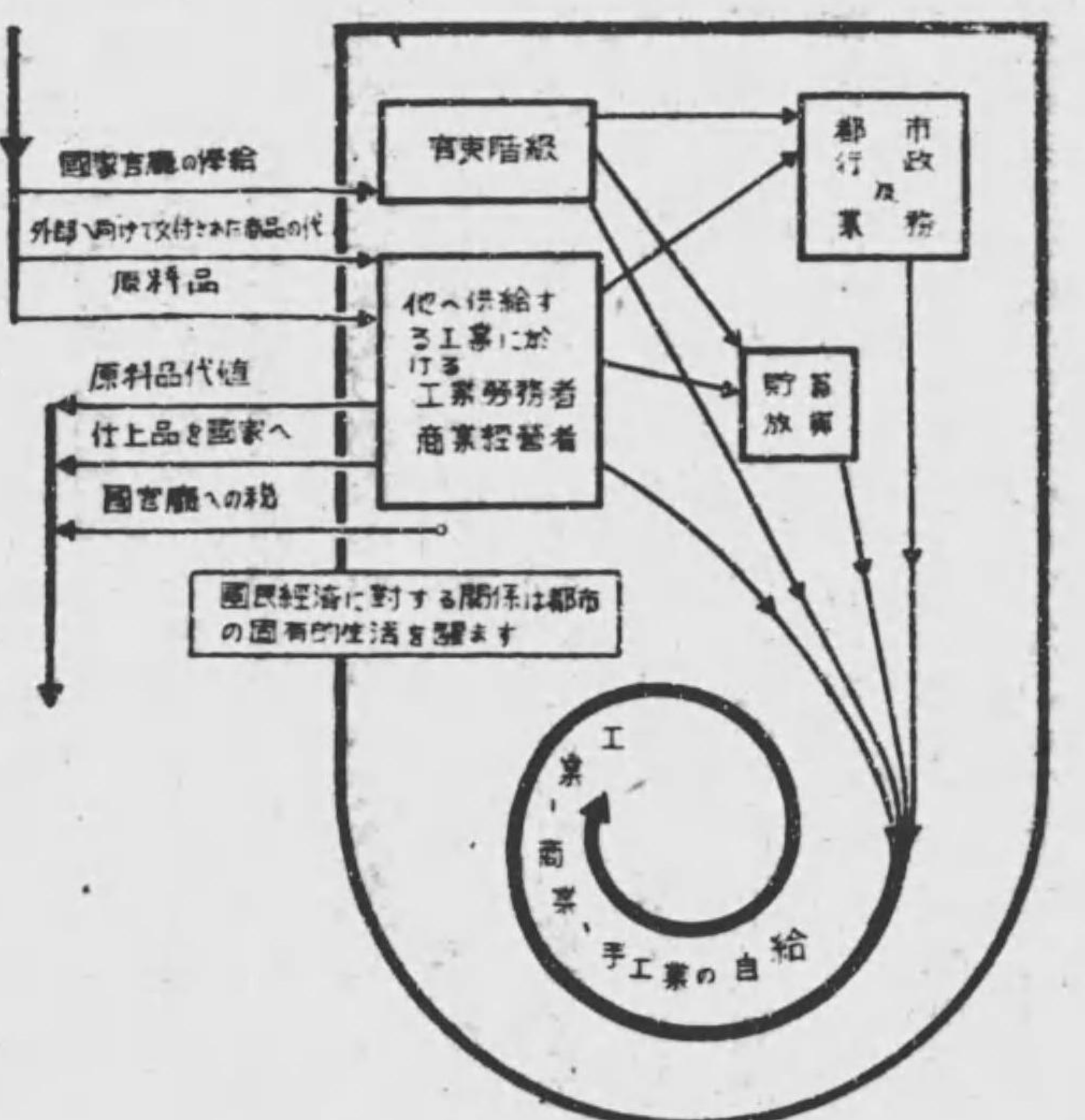
對外取引に依つて先づ最初に資金が手に入るのは、外地向け販賣に従事し若しくは外地から家賃を受け入れる職業部門である。この収益がないとすれば都市の貸借表は常に受身であらう。加工再精製工業製品の手取金以外に、外部から流入する資金は次のやうに綜括される。

1. 建造物・官公交通業務に對して公金から流出する資金。但しその資金が當該地域では調達されないことが條件となる。
2. 外地から入る不動産収入、配當關係、借地料、その他の交付収益。
3. 自由職業、辯護士、著述家等の収益。

これ等の収益は先づ都市の中で、小賣業者、職人、家屋所有者、市設扶養業者、醫師、旅館業者等に交付される。殆ど僅少の金額だけが外部へ流出するに過ぎない。資金の大部分はこの經濟へ流入する。金融と商品流通からの剩餘金が都市の中に残る金額であつて、貯蓄資金として銀行の資金勘定に明示される。

それ故に都市の新設に當つては、都市の來るべき經濟を貸借對照表に適合するやうに把握することが必要なのは云ふまでもない。人口二〇、〇〇〇の都市のもつ經濟上の新形態に對する支點を見出すためには、以上述べた點に適應する小都市を調査しなければならない。

こゝに掲げた圖（第三九圖）の中には、先づ都市の綜合經濟生活に就いての概觀が與へられてゐるが、これは商取引對照表支拂差額を切り離してないものである。都市の體制は、激烈な個人生活を展開するために、財貨の一定の



第三九圖 都市の商業決算及支拂差額と内部循環

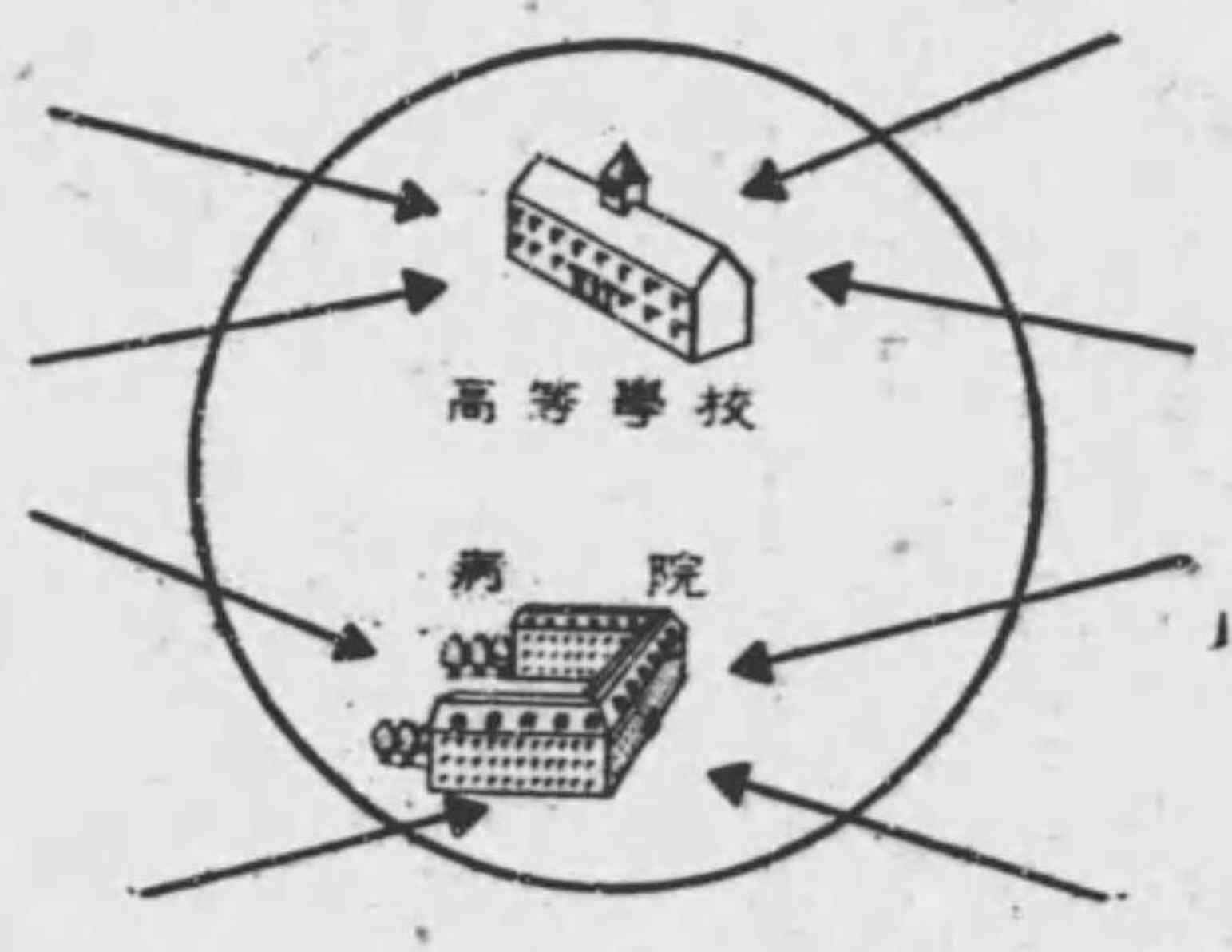
成長は、ドイツ國家の經濟對照表が都市に對して積極的に作用したといふ事情に還元できることも知れないのである。

2. 都市の周邊地にまで作用する公共施設

作用圏が都市圏域だけにとどまらないで、更に周邊の地にまでも及ぶ二、三の公共施設がある。例へば上級學校、病院等である。(第四〇圖)

3. 都市に於ける上位制度の機關

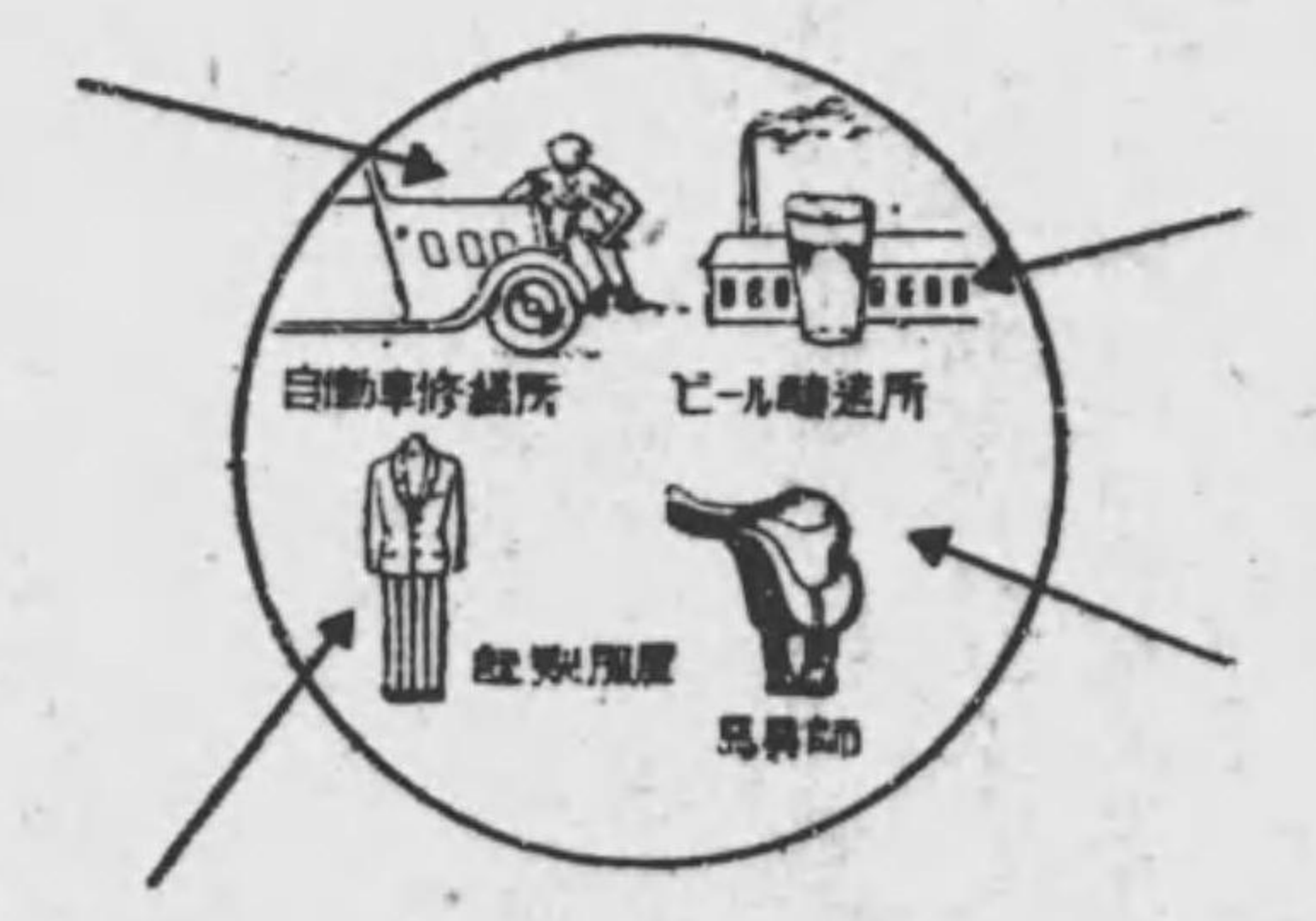
尙その他、政府若しくは地方の機關として都市の中に在る一列の施設がある。その建造物の所在地としてこの都市を選んだ事情に應じて、或る二、三の場合にはこれ等がないとしたところで、聚落の生活に支障を來すこともなく、また或るより多くの場合には荒されたとして聚落の生活を妨げることもない。けれども、こゝにまた或る種の普通の關係はないでもない。例へば稅務署、勞務局、區裁判所といったやうなものが人口二〇、〇〇〇の都市の中に



第四〇圖 周邊地へ影響を及ぼす公共施設



第四一圖 都市に於ける上位の機關



第四二圖 周囲へ影響を及ぼす商業施設

は大抵の場合現存する。従つて、上位の諸施設を有するこの都市領域に於ける殆ど總てのものが附録圖表の中に擧げられてあるとしても、この諸施設が總て當然現存してゐるものといふのではなくて、總に現存することも出来るといふに過ぎないのであることが、何時でも考慮されてゐなければならぬ。(第四一圖)



- H = Hausliche Dienste. (家事)
- O = Öffentliche Dienste. (公務)
- B = Beruflose Selbständige. (無職業生計者)
- L = Landwirtschaft. (農業)
- V = Verkehr, Handel. (交通業、商業)
- I = Industrie und Handwerk. (工業及手工業)

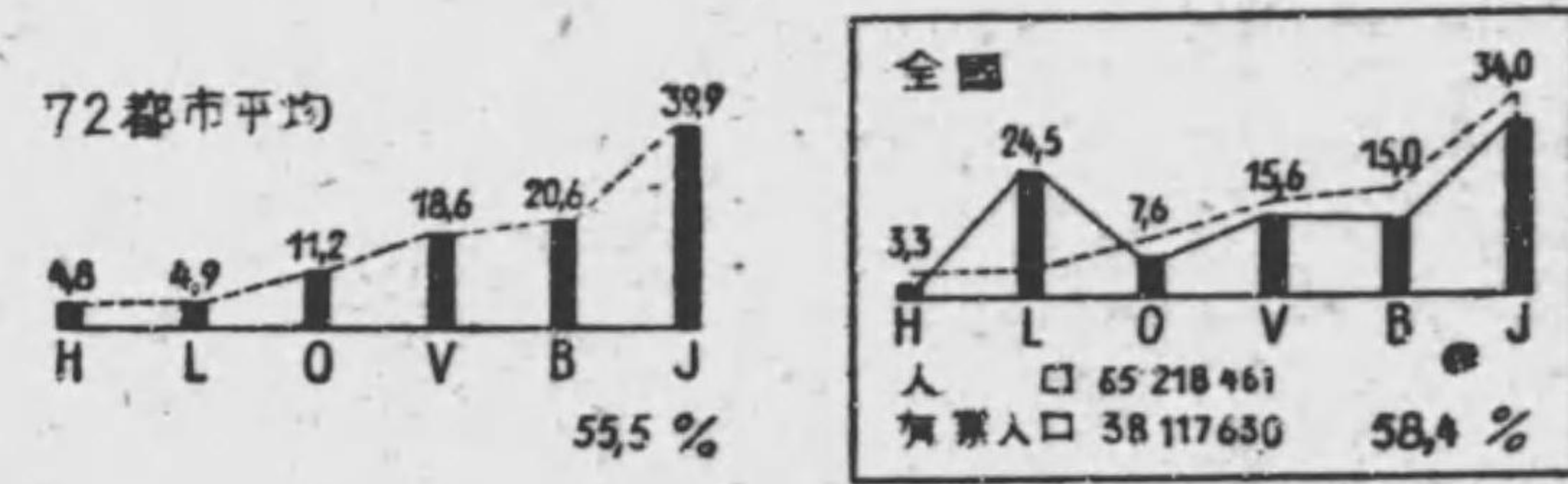
以上の各部門は夫々前掲の表に示した範疇を包括する。

七二都市の調査の結果次のやうな平均圖が生じた。これに依つて見ると手工業及工業(I)に従事する個人数が平均三九・九%の比率で最優位を占め、それに次いで無職業生計者が二〇・六%——の意外に大きな比率——で第二位を占めてゐる。次いで商業及交通業(V)に従事するもの一八・六%、公務(O)で立つてゐるもの一一・二%の順序である。農業(L)に従事しながらも都市に居住するものは平均四・九%の少数である。家事(H)に従事するものの配分率も亦四・八%の少数である。

七二都市の平均圖(第四三圖)は個々の都市に於ける職業構成の判定に對して好個の支點を提示する。更に比較を擴大して次にドイツ全國平均圖(第四四圖)を掲げよう。

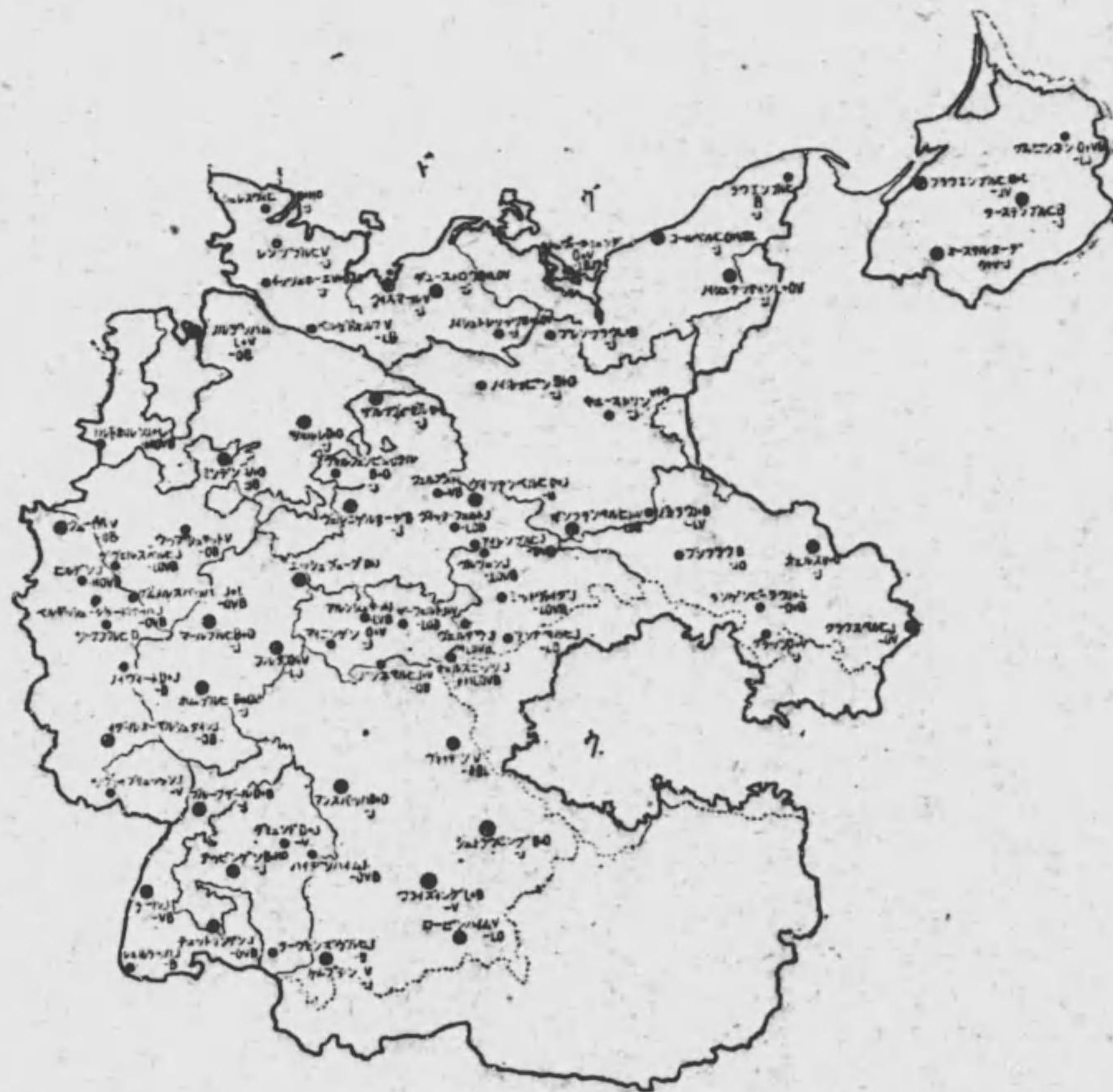
ドイツ全國平均圖と人口二〇、〇〇〇の七二都市平均圖との兩圖に於いて個々の經濟部門の配分率が極めて類似してゐることが明に看取される。縱に農業が全國平均圖の中で平地全農民の追加に依つて際立つて高率を示してゐるのを見るに過ぎない。

精密な調査の結果、個々の都市經濟機構に就いて極めて興味ある事情が判明した。先の調査に當つては全國平均



第四三圖 調査72都市からの平均圖

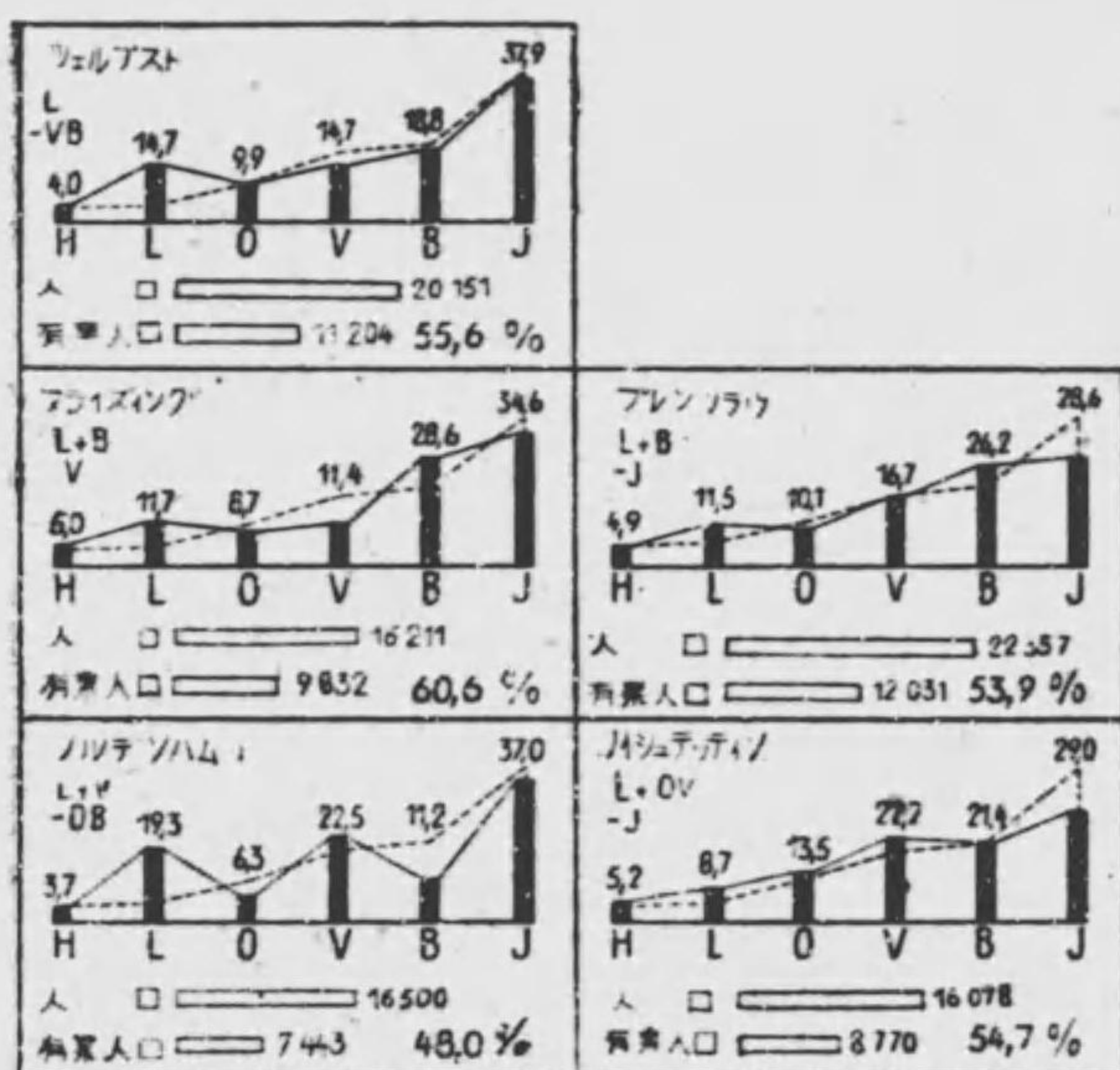
第四四圖 ドイツ全國(舊國家)平均圖



第四五圖 ドイツ全國に於ける人口約20,000の調査72都市の位置

圖と部分的に著しく相違してゐる全然異質の都市類型を區別出來たのであつたが、全國平均圖とのこの相異を明かにするために、七二都市からの平均カーヴを個々の都市の類型カーヴへ組み入れてみた。かうして個々の都市の性格をより良く認識できると考へたのである。

その結果、異質經濟部門が平均圖標準を超えてゐるところの異質都市群が生じた。同時に更に有業者數と比較對照するために、このカーヴの下に夫々人口百分比にして有業者數を記載してをいた。これに就いては第五篇「職業度」の中でより詳細に説明し利用しようと思ふ。



第四六圖 農林業が優位を占める5都市
6 經濟部門への有業人口配分

第四五圖の地圖では、何よりも先づ調査の基礎になつた七二都市を記入した。次いで頭文字の記號が都市の性格を指示する一直ぐ次の挿入圖に記載した個々の都市像をも併せ参照せよ(例へば「H+L」といふ組合せは、農業を加味した工業が取扱はれるが交通業は殆ど問題にならないといふことを意味する)。この類型記號は個々の都市像と七二都市全平均圖との比較對照の所産である(第四六圖)。地圖の示す通り、ドイツの全大管區に渉る都市が調査の參考に供せられたのである。

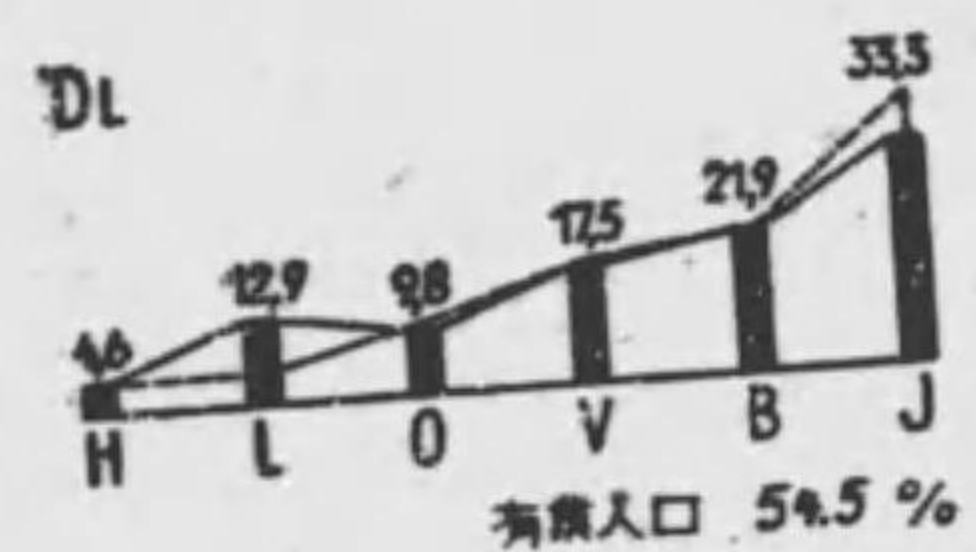
1. 家事經濟部門 (H)

(家事)は都市のどれ一つにも特別にこれといふ特徴を與へ

ない程僅少の役割をしか演じない。家事は利子生活者の都市と公務都市とに於いて稍々強力な發展を見せる。場合に依つては商業都市も亦家事に比較的大きな役割を有つてゐる。景氣のよい營業主や、たちのよい官吏などの多くの家族は往々良い内助者を有つてゐるのである。

2. 農業型都市 (L)

經濟部門L(農林業型)は二、三の都市にとつては比較的大きな意義をさへ有つてゐる。七二都市のうち五つは明かにこの性格を示してゐる。ツェルプスト、ノイステッティン、フレンツラウ、フレイズィング、ノルデンハムの五つである。ツェルプストに於いては農業の揚音が最も明確に現はれてゐる。つまり總ての他の經濟部門は夫々の傾向に於いて七二都市の平均圖D以下に在る譯である。ノイステッティンとフレンツラウは明かに工業の不足を示す。この場合ノイステッティンは公務と商業及交通業が平均圖と合致してゐる。他方フレンツラウは無職業生計者の部門がフレイズィングの場合と同様大きな部門となつてゐる。この二つは利子生活者の都市であつて、農業上魅惑ある健全な位置と休職官吏の生活事情が強大な農業の混入に依る制約をうけて低廉であるといふ事實とのために特に選ばれた都市である。それと反對にノルデンハムは殆ど公務従事者と無職業生計者を有しない代りに、商業及交通業がふんだんに立ち現はれてゐる。ノルデンハムは多少の工業を有する輸入港といふやうなものではない。都市には官公施設が多くなるといふのは近くに他の大都市があつて、それらの中に例へば地方裁判所といふやうな施設があるからである。このことに依つて見ても役人の低率な理由が説明される。有業活動部門が一般平均圖を遙に超えて全調査都市の四・八%から一二・九%に上

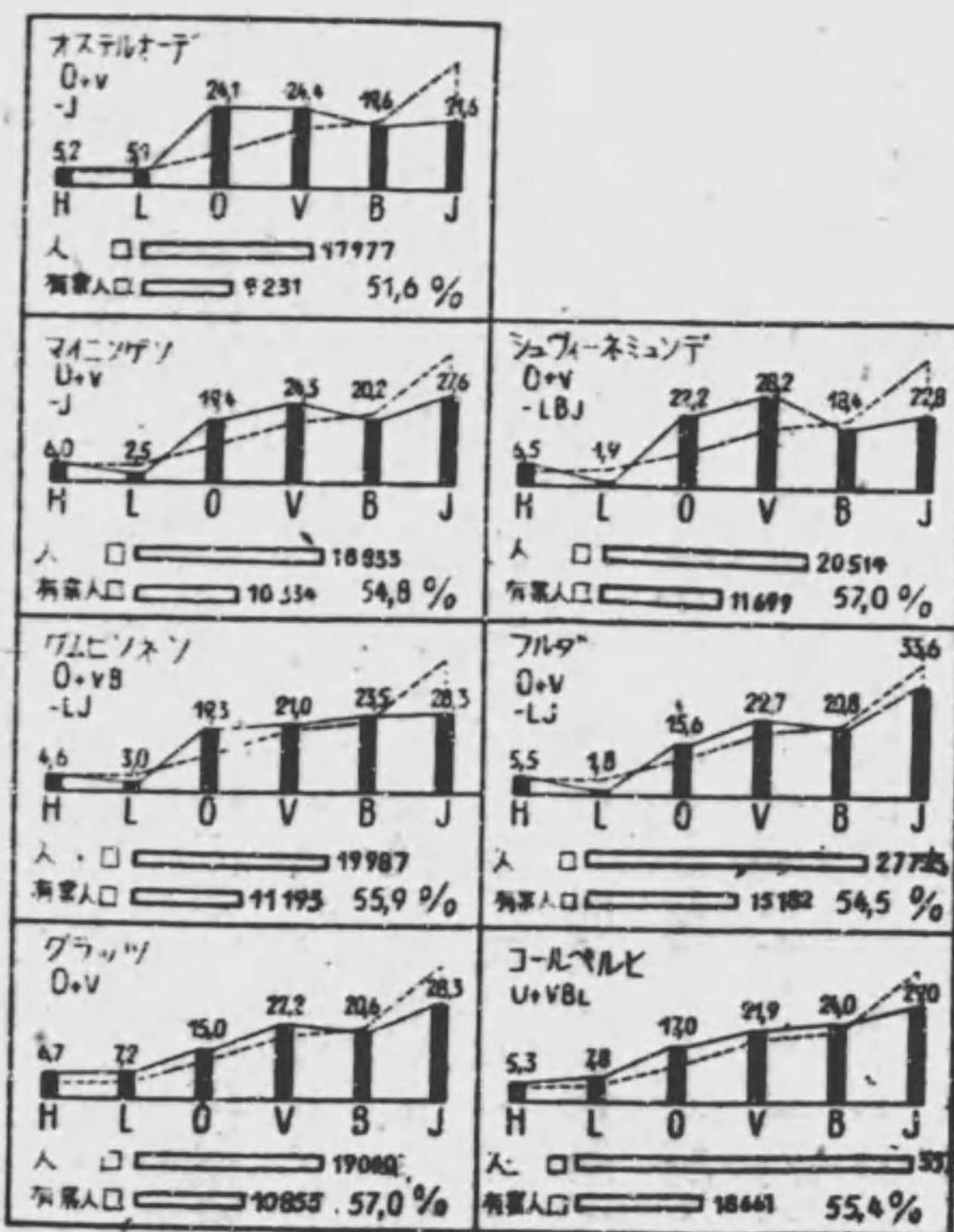


第四七圖 五農林業型都市
平均圖。六經濟部門への
有業人口配分

昇した五都市の平均圖は次に掲げる(第四七圖)が示す。

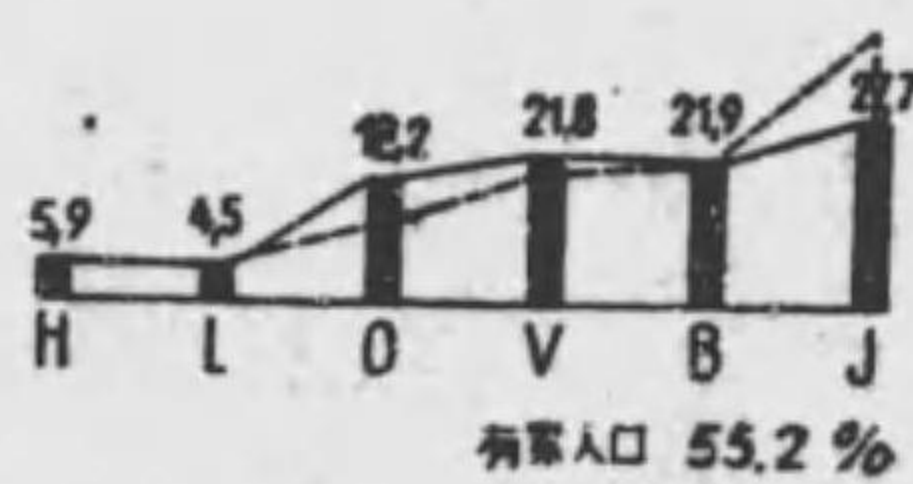
3. 公務が優位を占める都市 (O)

經濟部門公務(O)(第四八圖O型都市)はオーステルオーデ、マイニンゲン、シュヴァーネムンデ、フルダ、グムビンネン、グラッツ、コールベルヒの七都市に特に強く現はれてゐる。これらの都市の特徴は行政都市であることと諸州或は國家機關の所在地たることである。前四都市では公務が商業及交通業(V)と結合される。この傾向は全O型都市を通じて現はれる。これらの都市群にとつて典型的なことは工業及手工業の部門が平均圖より遙かに少いことである。



第四八圖 公務が優位を占める7都市
6 經濟部門への有業人口配分

これらの都市の平均圖(第四九圖)は公務が優位を占めることを示すと同時に、公務と並んで常に商業及交通業

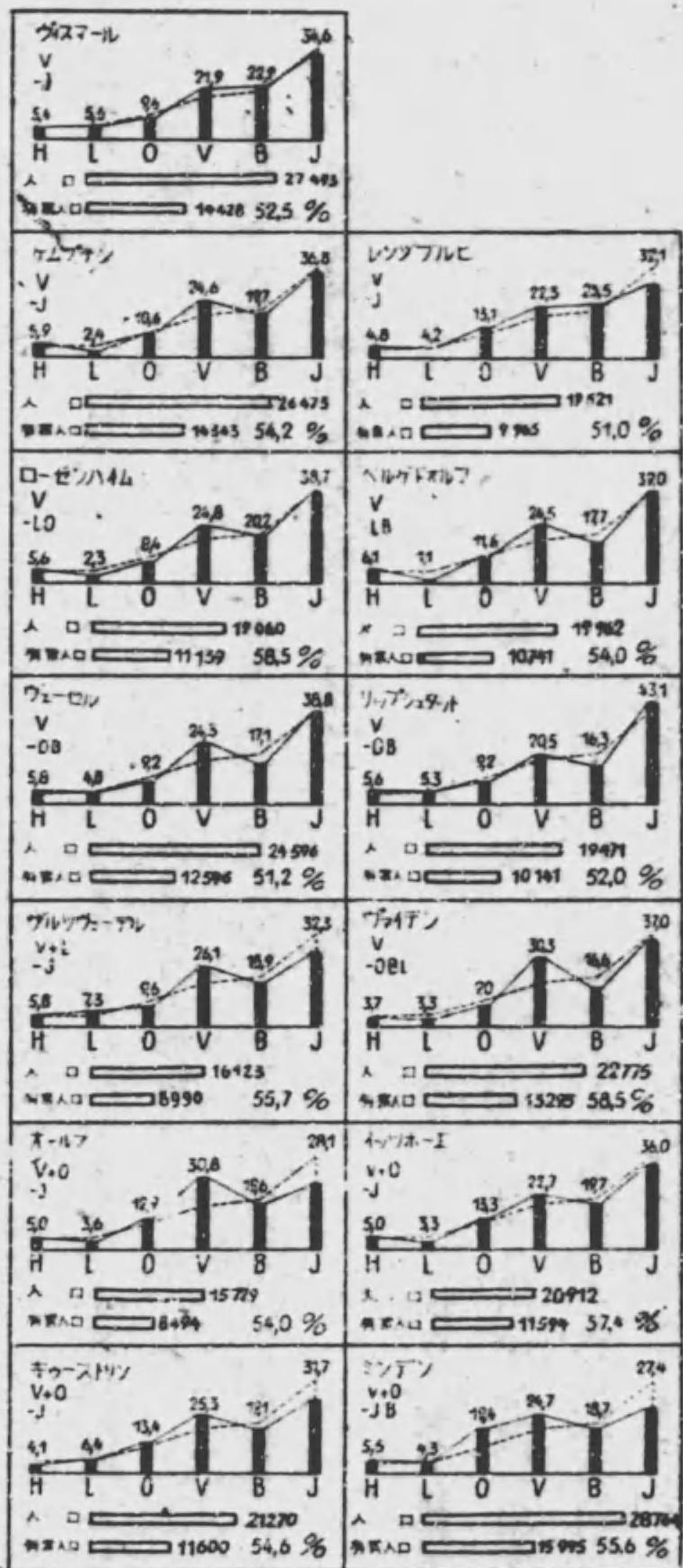


第四九圖 公務型都市平均圖

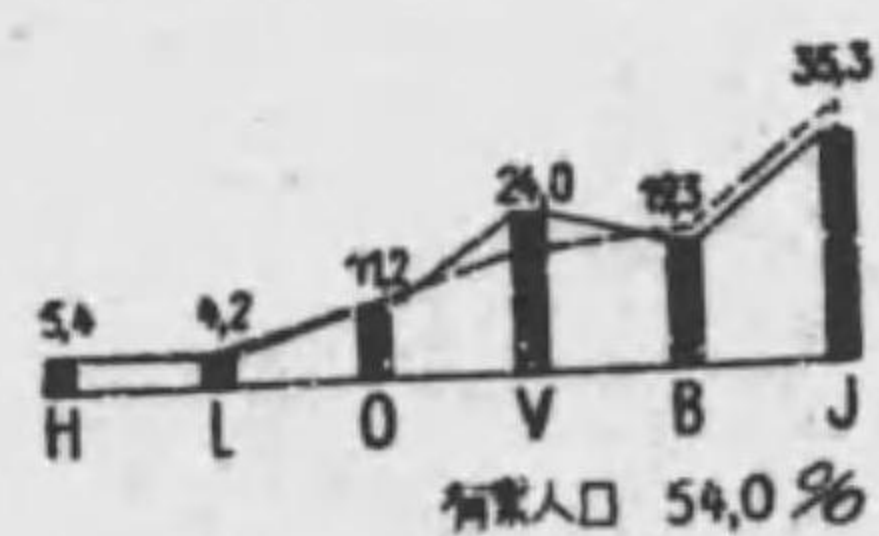
が大きな役割を演じ、何時も殆ど工業が存在しないことを示す。無職業生計者、農業並びに家事は全七二都市の平常形像部門と相應する部門を有する。

4. 經濟部門商業及交通業型 (V)

純粋な商業及交通業型都市としては七二都市のうち直ちに二三が認められる。ヴィスマール及レンツブルヒは、工業が多少缺けてゐるにも拘らず、全七二都市平均圖に酷似してゐる。ケムプテン・ベルゲドルフ及ローゼンハイムは農業に於いて缺けて居り、工業部門に於いて平均圖に接近してゐる。ベルゲドルフはその他無職業生計者に於いて多少缺けるところが有り、他方ローゼンハイムは公務従事者を殆ど有しない。リップシュタット・ヴェーゼル及び



第五〇圖 商業及交通業型13都市
6 經濟部門への有業人口配分



第五一圖 商業及交通業型13都市平均圖

ヴァイデンは三者とも無職業生計者に於いて缺けてゐる點で類を同じうする。この圖は都市が訪問者に外面的に與へる印象と謂はば無條件に等しかるべき必要はない。ここでは單に都市の特性描寫として都市に於ける従業狀況の叙述を利用したまでである。リップシュタットはまた工業部門に於いて稍々平均圖を超えてゐる。その結果、商業

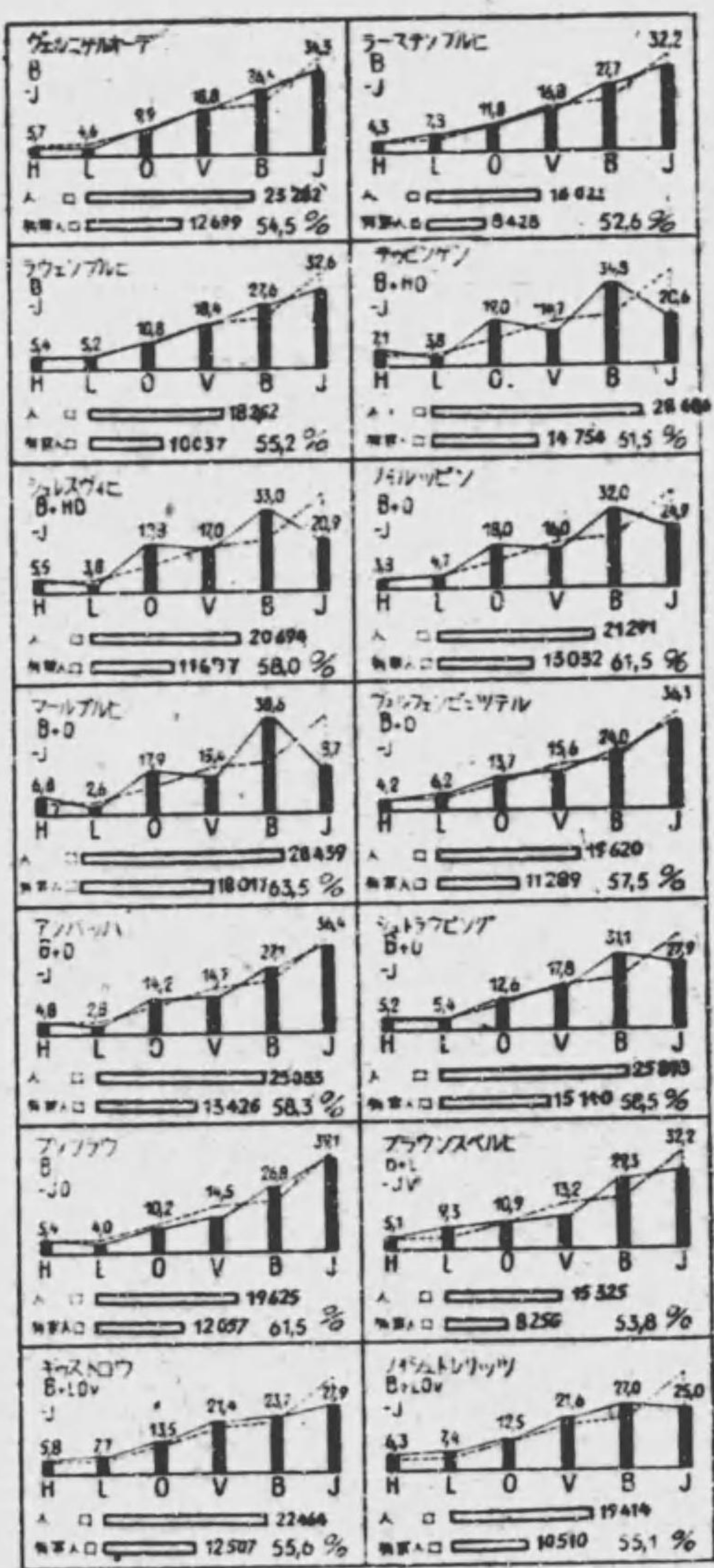
及交通業の性格に於いては特に見るべきもの少く、平均圖に接近してゐる。ヴェーゼル及ヴァイデンはその様式が酷似してゐる。無職業生計者に於いて缺けてゐると同時にまた農業も殆ど僅少に過ぎない。ザルツヴェーデルは商業及交通業と農業とが結合された唯一の都市である。こゝでもまた工業に缺けてゐる點が際立つてゐる。イツェホーエ及ミンデン並びにキューストリンは十中の八九極めて屢々現はれる商業及交通業と公務の間の結合を示す。この四都市の場合いづれも殆ど工業が僅少にすぎない。無職業生計者を比較的有しないミンデンは商業及交通業と公務の並行状態の特色を最もよく現はしてゐる(第五〇圖参照)。

一三の商業及交通業型都市平均圖(第五一圖)(DV)は全七二都市平均圖(D線條の)に接近してゐる。

5. 經濟部門無職業生計者型 (B)

(第五二圖)は一系列の都市に對して重點を置いたものであつて、これらに利子生活者の性格を與へる(これに屬する職業の枚舉に就いては七七頁を参照せよ)。七二都市のうち一四がこの類型群に屬する。ヴァイニゲルオーデ・ライステンブルヒ及ラウエンブルヒは極めて類似した圖を示してゐる。それら三者いづれも七二都市平均圖に近接して居り、工業に於いて缺けてゐることを示す。テウビンゲン、シュレスヴィヒ、ノイルッピン及マルブルヒにあつては無職業生計者と公務との組合が現はれてゐる。それは靜安な工場の少い大都會、衛成都市、行政都市の特徴である。ヴォルフエンビュツテル及アンスペッハは近似した性格を示してゐるが、工業及手工業に缺けてゐる點がそれ程強大でなく、農業も亦ヴォルフエンビュツテルの場合稍平均圖を超えてゐるのであるからさうとははりは云ひ切れないことである。ヴォルフエンビュツテルの圖が全都市平均圖に最もよく近似してゐる。利子生活者の性格が比較的明瞭に、つまり公務が同時に強調されることなく際立つてゐるのがシュトラウビングである。これは工業が他

の部門に比して著しく缺けてゐる。それに反してブンツラウ市は殆ど全都市平均圖に匹敵する工業及手工業部門を有するが、その代り商業及交通業に於いて缺けるところがある。ブラウンベルヒに於いて農業の加味された無職業生計者都市が見られる。ギューストロウとノイシュトレリツはその様式の點で共に近似してゐる。工業及手工業に於いて缺けてゐる代りに、無職業生計者と並んで農業と公務と商業及交通業の部門に於いてより大きい。

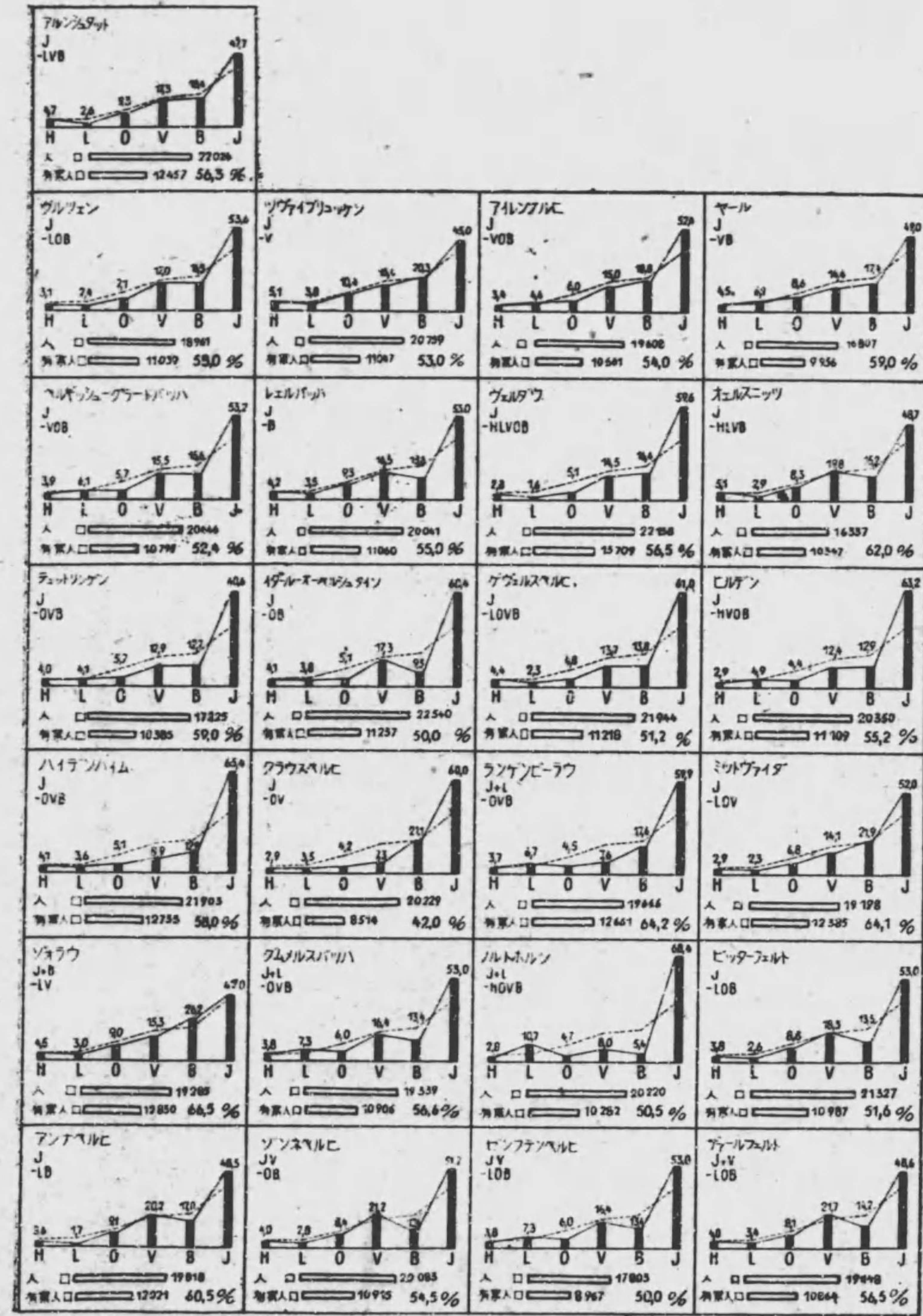


第五二圖 無職業生計者型14都市
6 經濟部門への有業人口配分



第五三圖 無職業生計者型14都市平均圖

一四都市平均圖(第五三圖)も亦、無職業生計者が優位を占めることを示すと俱に、無職業生計者に於ける大部分と公務との組合の極めて瀟々なことが如何に如實であるかを示してゐる。つまり行政都市に於いては極めて多くの場合恩給退職官吏が利子生活者として更に住み續けてゐるのである。かうした都市は殆どいづれも工業及手工業に缺けてゐる。



第五四圖 工業及手工業が優位を占める25都市
6 経済部門への有業人口配分

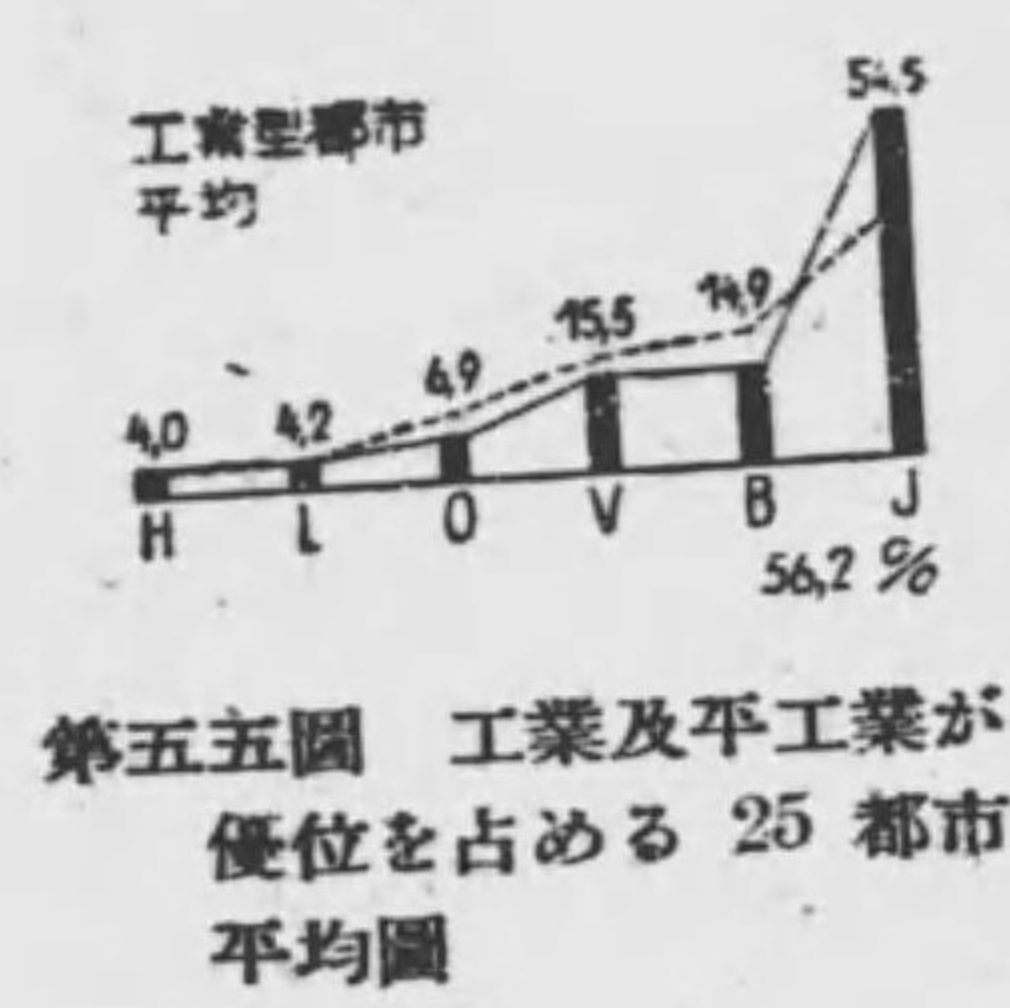
6. 経済部門工業及手工業型 (I)

は最大多数の都市の特性をなすものである。二五都市が工業及手工業の概算平均部門を有する(第五四圖)。工業の優位は大概の都市に於いて無職業生計者と公務とを控除して行はれる。アルンシュタット、ヴルツェン及ツヴァイブリュッケンは、工業及手工業が明確に強調されてゐるといふその性格圖の上から、全七二都市平常圖に可成り近似してゐる。アイレンブルヒとラールも亦平均圖に近い。だが、ベルギッシュグラーデバッハになると、もう一般圖からの距りが大きい。こゝではもう無職業生計者と公務に缺けてゐる點が最大である一方、手工業と交通業に缺けてゐる點がまるでそんなに強力には現はれてゐないことが特に目につく。ヴルツェンの圖との或る種の近似が目立つてゐる。同一の類型には、勿論何時も述べて來た形式上の點での話だが、工業都市固有の特徴を有つたものとして擧げることのできる全系列の都市が屬する。即ち、レーレルラツハ、ヴェルデン、ハイデンハイムである。ヴェルダウとオエルスニッツ大管區には尙農業と家事が缺けてゐる。ゲフェルスベルヒも亦類似の圖を呈する。クラウスベルヒとランゲンビラウに於いては商業及交通業と公務に缺けてゐる點が目につく。ミットヴァイダとゾラウの場合には無職業生計者の部門がより強く前景に現はれる一方、商業及交通業と公務が殆どまるで認められない。ゾラウの場合は工業都市が同時に年金生活者の性格を帯びる極稀な場合である。

グムメルスバッハと特にノルトホルンの場合には工業及手工業と農業の組合が極めて明瞭に現はれる。商業及交通業、公務、無職業生計者の三つの職業群がノルトホルンでは特に稀薄である。七二都市一般に現はれる無職業生計者経済部門がこゝでは最僅少の部門を形成してゐる。公務も亦殆ど四・二の最小限度である。ノルトホルンの工

業部門は最大なもの一つであり、農業部門も亦最高値數に極めて近い。従つてノルトホルンは全く異常な類型と考へられる。

次の都市群は、工業と並行して尙商業及交通業が強調されるものとなる。それに屬するものは、ピツターフェルト、アンナベルヒ、ゾンネベルヒ、ゼンフテンベルヒ及ザールフェルトである。これらは中心に位する工業都市であつて、そこから中鳴り響く騒音のためにも、また工場排出ガスに依つて空氣が汚濁されてゐるなどのためにも、大抵の場合殆ど滞留地としては客を誘致することがない。それ故一定數の年金生活者がこの地では特に必要である。



第五五圖 工業及平工業が優位を占める平均圖

全二五工業都市平均圖(第五五圖)は一般的關係を現はしたものである。一種の公務不足と、それに比しては尙強大な無職業生計者とが實に工業都市の特徴である。がまた、商業及交通業の現存が工業と並行してどの場合にもある。このことはこの部門が平均圖のこの部門のそんなに下位にはないことに依つて表現される。従つて、極端な場合を除くならば、こゝでも亦直ちにこの平均圖DIIを工業都市従業員構成に對する支點として利用し得るに至る譯である。

次の簡単な研究は、如何にしてこの點から出發して各都市の性格を夫々の固有性に於いて認識し、且つ新都市及ジードルンクに對しても亦望ましい獨自性を賦與し得るかを示す。この場合新都市發生の特殊な様式或は誘因が何よりも優先的に考察されることは云ふまでもないことである。例へば新工業に基いて四ヶ年計畫の進行と同時に發

生すべきところのジードルンクを取扱ふ場合には、先づDiの圖から發足することにならう。工場設計案(工場の有害な影響から住宅地域を保護するといふ)の合理的實施に依つて、時の進むにつれて無職業生計者の迅速な増加を期待することができる。緊密な隨所に巧妙に線狀地帯を織り込んだ都市の設計案に依つて、恐らく數年を経ないでD圖二六%の平常状態に到達してしまふことであらう。かうした新都市は、事情に依つては年金生活者や利子生活者への特種な誘引にさへ發展する場合もある。同様に公務の部門がDi圖のその部門を踏み超える可能性も成立つ。既述した圖は本來大小不定の人口數を有する諸都市の事情に對する支點とも見做され得る。この場合尙認められることは、全國平均圖も亦示してゐるところであるが、比較的小團體にとつては農業部門がより強く現はれ、他方比較的大きな團體に於いては商業及交通業が百分率上急速に増加してゐる事實である。これは、近接地區の有する六經濟部門に類似の構圖を新ジードルンクの大秩序内に企畫する場合、こゝに述べた詳論の補足として望ましいものである。然しまた大小の地區自身も、新設の經濟的發展が動き行くべき方向について注目すべき解明策を與へることが屢々ある。

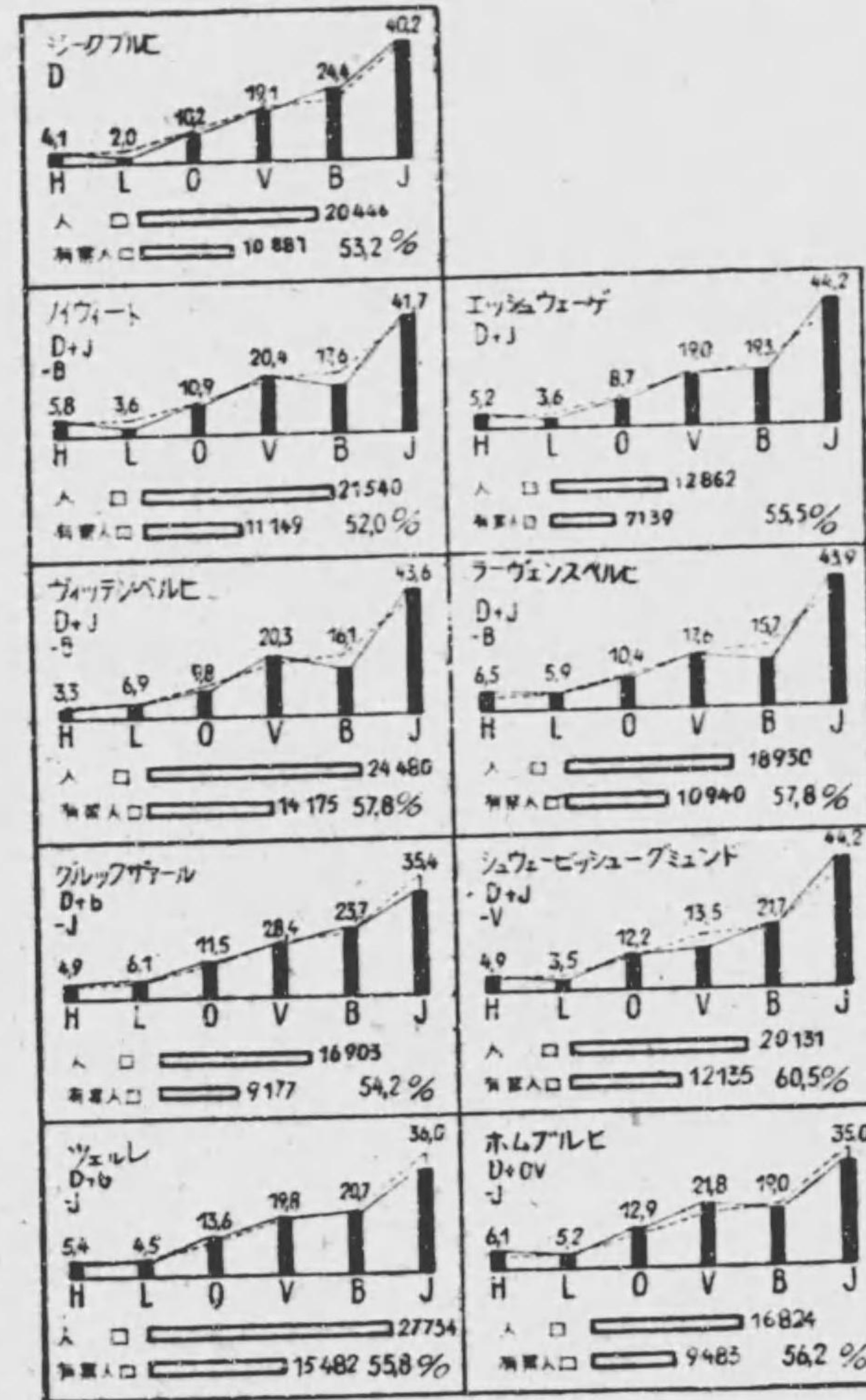
七 平均圖に近い都市、D型都市 (第五六圖參照)

本研究全七二都市機構の平均圖は研究室で微細に涉つて研究した理論の中にあるといふやうなものではなくて、生きた現實の中に極めて屢々現はれてゐるものであることを示すために、その性格がこの平均圖に最も強く接近してゐる諸都市をこゝに一群に(D型として)綜括した。

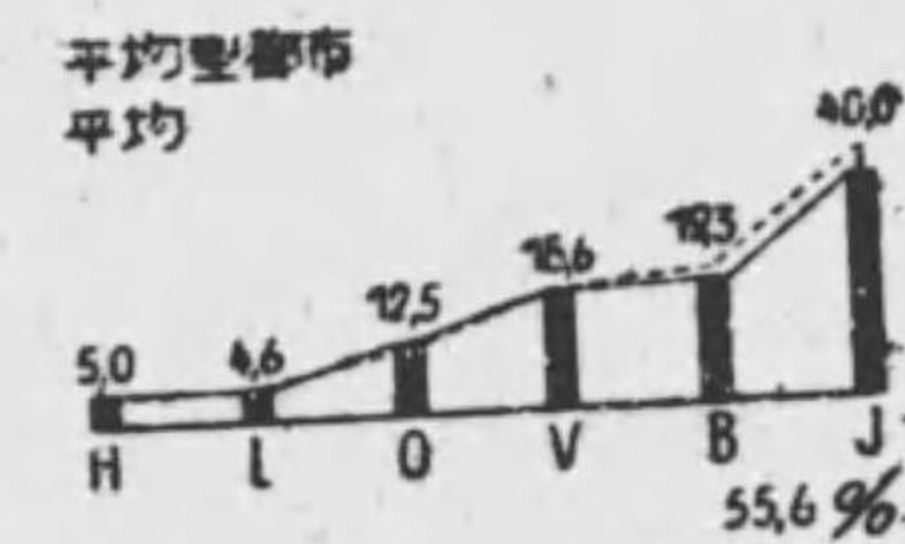
九都市がこの一群に屬する。従つてこの一群は數に於いて農業都市と公務が優位を占める都市とに優る。ジークブルヒ市が最も平均圖に近似してゐる。エッシュヴェーゲとノイヴィートは工業及手工業が些か優位を占めるに過

ぎない。と同時にノイヴィートの場合には無職業生計者に於いて些か缺けるところのあるのが見られる。無職業生計者に些か缺けるところあると同時に工業及手工業が些か優位を占めてゐるといふこの性格は、またラーヴェンスブルヒとヴィツテンベルヒの特徴でもある。これは始まつたばかりの超工業化の尙屢々は徹底的に健全な構成を有

九〇



第五六圖 平均に近い9都市(平均型都市)
6 経済部門への有業人口配分



第五七圖 平均型9都市平均圖

する都市の最初の傾向として立ち現はれるものである。シュヴェービッシーグムニンドは工業及手工業の部門が些か優位を占めるに過ぎない。こゝでは公務に於いて些か缺けるところあるのが見られる。ブルックザール・バッドホムブルヒ及ツェルは工業に於いて缺けてゐることを示し、ブルックザールに於ては無職業生計者の些かの

優位に依つて、バットハムブルヒとツェルに於いては交通業及公務の些少の上昇に依つて、この點の平衡が保たれる。この平均型九都市が全七二都市平均圖に如何に近似してゐるかは第五七圖がこれを示す。

B、國全地域に亘る型の配分

この考察の基準として第五八圖の圖表を利用する。

L型 農林業都市は如何なる場合にも既述の主農縣に限つて見出されるとばかりは限らず、また他の國地域にも見出されるものである。今述べたところでは、ブレンツラウ(ウツケルマルク)、ノイシュテッティン(奥ボムメレン)とまたノルデンハム(オルデンブルヒ)に於いて農業地方に存在する諸都市を見たのであるが、他面東プロシヤの場合にはこれ程の大きさを有する主農都市は存在しない。その他、この類型に屬するものとしては尙中部ドイツにツェルプスト、上部バイエルンにフライズィングを見る。既述の工業地域にはこのやうな都市は存在しない。
O型 公務(及家事をも含めて)が優位を占める都市は、東プロシヤの農業縣(オーステルオーデとグピンネン)とボムメルン(コールベルヒとシュヴァーネムンデ)に見出される。その他尙マイニンゲン・フルダの二都市がこの類型に屬する。この類型にとつては地方的結合は存在しない。

V型 交通業及商業都市は大多数が國家の境界或は海邊に整備せられてゐるものやうである。が差し當つてさうなければならぬ必然的理由といふものは明かに何等存在しないのである。ケムプテンとローゼンハムはアルプス山麓に在る。ライン河がドイツから離れる西部境界から程遠からぬところにヴェーゼルがある。リツプシュタット・ミンデン・ザルツヴェーデルから、ベルゲドルフ・イツェホーエ・レンツブルヒを超えてヴィスマールとキ

ユーストリンへ商業及交通業型都市の一連鎖が牽かれる。
B型 既述の住宅地区に最も適当した都市は無職業生計者が優位を占める都市である。これは可成り全国に涉つて同程度で分布されてゐる。これに属するものとしては南ドイツにテュートリンゲン、シュトラウビンゲン、アンズバツハ、西部には(但し工業地域に於けるものを除く)マールブルヒがあり、次いでハルツ山脈の近くにヴェルニゲルオーデ、ヴォルフエンビュツテル、更に遠くノルデンにはノイルッピンとギューストロウ、ラウエンブルヒとシュレスヴィッヒ、最後に東プロシヤにはラーステンブルヒがある。これ等の諸都市は明かに工業地域を遠ざかつてゐる。

I型 工業都市は大抵の場合地方に限定されてゐる。それ等は稀に農業地方に在る。バイエルンのオーストマルクは完全にこの型と異つてゐる。ヴェルテムブルヒとバーデンにはレーエルラツハ、テュートリンゲン、ラール及ハイデンハイムがある。次いでツヴァイブリュッケン及イダール、オーベルシュタイン級の工業都市は、ベルギツシユグラードバツハ、グムメルスバツハ、ヒルデン、ゲヴェルスベルヒと俱に本來的工業地域へ押しやられる。ノルデンホルンになるとも多少とも側道に外れる。更に北部ドイツになるとこの型から異つてゐる。これに反して、ゾンネベルヒ、ザールフェルト、アルンシュタット、オエルスニッツ大管區、ヴェルダウ、アンナベルヒ、ヴルツェン、アイレンブルヒ、ゼンフテンブルヒ及ゾラウ等ザクセン・テューリンゲン地方の一群は極めて強くその特性が現はれてゐる。ランゲンビーラウ及クワウスブルヒはその特徴を鑛山工業に有する。農業地域に於ける新工場設計案の設定に當つては、都市型を出来るだけ平均圖に近づけて調和ある均衡の破壊を招来しないやうにしなければならぬ。



第五八圖 型の地方分布状況

D型 鑛山型に近い都市、つまり平均性格に依つて最も健全な構造を有する都市の分布は興味のあることである。最良の經濟機構を有する諸地方、即ちヴェルテンベルヒ、バーデンにこの型が多い。ラーヴェンスブルヒ、シュヴェービッシェ、グムムンデ、ブルックザールがこれに属する。ヘツセン州に至るまでの南部ライン河地方も亦優良な小都市の構造を示す。ペッド、ホムブルヒ、ノイヴィート及ジークブルヒがそこに在る。この種の最新の都市は中部ドイツに見られる。エツシュヴェーゲ、ヴィッテンベルヒ、ツェッレがそれである。北部東部の全ドイツには遺憾ながらこのやうな都市は全然缺

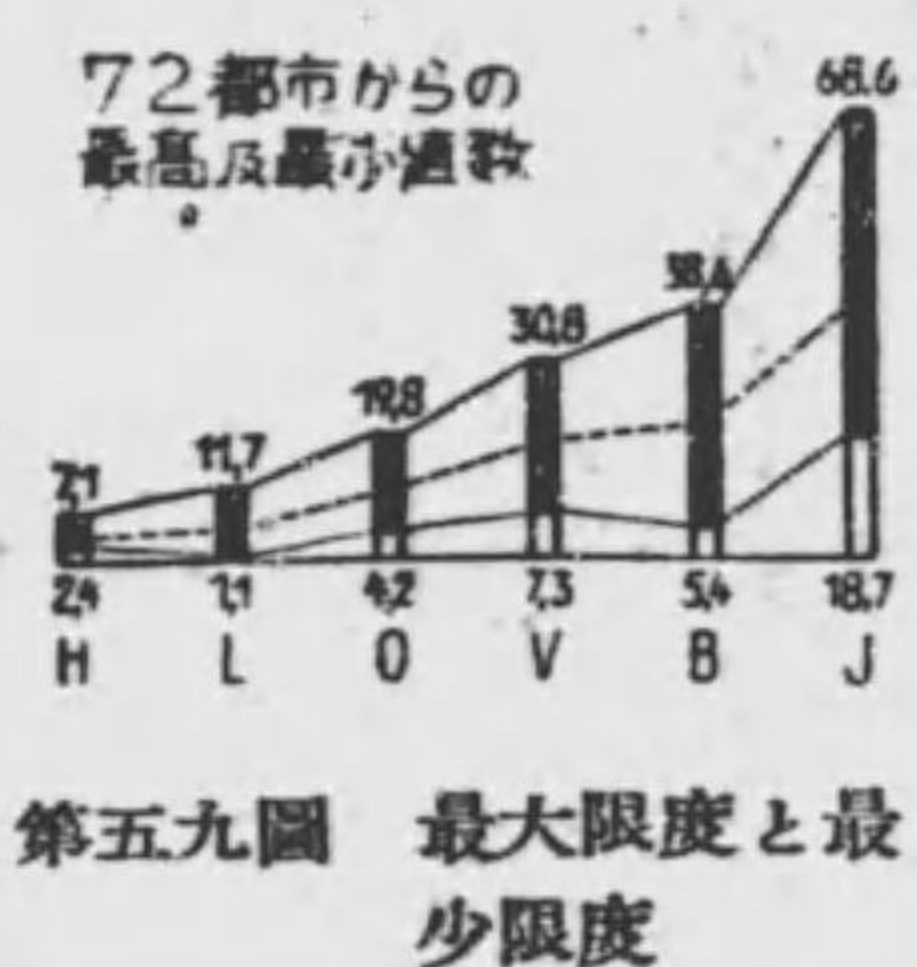
てゐる。主としてベルリンとハムブルヒの二大都市がジードルングの稀薄な廣範に亘る地方の中央に位して、北方諸州縣の性格を規定してゐるのである。茲に小中諸都市設計に就いての可能性が多分に存在することになる。就中、優位を占める經濟部門若しくは缺けてゐる經濟部門といふ點に關しては、ドイツの北部全體に亘つて彼方此方に多數の都市が散在し、それ等が工業に缺けてゐるといふ事實が明かにされてゐるのであるから、上述の可能性は尙更多分に存在することになる譯である(第五八圖參照)。

従つて主農縣と工業縣の間の交易原理(食料對産物)は何等かの方法で個々の細胞の機構へ委任される。民族のこれ以上都市化するのを防がうと欲するとき、そこには次のやうな決斷がなされなければならない。即ち一方都市を商業若しくは工業を有する主農縣へ(例へば先づ小規準の工業的課題を與へることに依つて)混和し、他方同時に工業地帯には(但しその必須にして已むべからざるものであることが立地の理由からでない場合に限り)それ以上業務を設定するのを極力阻止すること、だがまたそれと反對に、其處に集つた人間のかたまりには出来るだけ簡易に食料を供給出来るやうにするために總ゆる手段を以つて農業を殷盛ならしめること、これである。機構の二大群團に對するこの異質の經濟・ジードルング計畫原理は明瞭に識別される。根本機構中には、勿論移行性格を有する地方に於ける他の根本機構も亦存在する。かういふ機構の場合には、その地方若しくは領域内での均衡は大抵の場合比較的容易に可能なことである。國家の個々の細胞の經濟的獨立は、勿論それが一般に可能である限りでの話ではあるが、このやうにしてのみ漸次到達されることであらう。それと同時に殺人的大都市のこれ以上の膨脹には停止が命ぜられる。勿論從來の農業都市は、一方的工業都市にはなくて、唯工業を有する平常部門といふ具合にして改良さるべきであるといふに過ぎない。このやうな地方では、食料問題は容易に感得され、農業

は隣接近郊での新しい交易可能性に依つて本質から生かされる。新しく設定された工業の在り方として、原料問題と輸送問題が重要であることは云ふまでもない。

C、型の 綜 括

六種の都市型と性格に就いて今一度概観するために、茲に各種型平均圖と全七二都市平均圖とを比較しよう。茲に明かに認められることは、六つの全形象に等しい基準が全都市平均圖の形象に依つて與へられてゐることである。H・L・O・V・B及I相互の經濟部門の關係とそれ等がIに於いて最高部に迄高まること、事實は多少の



根本的に輪廓を把握することが出来る。

終りに、第六〇圖では七二都市中に於ける各種性格の類別數に就いて一目瞭然たる形像が與へられてゐるのを見ることが出来る。最も多數を示してゐるのは工業業住民が優位を占める都市である。この事實は、我國住民の發展がこの部門の尙一層の上昇を辿りつゝあるとき、益々顧慮を要することである。

差こそあれ、強く全都市の基準をなしてゐる。關係經濟部門に於ける配分が大であればあるほど變動率も亦大きい。最も強大な偏差は「工業及手工業」の經濟部門に於いて現はれる(第五九圖參照)。

I型都市群内に於いては、例へば經濟部門Iに於ける偏差が最も強大であるが、他方公務型(O)及私勤務に於ける偏差は仲々それ程明確には現はれない。従つてL、O、V、B部門に於ける有業個人の配分は、工業及手工業群の場合よりもより正確に



第六〇圖 72都市の各型配分

商業及交通業に重點を有する住民の十三都市は第三位に位する。

各種經濟群相互の關係に於いて全國平均圖に最も接近してゐる九都市がそれに續く。この比較的極めて大きな都市數は、上述せる如く、標準圖が單に假説であるばかりではなくて實際に屢々見出されるものであることを示す。

D、ドイツ都市の發生と發展

先史時代 (Hallstadt-Periode) を度外視するとき、ドイツ國土に於ける最初の都市はローマ軍團の設堡陣 (castra) として發生した。かうした兵營が設置されるべきものとなつた場所の選擇に當つては、自然軍事的見地が焦眉の意義を有するものであつた。然しローマ帝國の邊境縣に於いては、最高位の民事權力が同時に陸軍司令長官の手中に在つたので、行政技術上の必要も亦混入した。即ちアウグスタ トゥレヴィローラム (トゥリエル)、アウグスタ ヴィンデリコールム (アウグスブルグ)、ヴィンドボーナ (ヴィーン) である。二つの點に於いて常に交通事情が特殊の役割を演ずる。コブレンツ (コンフルアーンテス) の場合に於けるライン支流のモーゼル及ライン、マインツ (モグンティアークム) の場合に於けるマイン及ラインのやうに、大抵は人爲路に依つて竣工され改善された天然の入射路と貫通路との交叉點、可航河川、多くの水路の合流が特に重んぜられた。これ等多數の攻撃し難い場所が境界を強固にすると同時に出發門となつた。即ちかうして多くのライン橋梁を有したコロニア アグリッパ (ケ

ルン) はドルズネ、ティベリウス、ヴァールスやゲルマニクス軍にとつてかうした意義を持つてゐた。外ならぬケルンが一道を不屈の自由なるゲルマニア (Germania Libera) に向つて開いてゐたと同様に、ニードーライン (castra velarum) のクサンテンはバタヴィヤやベルギーに對抗する防禦及攻撃の保岩であつた。

ローマの世界支配權の壓力は殆ど専ら西部から起つたことであるが、中部ドナウ河貯水池帯の場合に於いても亦全然個々別々にはあるが南東部から行はれて來た。ドイツ南部に於いてはアルプス山脈の連鎖が軍事行動にとつて殆ど超克し難い障壁となつた。このやうにして、ローマの castra (設堡陣) から發生した都市の執れ一つとして直接には山路の出發點に沿つてゐないことが分る。ドイツ皇帝の引率するローマ軍が初めて商業と交通のため橋渡しを完成し、これ等を居城 (インタール、アイザックタール及エッチェタールに於ける) や橋頭堡 (ブリュンネン) を有する橋梁 (インスブルック) に依つて強固なものにしたのである。

オーストリア フランケン州の西部にはやがてカルルス大帝とその皇統の系譜から、最初は漂泊の官廷扈從のための宿泊所に過ぎなかつた固定都市 (アアヘン、インゲルハイム) が發展した。ニードーザクセンの壓制の結果としてハムブルヒ (僧正の居所を有する) が建設され、かうしてドイツ最初の海邊都市ハムブルクの基礎が置かれることになつた。

中部及東部ドイツに於いては、ハインリッヒ一世、通稱鳥差し皇帝がハンガリヤの強奪的侵略とスラヴ民族の前進に拮抗する護りのために中城砦を建設した。即ち中核になる都市として、背面の防禦にハルツを控へたマイssen、ゴスラフの二都市及ドエリンブルヒ (オットー大帝治下の尼僧院及國立修道院のある) である。茲でも亦軍事的必要がジードルング地點の選擇を決定した。謂はば潮流の輪環圍繞に依つて形成された半島、孤絶した縁邊の峻嶒な丘

陵背が強力な壘壁や石垣と相俟つて、包圍技術にまるで無經驗な敵に拮抗して誠に恰好な防禦の可能性を呈示した。聖ハインリッヒ二世の多數の修道院や寺院創設も亦屢々都市ジードルングの結晶點に轉化してゐる。フランケン王朝の皇帝は代々大都市創建者（黒王ハインリッヒ三世は皇帝居城ゴスラフを峻成し、ハイリッヒ四世及ハインリッヒ五世はヴォルムス及シュパイエルを完成してゐる）の足跡を踏襲してゐる。獅子王ヴェルフエン、ハインリッヒ皇帝、アスカーニエンのブランデンブルグ人及ドイツ騎士團とともに、舊帝國市場の範圍を超えたヨーロッパ北東地域の計畫的植民事業が始まる。近代數世紀の植民都市は、かうした州邦君侯の主權の發動に依つて創建され、都市法を以て裝備されたものであることは判然と知られてゐる。これ等の創設に當つては、軍事的安全性が何時でも地域の選擇に關して不可缺條件となつてゐたのであるが、この必要缺くべからざる條件と並んで今や既に一つの前提が立ち現はれてゐる。

ドイツ文化の核細胞として、ジードルングは被征服地域に涉つて出来るだけ平等に配分されなければならない。ドイツ農民がその土地からの收穫に依つて生活すべき地質を考察する一方、商人が彼の商品を、手工業者が彼の生産物や必要な原料を、大して困難せずに購入し又販賣することの出来るやうな好條件の交通事情が顧慮されなければならない。河川の渡渉近邊は、それが橋梁であらうが淺瀬（フラックフルト、アム、オーデル、シュタツスフルト、オックゼンフルト、シュヴァインフルト等がそれである。フランクフルト、アム、マインは既にカロリニングル王朝時代に建設されたものである）であらうが、特に好まれた。

地域的にはハンザ同盟の植民勢力が一層廣範に涉つて大規模に達成された。即ちハンザ同盟の事務所、工場及ジードルングが全バルト海沿岸諸國を被覆し、遠く北へ押し進み（ベルゲン）、更にロシア内奥の地に迄肉薄した（ニ

チニイ、ノヴゴロド）。

航海に携はるハンザ同盟の企圖からして自然に、河口、入江及可航水路は全然商取引の目的で設けられた彼等の碇泊保護港として扱はれた。

マークデブルグやリッベックのやうな存在權利を有つた都市が當時恰も雨後の竹の子のやうに發生し、凡そドイツ創建の時代から宗教改革に至るまで、ドイツ本來の國境外ヨーロッパ北部及東部に於いて優に一〇〇を超える數を算した。

終りに、既に中世紀の頂上に於いて、土壤埋藏財の發見がジードルング設定に當つて程度は低いが一種の役割を演じた。

最も重要な鑛産物は鹽であつた。鹽は一系列のドイツ都市にその名を賦與した。例へばハムレ、ザルツブルク、ザルツゲン、ザルツヴェーデル、ティロールに於けるハールの如きである。貴金屬はドイツの土地はこれを吝んだ。金は殆ど纔に河川の中に砂金として産出したに止まり、銀はザクセン及鑛石を産する山脈中に採掘されたが、それも適量に止まり、銅の産出は尙更稀であつて、殆ど唯一つの都市もその發生を銅の産出に負つてゐるものはない有様である。それに反して鐵鑛は中世紀の需要に對して豊富に現存した（シュタイエルマルク州、ロートリンゲン、ルール地帯、グラーフシャフト、マルク）。然し鉄鑛は、シュタイエルマルク州の依然舊い農民氣質の残つてゐる地方に於いては尙屢々見られるところであるが、廣く諸村落や個々の農家の屋敷の到るところに散在してゐる小熔鑛爐の中で行はれた。この熔鑛の饗宴が益々強く累積して田舎屋敷や村落が徐々に合成し行く處でだけは、後世になつても古代修道院を中核とした都市が形成されることがあり得なかつた。即ちエッセン（Essen）がこれである。

石炭の價値は中世にはよく識られてゐなかつた。

古來鑛泉は匹敵するもののない程高い價値評價を享受して來た。その上多くの人々は「ゲルマーネン」(Germanen、ゲルマン人種)といふ言葉はケルト語に起源を有するものであつて、「熱泉の畔に住むもの」といふことを意味するものであると主張してゐる。都市建設の歴史としては、それは先づ中世紀に於ける主權の成長に依つて意義を有するものとなつた。君候は屢々鑛泉の近くへ狩獵用遊宴用の別荘を建てた。従つてかうした官廷のまはりに、治療を求め外客の流れを相手に商賣を營むものや、各種の用益者が群り集つた(バーデン・バーデン、ヴァイルトバート、バート・ホムブルヒ Bad Homburg v. d. H. 及上述のアーヘン)。これと類似した動因が著名な巡禮地のまはりのジードルングの成長を庇護することになつた。封建諸侯もまた景勝の地に好んで彼等の永住居城を設けた。シュエツトガルトやハイルブルヒがこれである。

一六世紀の中葉はドイツ國土の上に市民都市文化の極盛を見た。そこに至るまで世界は再び擴くなつてゐた。スペインの大膽なアメリカ大陸征服者の異國發見に依つてのみならず、寧ろ轉化した意味で尙一層世界は擴くなつてゐた。騎士制度の光耀は凋落したが、また山賊や追剥も姿を消し、農民一揆は崩壊した。農奴隊やフッガー、ヴェルゼルの商人隊の限りなく續く移住民が、改良された街路、開墾されたアルプス山徑に活況を添へた。商業や工藝が豫感し得ない極に上昇した。新しい都市建設の事業は稀であつたが、然し舊い帝國直屬の都市は豊富に強力に生長した。アウグスブルヒ、ウルム、ローテンブルヒ及ドイツ都市の女王ニュールンベルヒがこれである。がこれも冷風吹き荒む冬の日の嵐のやうな三十年戰役がドイツの初期の開花を空しくするまでのことであつた。損はれなれども、いや強められさへして、この一般的崩壞の中から出現したものは纔に今や絶對となつた封建諸侯の權力であつた。従つ

て帝國に於ける最後の殆ど少數の都市建設事業も亦この事實に負ふものである(カールスルーエ・マンハイム)。

近代及最近代に至る前に、歴史的回顧の終結として、都市建設事業一般の成長と停滞と衰滅に就いて簡單な考察を試みよう。世界史と世界正義の定律がこれ程までに何等の制限もなく行はれてゐるのは此處を除いては他に何處にも存しないのである。前提をなすものは勿論都市を建設する民族の文化能力、文化意識及文化意志である。従つて、ジードルング地點の選定が先づ第一に都市繁榮に對して決定的意義を有するものであるといふ誤斷は存在しない。都市の成長、その開花及その有つ意義の度合が、ジードルング選定の正當さに對する誤りのない試金石なのである。經濟的及政治的並びに文化的威力展開の中心となるまでに成長した都市が存在する。かと思ふと殆ど其の建立を見ないままに、住民に棄て去られ、廢墟に化するまでに壊滅して行つた都市もある。都市は生きた有機體であつて、かうしたものとして生命の法則に屈從する。都市はその使命を果したとき、自然に死ぬ。選定の拙悪なジードルングの地點の上では、窮乏の果てに衰滅する。戰爭に依つて癒し難い傷を受けて絶滅することもあり得るし、都市境界の轉位に依つて存在目的と意義とを失ふこともある。風土的、氣候的變革やその他の變革が數世紀經つて一―大樁事として電光石火その生命を絶つこともある。ピサとラヴェンナは、その港灣が泥土の中に埋もれて海濱が數マイルに涉つて後退するまでは、嘗つて股賑を極めた海岸都市であつた。パピロン、ニニヴィは押し展がつて行く砂漠の蒙塵が埋没した。ボンベイはヴェズヴの火山灰が窒息させ、ヴェニスはブランケン、ハンスの巨浪が呑み盡した。リユーネブルゲルの荒野は、黒死病が荒廢させてしまふまでは、嘗つて穠り豊かな、植民のよく行はれた土地であつた。

一九世紀及二十世紀頭初の十年間に於けるドイツ都市の發展は、當時興隆して來た工業の恵み豊かであると同時に

に不祥な星辰の下に立つてゐた。中世期はドイツの國土の上に近代の意味での大都市の片鱗だに知らなかつた。人口の多いニュールンベルヒさへ、今日怕れられるものとなつてゐるやうな「都市化」の危険に脅かされることは殆どなかつた。限なく張り周らした都市の圍壁や外壕にも拘らず、解放された農民の土地との結合が猶餘りにも親密であつた。工業が始めて、民族に有害な都市と地方間の決定的分離線を引くやうに限定したものと思はれる。

蒸氣機關の發見が工業の誕生時となつたのであるが、人間の勤務へ電力が張り渡され始めたことはその元服の日と見做していい。石炭(そして現代では褐炭も亦)が最も重要な礦産物となつた。オーベルシュレージエン、ヴェストファーレン及ライン地方では、殆ど數十年経たないうちに諸新都市が勃興し、舊ジードルングは狂暴な速度で擴張された。

その上、鐵は手近かに見出され、有利な水路が現存し、稠密な軌條網がこれに附け加はるなど、かうした事情のもとにルールベッケンやライン・ヴェストファーレンの炭坑地方に見るやうな都市繁華が生じた。自動車や急行列車で急ぎ去る旅行者の眼には、それが入り組んだ家々や工場や熔鑪の行列のやうに見えることであらう。

都市が原料産出地や大交通脈から程遠からぬところに在る場合には、やがてまた立地そのものから生ひ立つて來た工場が、全國に渉るさうした大中諸都市の凡そ大部分へ襲ひかゝつて行つた。手工業は大部分工業化へと解體し、勞働力は興隆し行く時世にも拘らず漸次稀少となり、賃金は暴騰し、平地は住民に棄て去られ、都市は不均衡な畸形へと膨脹して行つた。移住者はその根を絶たれ、故郷の土との繋りはこれを悉く失ひ、「都市化」に悪化し、プロレタリアと化し去つた。民族の健全性は痛く傷つけられ、出生率は低下した。眞實に過ぎぬき手身の神モロツホ大都市が、彼自身の子供を喰ひ吞んでしまつたのである。

E、都市の位置と型の關係

都市の型は、領域的に見て(第一篇B)、ラントシヤフトの自然的所與性に依存してゐるばかりではなく、尙その上に他の影響が協力することになる。

人口約二〇、〇〇〇の都市ジードルングを新設するに當つて場所を選択するに就いては、過去の歴史的・一般的論述から推察して來たやうに、次に述べる諸點を簡略に綜括し、茲に研究した諸都市を特に振り返つて考察する必要がある。

即ち、

安全性。古くから、そして特にまた現代に於いて再び、都市建設或は擴張に對して軍事的地點がその基準になつて來てゐる(キニーストリン・舊市街、グラッツ)。今猶謂はゞ優れた全景を呈示してゐる多くの地點には明かに舊い築城が認められる。その他の點では「築城都市」の大きさは特に市場都市の場合に著しく近似してゐる。舊築城(都市)の中には普通僅々一〇、〇〇〇—五〇、〇〇〇の人間が住んでゐるに過ぎない。従つて、このやうな單位は最もよく展望され、組織化され、緊急の場合には保護されるものであることが當時一般に了解されてゐたことは明かである。小兵營都市は早くから優れた構造を示して來た。それは何時でも役人型都市(O型都市)として認められるとは限らないが、それでも工業が多過ぎるといふことはなく、寧ろ往々にして僅少に過ぎる。大抵滯留地として健康によく快適である。

比較的大きな防禦的にして經濟的な意義を有する全施設を小單位の形體をなす小都市へ配分することは、將來戰

に於いて最善の安全性を保有することである。この、工場及その他の施設の分散は、その他の一切の國防處置以上に有利である。といふのはかうして如何なる狙はれ易い目標も敵の空襲の的となることがないからである。

交通事情。多くの都市はその現存を交通が強調されてある地點の有つ事情に負ふところ大であつた(例へばレーラッハ、ツヴァイブリュッケン、ローゼンハイム)。茲に言及されてゐることは重要街路の交叉點に就いてばかりではなく、鐵道の連絡點、河川渡過點、國自動車路と他の重要道路との交叉點に就いても言及されてゐるのである。この場合注意しなければならないことは、優れた交通事情に在るかうした地點が、謂はば絶對的といつていゝ程に商業及交通業都市の型をも當然有してゐる筈であるといふことはなく、同じ程度に工業都市や或は他の種類のジードルングであることもあり得るといふ事實である。ドイツの海濱都市は、同時に常に殆ど港灣であるが、またこのカテゴリーに屬する(ヴィスマール、シュヴァーネミューンデ)。山麓の都市中心(ケムプテン、ローゼンハイム、クエドリンベルヒ)も亦その發生を、就中それが最終の或は最初の山間停留場として効果があつて、それを背景に「山間の驚異」として高まつたのであるといふ事情に負うてゐるものと見ることが出来る。従つて港灣地及山脈前景都市の場合には交通事情と並んで純風土的事情も亦與つて力があつたのである。

土壤埋藏財。多くの都市はその發生を何等かの種類の土壤埋藏財の產出に負つてゐた。それ等は典型的工業都市(クラウスベルヒ及ランゲンビーラウ)である。原料品の精製加工が大抵それに關聯する。かうして多くの吾國大都市も亦發生した。

主として強く工業化された人口過剩地帯にあつては、擴張或は新設を控目にしなければならぬばかりではなく、その産業基礎を強固にするため、寧ろ更に工場の一部と共に過剩人口の適量をこれ迄殆ど純農業的であつた地帯へ移住するに努めなければならぬ。

ない。必要原料の輸送費率が一般に低廉なものと、平地上ではそれがより一層低廉であるといふことは、作務管理上、工業分散の誘因となり得てあらう。

大都市の外局中心地。大都市扶養地域内で大都市扶養の課題を擔當する一群の小都市がある。例へばベルゲドルフ、就中ハムブルヒである。これ等が大抵隣接大都市へ素き入れられてゐる比較的大きな文化的産業的施設に缺けてゐることは勿論である。が少くともこの地點の獨立性に必要である限りの工業を其處へ移設するといふことは重要な問題である。同様にこの地點により良い購入業務を備へることは緊要缺くべからざることである。殆ど本研究の到る箇處で、確めて來たところであるが、相當な植民部分がその需要を多くの點に於いて例へば衣服や靴などの需要を隣接大都市の中に見出す。其處ではより立派に装つたり、より大幅に選り好みしたりできるやうな氣持を起させるのである。従つてこの様な衛星都市では、演説場、映畫館、圖書館、運動場等を開催する可能性を與へるやうな新しい文化的施設が特に効果があると考へられる。このことに依つて多數の人間が大都市へ移住することが制止されるだらう。

島嶼的狀態或は「島嶼」の狀態。

都市の最も明確にして純粹な形式として、農業地域の中心地に於ける都市形成作用が現はれる。都市形成作用は、農業地域に於ける一定数の小市場、小村落及村落の真中に端的に産業結晶點を形成する。このやうな都市はその謂はば島嶼的狀態に依つて特性づけられる(例へばノイシュテッティン、グューストロウ)。より小さな産業中心地が往々比較的強く經濟的にそれ等と並行しそれ等に依存して形成されて來てゐる。

新設に當つては、主として工業を混じへたこの種の都市が問題となる。といふのは、農業地域には猶多くの餘地(Raum)が現存して居り、また現在部分的に市場から遠去かつてゐるために十分に展開してゐない農業生産物も消

費中心地の建設に依つて強化されることになるからである。新設は普通農業的性格を有つた植民の稀薄な地域に於いて行はれるべきであらう。目下のところ恐らくかうした地方には一見殆ど新しい人間のための十分な生業基抵が存在してゐないとしても、産業の接穂こそは植民政策上それ自體健全な子供の多い血統へと結實し得るものである。「經濟」は、それが本來の發展し得ただらう處で何時でも既に十分に發展して來たのだらうなどと豫想してはならない。抑々の發端に於ける合意志的關與、發展への原動力と衝動は、太古以來常にその源を、國家に、先見の明ある諸君侯に、或はまた個々の大經濟指導者に發して來てゐるのである。

新しい工業設定に必要な勞働力を調達することに對しては殆ど何等思ひ惑ふことはない。若い農民子弟が、彼等の父親が最早パンの一切れも彼等に與へることが出来なくなつた場合民族を殺戮する大都會へ彷徨ひ出る代りに、彼等の狹隘な故郷の中で仕事を見出すとすれば、その方が常に尙一層望ましいことである。假令最初は完遂がより困難であるとしても、大都市や世界都市の窒息しきやうな空氣の中から、新しく生じた人口二〇、〇〇〇の都市の田園的な自然に近い領域へ世襲的に健全な勞務者家族を移植することは、恐らくは尙一層高い民族政策的價値を有つてゐることであらう。

東プロシヤに於ける作業（廣範圍の建設作業）に當つて、他の地方からの勞務者に照會した結果、若し彼等に永続的勞務と住宅があてがはれるならば、多くのものは悦んで移住するだらうといふことが確められたのであつた。

V、職業度

ジードルングの中に新にあてがはれた人間が如何なる職業に従事してゐるか、即ち彼等が何で彼等の生計を立て

てゐるかといふことは、本質的重要性を有する事柄である。工業を有する新ジードルングの場合には、この産業が危機に瀕するとき全住民を失職させるかも知れない生業基抵唯一つだけを設定するといふやうなことをしないことが望ましい。寧ろ出来るだけ幅のある多様な生業の可能性を設定するやうにしなければならぬ。

職業度、即ち全住民に就いての一定數の生業は、住民の經濟力を判定し、必要な住宅と産業的及公共的種類のその他の施設を測定するのに極めて本質的なものである。

新都市が建設さるべき場合、一般にその誘因を爲すものは今日では工業的なものであらう。従つて工場が施設されるるとき、その従業員にとつては新ジードルング或は都市が住宅地と考へられるといふ事情が生れる。都市本來の生命のために勞務する吏員、被用人及勞務者を總括したこの従業員がジードルングの生業を形成する。一定數の生業は全住民に對して稍々一定の關係を保つてゐる。職業度は家族状態と子供の數とに可成り強く依存してゐる。一世帯あたり三・六人といふ現在人口密度にあつては、全國平均で住民の五八・三%生業に就いてゐるものが現存する。家族の示す子供の數が多いほど、それだけ生業部門も少くなる。例へば、人數の増加を一世帯あたり四・五と假定すれば、生業は尙幾かに四八%に過ぎない。勿論人數の増加と共に、より多い需要に依つて生業の絶對數も亦漸増するだらう。従つて時の経過につれて、特に子供が先づ生業に就ける年齢にまで達したが自分では未だ猶一人も子供を有たないといふ場合、再び一種の平均が生ずるだらう。民族の出産夥多とその生業と同時にその經濟力との間の聯關は、吾々が一般に想定してゐるよりは遙に強力である。技術的時代は遺憾にも子供や家族や眞の民族氣質から背を向けたのである。

生業がその他の民族同胞に對して有する關係は常に標準値數のまほりを動いてゐて、この標準値數は纔に薄弱な

職業度 ¹⁾ 住民の従業員百分率	出生剩餘 ²⁾ 住民1,000人に就ての死亡者に対する出生者超過	
58.4	7.0	全 國
53.0	13.9	オーベルジューレンジエン
56.2	12.2	オルデンブルヒ
55.6	10.7	オーストプロイセン
56.8	8.7	ポムメルン
53.8	7.7	ラインプロヴィンツ
62.8	6.9	ヴェッテンベルヒ
61.2	4.0	ザクセン
62.1	1.4	ベルリン

1) R. St. Bd. 459—456.

2) Stat. Jahrbuch. des Deutschen Reiches 1936, S. 36, Tabelle 2a.

限度で變更し得るに過ぎない。子供の數の多い生長し行く民族が取扱はれるとき、そこに算入されるものは生業に就いてゐるものとしての約四八%の總數だけな譯である。これ等は勿論一人残らず完全に従業してゐるものと云つてよいであらう。出生率が低下の方向に在る場合、生業の相對數は約五八%に騰るが、その勞働力は既に最早十全には利用出來ないものである。従つてかうして四八—五八%が支點であり得るといふことになる。

家族状態或は出生の職業度に対する影響を尙明確に具體的にするために、上掲の通り若干の縣を抜き出して考察してみよう。出生が全國平均を超える場合には、全國平均に於けるよりも低い職業度が生ずる。出生が全國平均以下に低落すると直ちに、全國平均に於けるよりも高い職業度が生ずる。土地の經濟的特性も同様に職業度を確める際に重要な役割を演ずることは、今や既に一般に云はれていゝことである。例へばヴェルテンベルヒは殆ど平均に近い出生剩餘を有つてゐるのであるが、産業を

混じへたその多面的な組織の故に眞に高度の職業度を呈示してゐる。従つて家族状態だけがこの點に就いて決定を與へるばかりではなくて、その土地の機構及その地域も亦影響を有つてゐる。従つて個々の都市の各性格像に基いて素描を作る場合、人口約二〇、〇〇〇の都市を有する個々の地域の中に幾%が有業者として現存するかがまた方向を規定するものとなつてゐる。この場合個々の都市型（五つの群に就いて。第四六、四八、五〇、五二、五四の諸圖を参照せよ）にとつては何等大して本質的な相違といふものはない。各都市群からの平均を作成するとき（各群の平均カ―ヴを参照せよ）、諸都市に對して次のやうな結果を得る。

D	五五・六%
L	五四・五%
O	五五・二%
V	五四・〇%
B	五五・一%
I	五六・二%
全都市統計	五五・五%

勿論茲に看取されることは、農林業型都市と交通業及商業型都市は稍と下位部門をなす、といふのはかうした都市は恐らく子供が多いだらうから、が一方純工業都市は（子供の少いものとして）より多くの有業者を有するといふ事實である。相違は勿論諸都市群内に於いて比較的大きく、特に住民の性格とその信條に於ける地方性に基いた相違に還元される。最低の職業度は四二・二%を示してクラウスベルヒの場合に現はれる。最高はゾーラウの場合で六六・五%である。この兩者は工業都市群に屬する。然し一般に百分率はこの兩極端の附近にはなくて、大抵五四、

五五、五六の附近に在る。従つて通例人口二〇、〇〇〇の都市に對して住民の約五五・五%の有業者を過時想定することが出来る。人口二〇、〇〇〇の都市のこの百分率が五八・三%といふ全國平均の稍と以下に位するといふ事實は極めて明かなことである。といふのは大都市はその子供の数の少いために何時でも平均以上に位するだらうと考へられるからである。小さな寧ろ比較的地方的性格に近い都市は、それに反して全國平均以下に位する割り當てを有する。

上述の平均数は勿論直ちに標準數として最初の計畫の特色とすることが出来る。といふのは平均數は、今迄見て來たやうに、家族状態と共にその地點の特殊經濟機構と住民の個性に依つて、新しく形成されるジードルンク協同體の場合に變化を受けるからである。

限度は極めて明確に認定される。全國平均としては約四八%から六八%まで、七二都市にとつては四二%—六六%である。

従つて人口二〇、〇〇〇の都市にこれを適用すると、大約五五・五%の有業者を得る。即ち約一、〇〇〇の住民が生業に携はつてゐることになる。このうちには、都市に於ける移出工業或は外地工業として特色づけられ得る工業に屬する従業員と、同様に都市の有機的經濟的固有生活のための一定數の有業者が存在する。

この點に就いては次の圖がより詳細に語つてゐる。

1. 地域本來の職業と外地的職業の規定付け

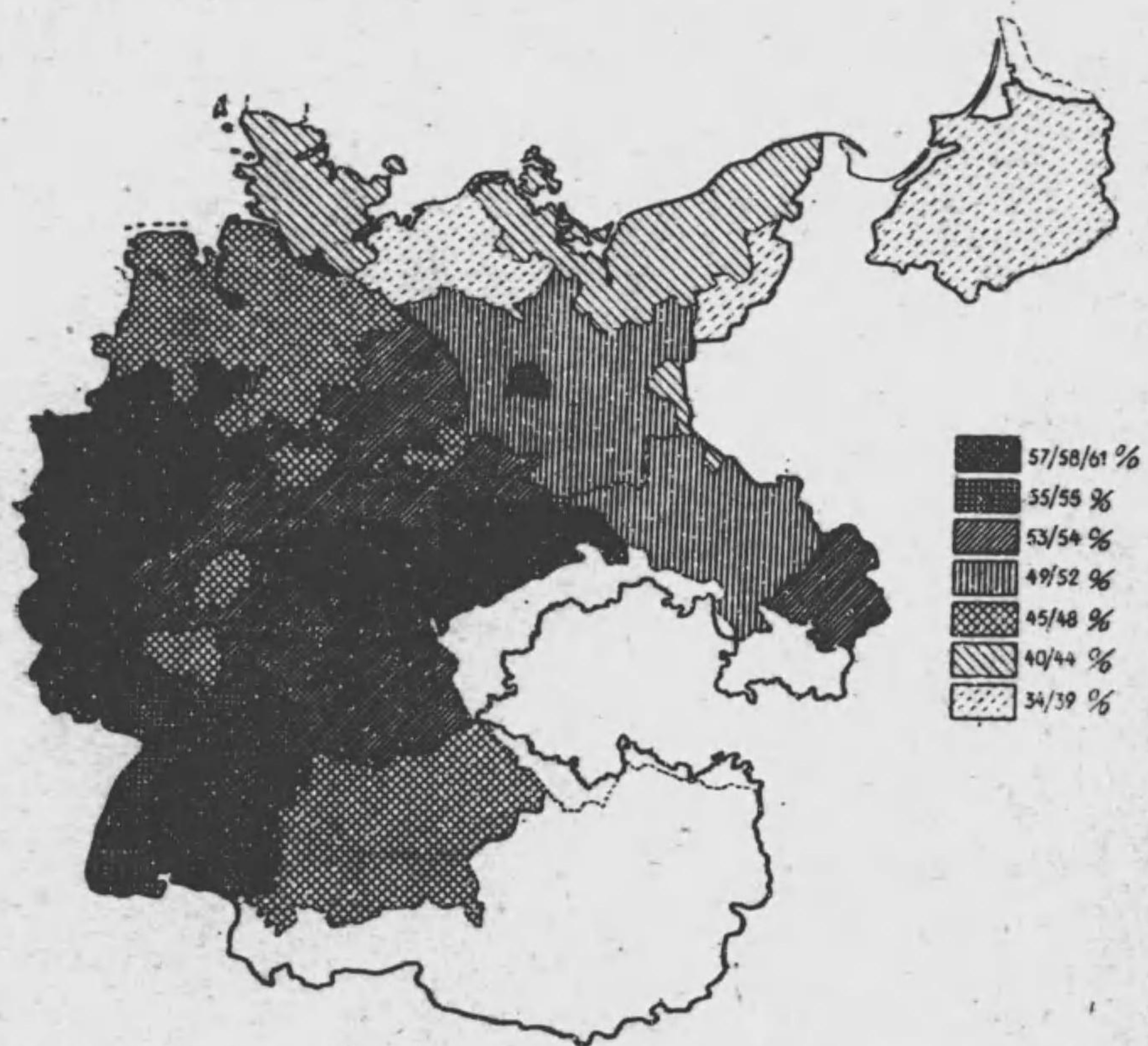
協同體員自體の扶養を司らなければならぬ或る數の従業員は、各ジードルンク協同體に所屬する。この一群の従業員は往々近縁有業者として特色づけることが出来るが、また本來的職業群とも名付けることが出来る。各都市は都市固有の生活を越え、就中尙一層大きな協同體に於いて地方圏内の諸課題を果さなければならぬのであるが、

都市と都市所屬の扶養地域とを同一協同體に屬する組織と考へるとき、従業員はこの使命に於いても尙また本來的資格を有する。

人口二〇、〇〇〇の都市には既にそれ以上一定數の有業者が登上する。彼等は都市住民或はまた都市周邊地の住民の扶養のために勞動するのではなくて、主として國家經濟の框内で一役を演ずるが、地域的聯繫に對しては何等の役割をも果さない「外地扶養」の職業或はまた外地向け勞動の職業に従事するものである。かうした工業は都市の「移出工業」として特色付けることが出来る。従つてこれ等は外地から都市の中へ金錢を持ち込む。同様に利金生活者や高位行政官吏や或はまた國防所屬員は彼等の生活費を國家又は上位地方官廳から受けて都市の中で支出する。例へば學生も亦外部から都市の中へ金錢を持ち込む一群である。

イーゼンベルヒ博士は調査の結果この問題に就いて廣範に渉る資料を得られたが、茲にその中から若干の支點を報告する好意を寄せられた。氏は必需活動と疎縁必需活動とに區別した。イーゼンベルヒ博士の次の陳述が大略の見透しを與へる。

1. 農業（及林業）は、最も強大な本來的扶養性を有するとしても、生産過程に在る場合には疎縁必需活動の性格を有する。
2. 疎縁工業は、その地域に於ける本來的外地扶養工業を包括する。
3. 疎縁商業は即ち都市と大經濟組織體との間の過程を取扱ふ商業である。
4. 公務は、本性上本來的扶養性をもちない。といふのは、ジードルンクのその他の機構が完全に變はる場合、例へば大景況の波が現はれる場合には、収入も或は支出も双方を有するからである。次に公務



第六一圖 一九三三年度營業數から見た商業及交通業並びに工業及手工業全有業者百分率に於ける遠距離有業者。イーゼンベルヒ博士調査

は、取引を行ふこともあるだらうが、それとも一義的に近縁有業者或は疎縁有業者の孰れとも所屬分けすることは出来ない。

5. 本來的近縁生業は次のやうに分類される。

- (a) 手工業
- (b) 建築業
- (c) 近縁商業
- (d) 勤務

6. 無職業生計者はその地域の商業上の經濟生活要素として近縁必需活動に所屬する。

全國に就いての概観として、先づイーゼンベルヒ博士に依つて好意的に準備された圖(第六一圖)を掲げよう。茲では商業及交通業型と工業及手工業型

經濟部門の場合の有業者總體の百分率中に於ける疎縁有業者が示される。百分率は三四乃至六一%の間を動搖する。で近縁有業者の百分率がその都度都度の餘數をなして一〇〇%となることになる。従つて兩經濟部門の場合の全有業者百分率に於ける近縁有業者は六六乃至三九%の間を動搖する。この値數は勿論全都市及村落を含んだより大きな地域に關係する。更に下に述べた調査方法に依つて、最低率としてのV商業及交通業、I工業及手工業部門の中に近縁扶養的性格を有するものとして見出し得る(六種の經濟部門の)全有業者の百分率一八・七七・三二・二六%に達する。商業及交通業と工業及手工業に於ける一定數の有業者の全有業者に對する百分率は、吾國都市の場合には一八・六三・九・九二・五八となる。従つてそのうち(最も少數のもの例へばライオンランド、ウェストフアールン、ヴェルラムベルヒの諸縣及ザクセン自由國に對して現はれる數に従へば約二九%のうち)纔に一六・八の近縁有業者が當該兩經濟部門に於いて現存するに過ぎない。一方我々の確めたのは二六%となつてゐる。

工業及手工業に於ける疎縁必需活動者の最高數は人口一、〇〇〇に就いて、ビルマーゼン都市圏の場合三四五を以つて最高なることをイーゼンベルヒは確めた。人口一、〇〇〇に就いての疎縁生活必需活動者に於ける最低部門は、イーゼンベルヒに従へば、シュート トンデルン圏に於いて僅に九となつて現はれるに過ぎない。全國平均して人口一、〇〇〇に就いて疎縁必需活動者約八五の割當てになる。

非農業的人口一、〇〇〇に就いての工業及手工業關係疎縁必需活動者の數も亦一覽して興味がある。

一、〇〇〇に就いて一五 シュート トンデルン(最低部分)

一、〇〇〇に就いて三五〇 ビルマーゼン市(最高部分)

一、〇〇〇に就いて一〇七 全國平均

人口の最も多い都市と最も少い都市（シュトゥットガルトとゲルゼンキルヘン）双方を比較するとき、総人口中毎一〇〇人に就いて、シュトゥットガルトに於いては二三・八、ゲルゼンキルヘンに於いては一四・八の近縁必需品有業者となる。凡その見當、人口の約五〇%が生業に就いてゐるものと假定すれば、ゲルゼンキルヘンに於いては有業者の二九・六%が自己本來的扶養性を有するものとなる。これが大都市にとつての最低率である。吾々の調査したところに依ると、有業者の約二九%を以つて近縁必需品活動性若しくは自己扶養的性格を有するものと見做すことが出来る。イーゼンベルヒの調査方法に就いては、尙一般に、この場合近縁若しくは疎縁有業者として全職業群がその経済的任務の上から明かにされた事實を附言してをかなければならない。勿論屢々商工業はまた一部分近縁有業的であり一部分疎縁生業的である。この技業の区分は單に全然概算的査定に従つて行はれ得たに過ぎない。だがそれにも拘らず調査は極めて價値のある支點を與へてゐる。

吾國の都市の場合には、屢々商工業が單に自己扶養的であるばかりではなくて、一部はまた取締りの出来ない程外地扶養的である。従つて自己扶養の範圍に對しては唯一つの調査方法があるに過ぎない。即ち七二都市の孰れか一つに於ける各經濟群の中に一般に現はれる有業者の最少限度を調査することである。

後に掲げる第六二六七圖の中には、全都市に現存する六種の經濟部門に於ける最少割當てが、全有業者の百分率に於いて示されてゐる。この最低値數が、細い線をひいた全七二都市平均圖值數と同様、如何に相似してゐるかが先づ明である。

純粹に自己扶養的な經濟部門としては、先づ家事と農林業が擧げられる。家事にとつては外地扶養は問題となり得ない。人口二〇、〇〇〇の都市の都市領域内に在る農林業はその本性上自己扶養のために力を致すことになる。

無職業生計者（恩惠生活者）は、茲でもまた都市に對して謂はゞ外國爲替を齎らす有業者の一群に屬する。公務も亦その殆ど大部分がこのやうな地點では近縁有業者のレツテルをつけられる。特に一見して分らないものは、商業及交通業と工業及手工業の兩經濟部門に關する事情である。といふのは、その業務が自己扶養的とも外地扶養的とも見做すことの出来るこの場合には、それを辨別するのは最も困難なことだからである。

工業都市Iと無職業生計者が優位を占める都市Bを調査した結果（その個所を参照せよ）、工業都市の側では無職業生計者に於いて最少割當てが現はれ（ノルトホルン）、他方逆にB型都市の側では工業に於いて最少割當てが現はれる（マールブルヒ）といふ事實が間然するところなく明かになつた。従つて、工業割當てが高度になつて、都市の中に喧騒や臭氣の煩はしさが立ち現はれるにつれて、都市の中に居住し残らうとする利金生活者の割當てが益々少くなる。ところがまた逆に、都市が既に無職業生計者の性格を帯びること多くなつて來るにつれて、工業が快適な滞留地としての都市の價値を貶しめないやうに、却つて都市が心遣ひしなければならなくなる。一八・七といふマールブルヒの場合に於ける工業及手工業の最少割當てが、一般に手工業の本來的自己扶養的存立の基準となることの出來るものであらう。といふのは、茲では本來の工業操作が何等行はれてゐないからである。二〇・六といふ値數を有するチュービンゲンの場合にも亦、都市の自己扶養に必要な就業手工業者等々の數に對する支點となる。無職業生計者の割當てに就いて一般に云はれ得ることは、既に述べたやうに、この經濟部門は工業都市を避けるといふこと位に過ぎない。事實全國平均圖は存在する、特に九都市の場合には、この兩經濟部門の暫定的合成圖或は關係圖が殆ど達成されてゐる位である。だが無職業生計者經濟部門は、その地域の農業的關係に對應して全然異つた風にも形成され得る性質のものである。公私の勤務行爲と商業及交通業の二經濟部門が同様に一緒に考察されなければ

ばならない。といふのは、これ等は同一都市、即ちクラウスベルヒに於いて最低値数として現はれるからである。クラウスベルヒは工業都市である。これは、可成り大きな隣接都市の真中に在るといふその位置に依つて、上述の兩經濟部門に於ける極めて少數の割當てから獨立の資を得てゐる。上位の公務機關はこの場合より大きな隣接都市の中に在つて、交通も亦一部分はその都市に依つて左右されてゐる。茲に現はれる最少低割當ては次の通りである。即ち、商業及交通業七・三%、公私の勤務四・二%、六種の全經濟部門の最低値数は、自己扶養的職業者としての有業者三九・一%となる。

2. 他の方法に依る結果との比較

然し、第三篇商工業に就いての緒言に於いて調査したところから、O・V・Iの三經濟部門に於ける生業者のうちどれ程の数が自己扶養的性格を有つたものと見做され得るかといふ問題が生ずる。其處で調査された四二都市の中に現はれる商工業は、無條件に自己扶養的なものとしてい、調査の結果を後に掲げる圖と比較すると何等大した相異のないことが分る。都市職業度約五五%を基抵とするとき、總有業者数は一一・一〇〇に等しい。

七二都市に於ける三經濟群の最低割當ては次の通りである。

公私の勤務行爲	0	四・二%
商業及交通業	V	七・三%
工業及手工業	I	一八・七%
三つの総計		三〇・二%

三經濟群總體で三〇・二%といふ百分率は、有業者數約三、三五〇人に相當する。これに自己扶養の保證を與へる

有業者を加算すれば、その結果約三、四〇〇人といふ數が生ずる。

二つの全然相異つた調査方法から出ながら双方異常に接近してゐる結論は、二つの道が當然必要な結果に通じてゐるに違ひないといふ事實を示す。一方の結論は他方の正しいことを確める試金石である。従つてまた躊躇なく七二都市から由來したまゝ、他の三經濟部門に於ける最低率を、標準數として利用することが出来る。

全體として三〇・二%に尙、

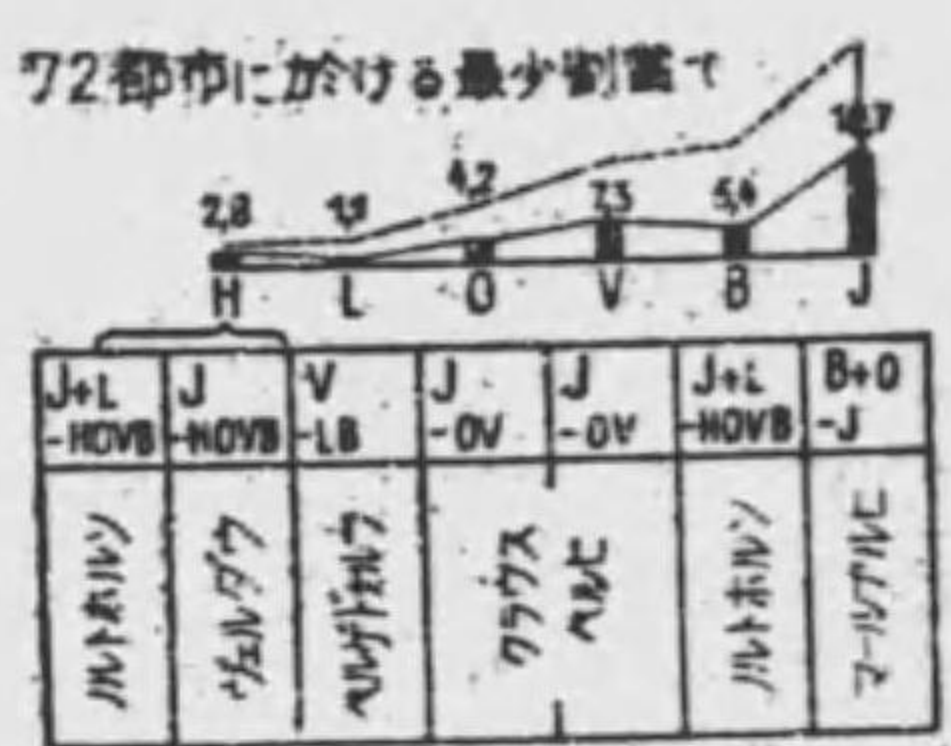
2.4%	H
1.1%	L
+ 5.4%	B
8.9%	

が加算される。従つて約三九・一%の有業者が最少自己扶養者として要求され得る。

萬遺漏なきを期するため、新協同體の場合に三〇%を想定するとすれば、後になつて萬一の場合に尙擴張することの出来る最少基準が凡ゆる場合に豫想される。それはまた既に業務の擴張に依つて就業者だけ大きな操作の可能性を獲得することでもある。従つて、その殘餘七〇%の有業者は、自領域の市場に對してばかりでなく、また一部或は全部が外地の市場のために労働する職業、或はその支拂ひが外部から來る職業に置かれる。

3. 經濟部門相互の並列關係

個々の經濟部門相互の並列關係を明かにするため、個々の都市群の中で各型にとつて現はれる最少割當て圖を、次の六つの圖の中に再び描寫しよう(第六二圖參照)。



第六二圖

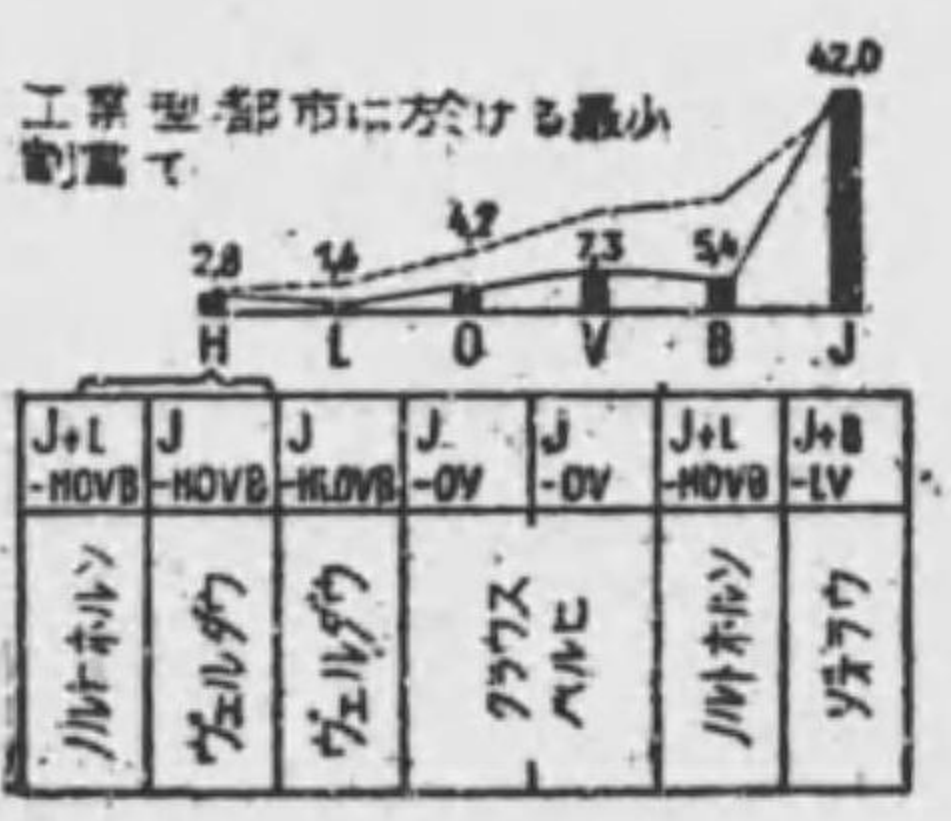
1. 工業及手工業型都市の都市群の場合に現はれる最少割當て圖から、支配的工業の場合には往々他の全經濟部門が極めて稀薄なのが普通であるといふ事實が判明する。最少割當ては常に他の都市に於いて現はれることが自ら首肯される(第六三圖參照)。

2. 無職業生計者が優位を占める都市に於ける經濟部門に對する最少割當て(第六四圖參照)は、無職業生計者が多數である場合には、商業及交通業に於ける割當ても甚しくは小規模であることはいふ事實を示してゐる。同様に公務の場合には最少割當

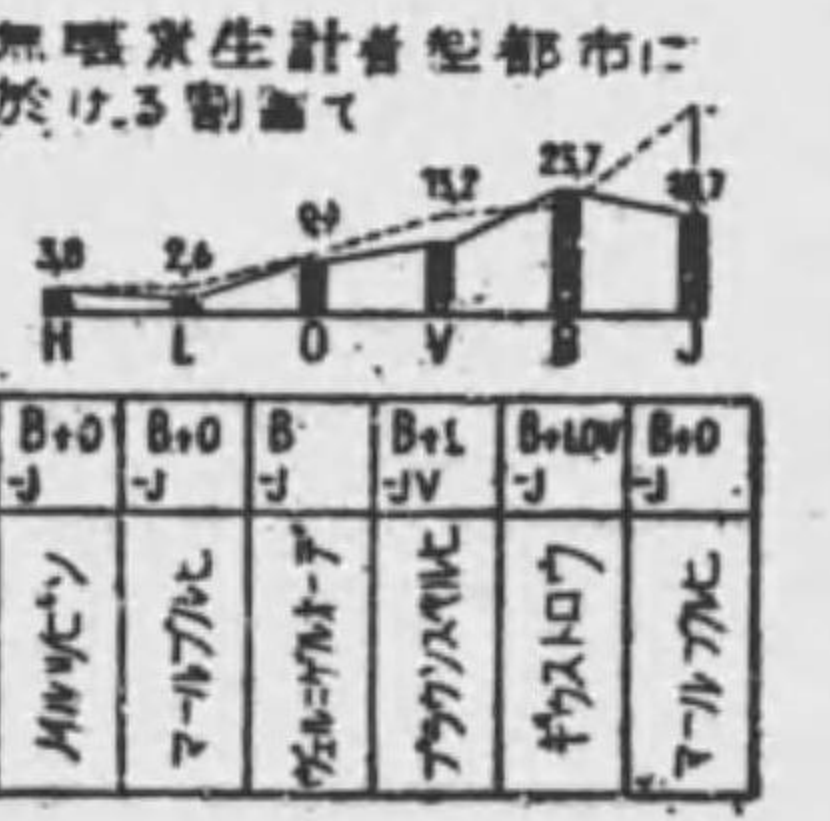
てに對して全七二都市平均圖により一層接近してゐる。その代り工業及手工業に於ける割當てがこれらの都市の場合には極めて僅少であることは勿論である。

一般に有業者綜體として、無職業生計者の割當ては可成りの高率を示してゐる。經濟部門Bは工業及手工業に次いで最大である。従つて新都市の場合、無職業生計者の一定數を豫め考に入れて、その地域の經濟に對してこの圏域に於いても亦同様の取引が保證され得るやうにすることが大事である。純工場勞務者都市は、より富裕な圏域が一層多く現はれる都市と同じ程度によく發展した商業が現存する可能性を呈示することは殆どないであらう。その他、無職業生計者の割當ては、吾が民族の漸増し行く一般的老年化につれて、今後數十年間に更に大きくなるであらう。

3. 商業及交通業型都市に於ける最少割當て圖(第六五圖參照)は、またしても興味あるも



第六三圖



第六四圖



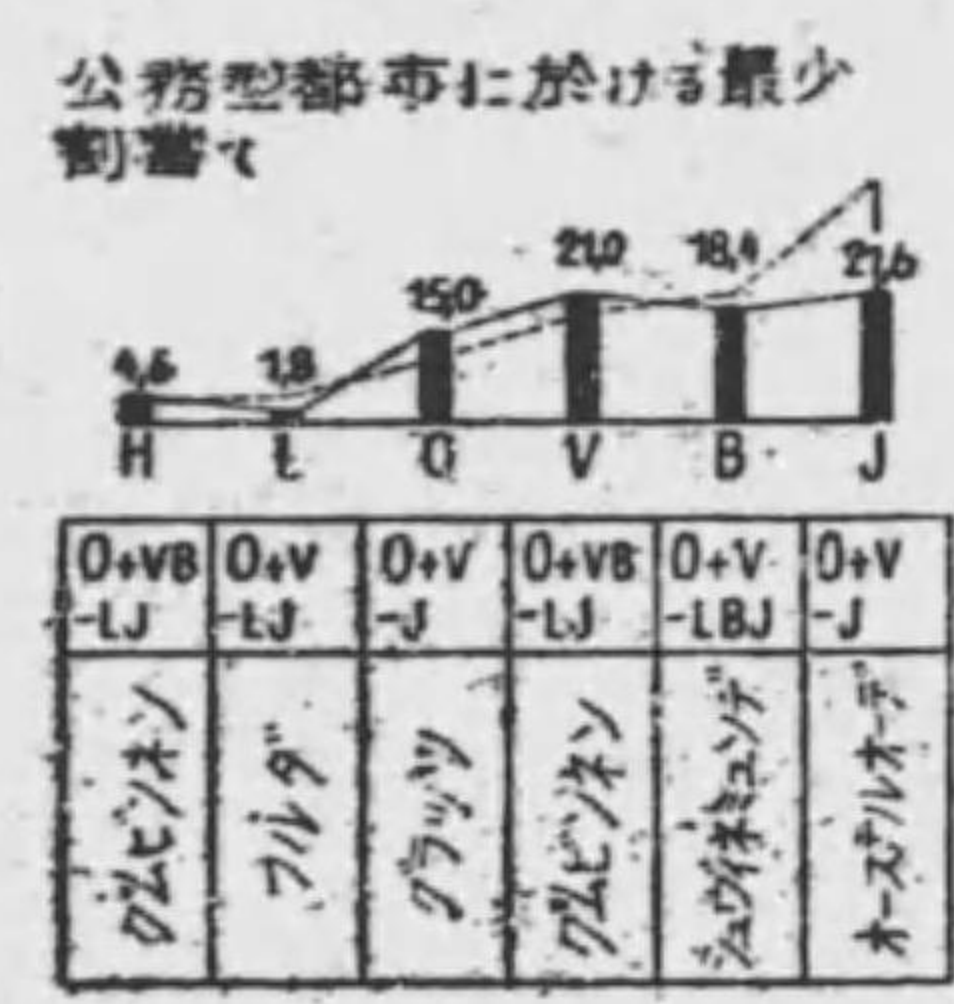
第六五圖

のであるが、無職業生計者のもとに在る商業及交通業が強調されてゐるにも拘らず、公務に於いても亦最少限に達してゐないことを明瞭に示してゐる點に於いて、興味深いことである。無職業生計者は、一般に信じられてゐるよりは一層強く商業及交通業と繋ぎ合はされてゐる。如何なる場合でも、工業及手工業型都市と農林業型都市の場合よりは交通業及商業型都市の方がより一層無職業生計者の最少割當てが大きい(第六六―六七圖參照)。工業割當ても亦、商業及交通業

にとつての方がやはり稍々大きい。工業は、商業及交通業に重點が置かれた都市とも、また同様に農林業都市とも

調和する。

4. 公務が優位を占める都市に現はれる最少割當て(第六六圖參照)は、これまた公務が商業及交通業と如何に強く結ばれてゐるかを示す。公務型都市の場合には、商業及交通業の割當てが平均以下に在ることは決してない。工業に



第六六圖

於ける最少割當ては、茲で再び交通業及商業型都市と農林業型都市に在る場合より稍々低下する。然し公務の影響は尙また無職業生計者にまでも及ぶ。この點に於いても亦、V型都市とL型都市の場合よりはO型都市の場合の方が、最少割當てが尙一層高率である。その他、公務が優位を占める都市の場合には、經濟部門H(家事)が比較的高い値數をとることが目につく。O型都市に於ける家事の最少値數は、全都市が殆ど平均値數に近い。この事實も亦極めて説明し易いことである。といふのは、高級官公吏が全然家族なしで生計を立てると

いふことが極めて稀である一方、比較的大きい獨立業務の經營は例外として、他の植民園が扶養する家族はそれ程多くないのが普通だからである。

5. 農林業型都市の場合に現はれる最少率は、この種の都市に於いては茲に掲げた圖の左側に在る經濟部門HとDとが尙常に或る種の高率を示してゐるといふ事實、それ等が相互に稍と七二都市平均圖に相應し得るやうな關係に在る(勿論尙一層深い状態に於いて)といふ事實を示してゐる(第六七圖參照)。



第六七圖

☆ ☆

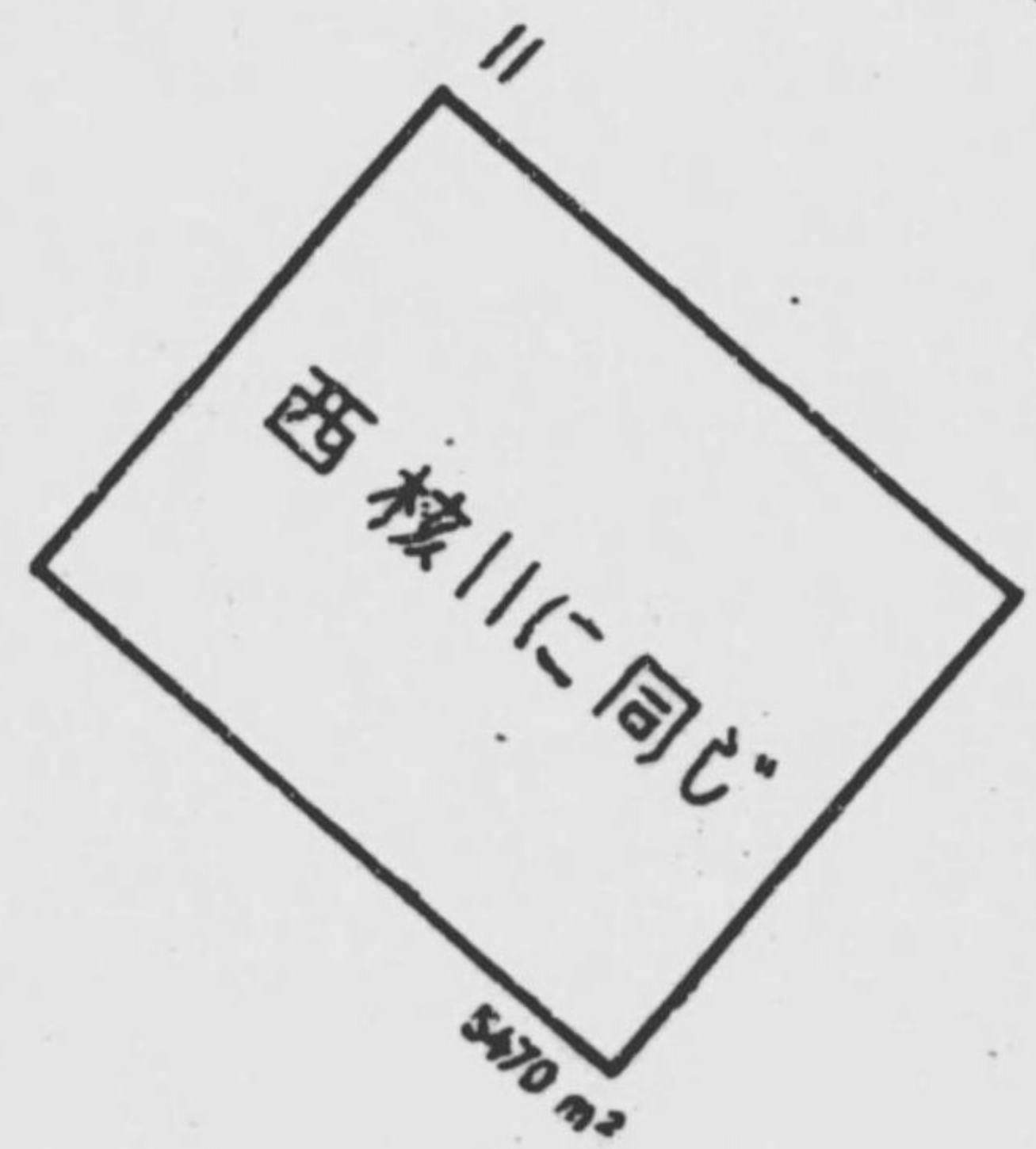
れ等三部門のうち孰れか一つが重きをなすとき、その他のものは如何なる場合にも最少値數を以つて現はれることがない。公務が商業及交通業並びに無職業生計者に對して優位を占める際の影響は特に強力なものがある。

(以上第一篇完)

一、挿入圖一第一圖より第六七圖迄全六七圖。
一、附録第一表一葉

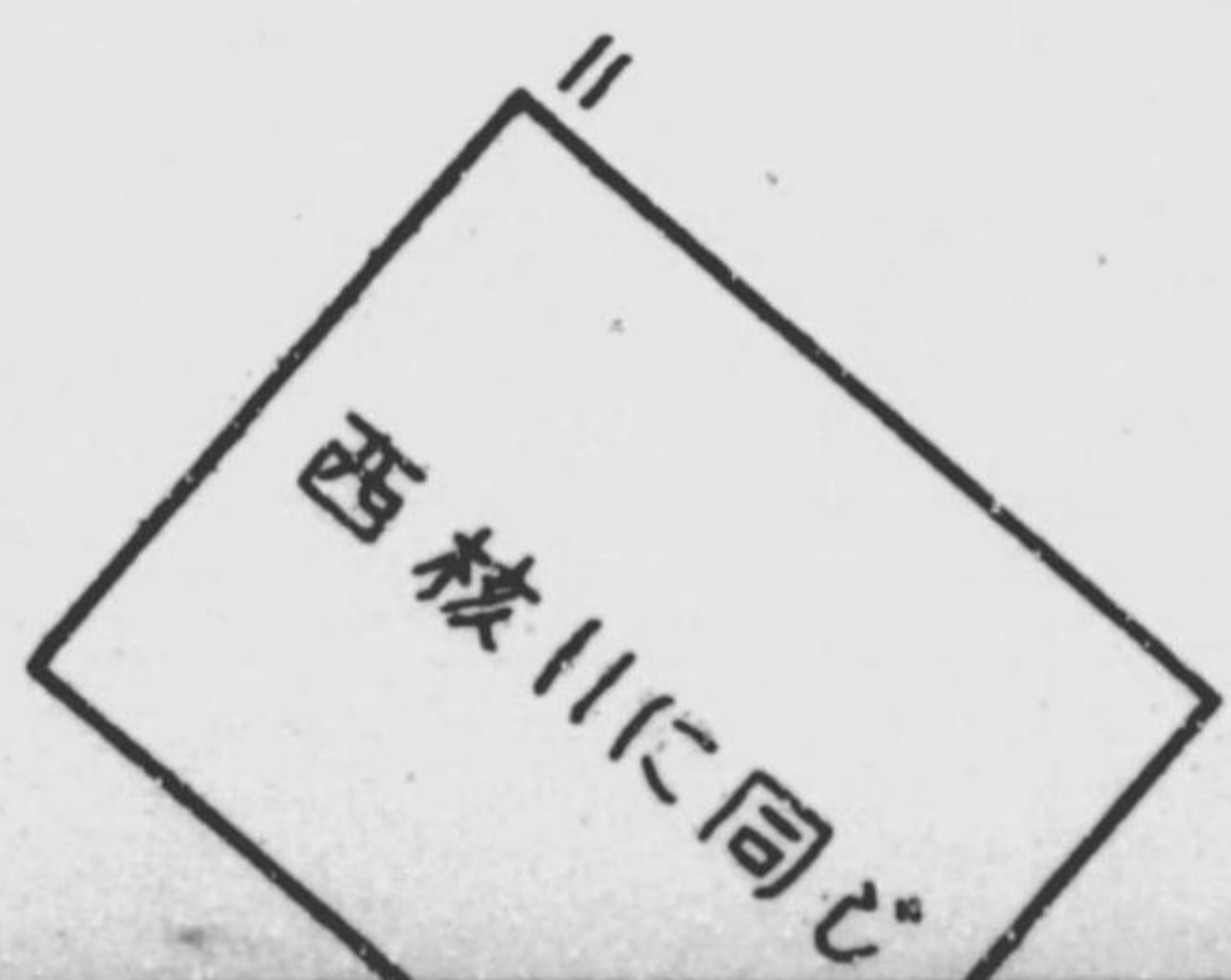
附録

[飛行場: 1350000m²=135ha]



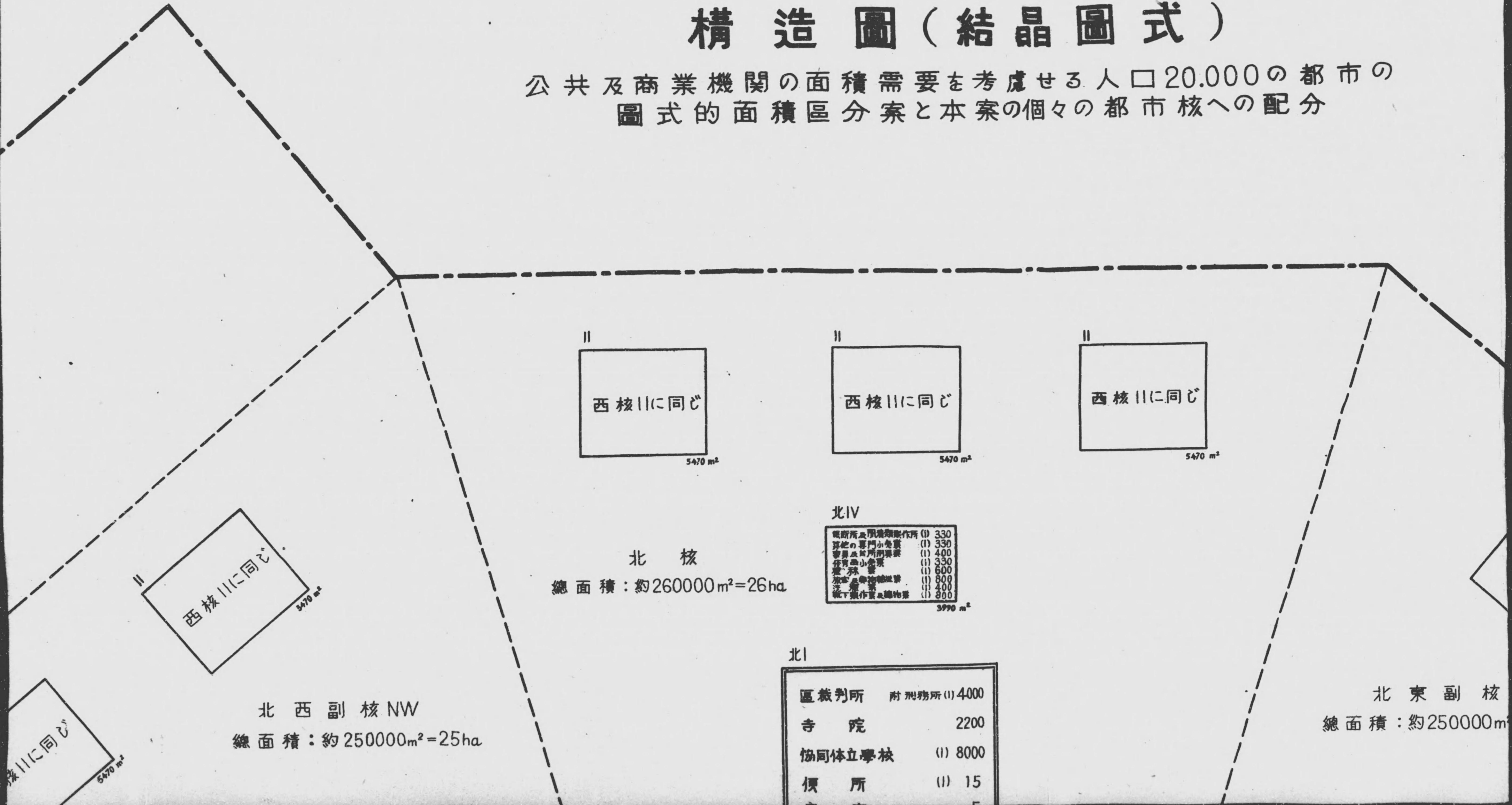
副核

250000m²=25ha



構造圖（結晶圖式）

公共及商業機關の面積需要を考慮せる人口20,000の都市の
圖式的面積區分案と本案の個々の都市核への配分



II
西核IIに同じ
5470 m²

II
西核IIに同じ
5470 m²

II
西核IIに同じ
5470 m²

II
西核IIIに同じ
5470 m²

北核
總面積：約260000m²=26ha

北IV

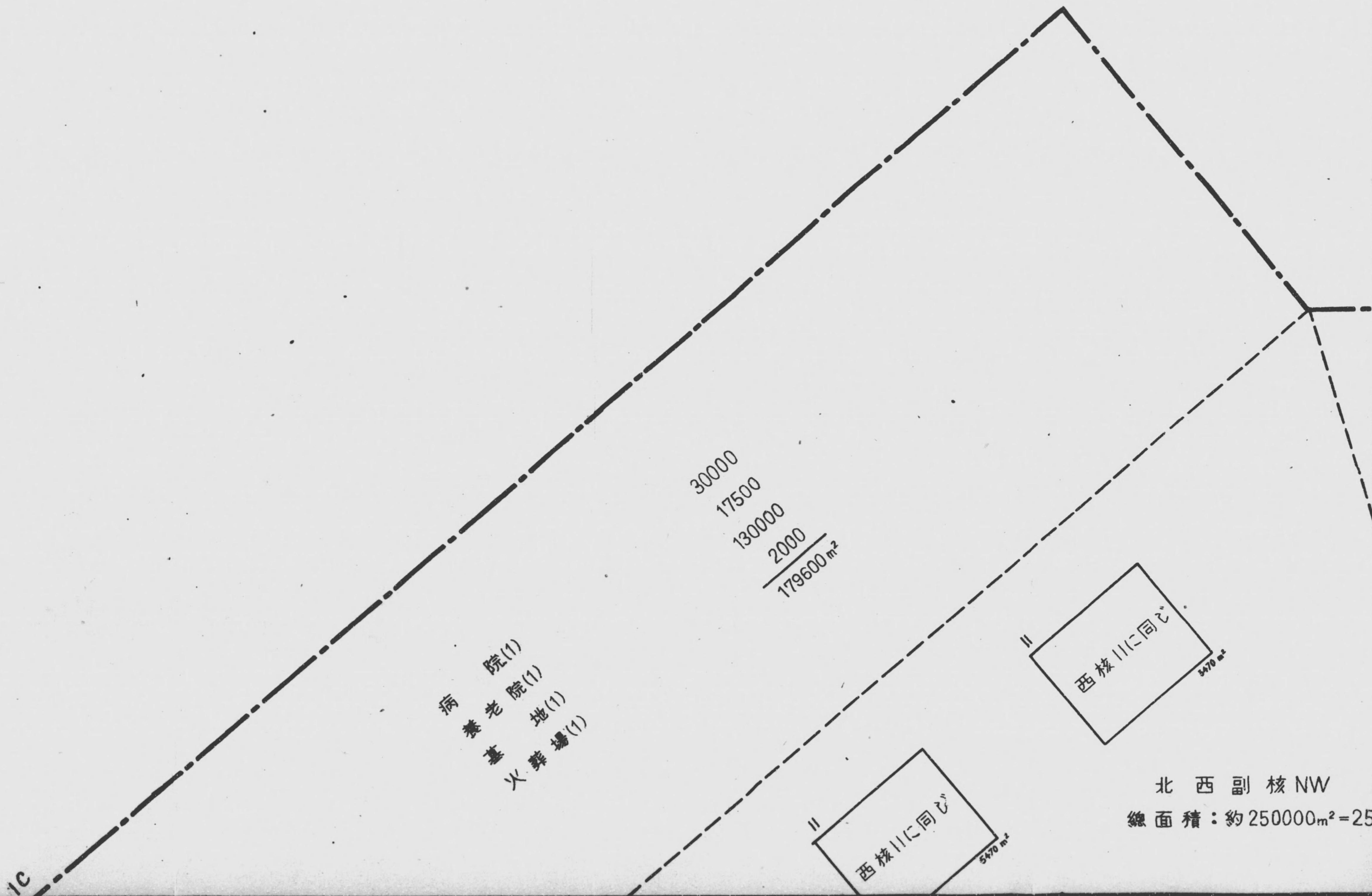
裁判所及刑務所	(I) 330
その他の専門小売業	(I) 330
娯樂及新聞印刷業	(I) 400
保育及小売業	(I) 330
業・林業	(I) 600
業・印刷業	(I) 800
注・業	(I) 400
地下業作業及購物業	(I) 800
3990 m ²	

北I

區裁判所	附刑務所 (I) 4000
寺院	2200
協同体立學校	(I) 8000
便所	(I) 15

北西副核NW
總面積：約250000m²=25ha

北東副核
總面積：約250000m²



30000
 17500
 130000
 2000
 179600 m²

病院(1)
 養老院(1)
 墓地(1)
 火葬場(1)

西核IIに同じ
 5470 m²

西核IIに同じ
 5470 m²

北西副核NW
 總面積：約250000m²=25

西核IIに同じ
5470 m²

北核
總面積：約260000m²=26ha

事務所及関係事務所	(1) 330
其他の専門小売店	(1) 330
安売店	(1) 400
安売店	(1) 330
安売店	(1) 600
安売店	(1) 800
安売店	(1) 400
安売店	(1) 800

3990 m²

北西副核NW
總面積：約250000m²=25ha

(2)	(1)
(3)	(1)
(4)	(1)
(5)	(1)
(6)	(1)
(7)	(1)
(8)	(1)
(9)	(1)
(10)	(1)
(11)	(1)
(12)	(1)
(13)	(1)
(14)	(1)
(15)	(1)
(16)	(1)
(17)	(1)
(18)	(1)
(19)	(1)
(20)	(1)

3520 m²

協同体立学校
幼稚園・托児所(乳児院)・幼少年保健院 (1)3300
(1) 8000
11300 m²

北I

區裁判所	附刑務所 (1) 4000
寺院	2200
協同体立学校	(1) 8000
便所	(1) 15
売店	5

14220 m²

北東副核
總面積：約250000m²=25ha

北東VI

事務所及関係事務所	(1) 330
其他の専門小売店	(1) 330
安売店	(1) 400
安売店	(1) 330
安売店	(1) 600
安売店	(1) 800
安売店	(1) 400
安売店	(1) 800

4050 m²

III
西核IIに同じ
11310 m²

北東I
南西Iに同じ
11300 m²

III
西核IIIに同じ
11310 m²

III
西核IIIに同じ
11310 m²

主核
總面積：約180000m²=18ha

II

食料品及嗜好品	(3)
小売店	(3)
事務所及関係事務所	(2)
安売店	(1)
安売店	(1)
安売店	(1)
安売店	(1)
安売店	(1)

2735 m²

III

械庫小売店	(2) 740
大工及家具店	(2) 800
河堤及管理	(2) 800
業者	(1) 1600
事務所及関係事務所	(1) 350

II

食料品及嗜好品	(3) 600
小売店	(3) 600
事務所及関係事務所	(2) 400

V

種 業	(4) 1000
弁護士公証人	(4) 600
理 髪 屋	(3) 600
保 険 業	(3) 990
其他の専門小売店	(3) 600
医 者	(2) 800
黄金屋五層	(2) 400
銀 本 屋	(2) 400
労働局	(1) 4400
州審議院	(1) 4100
郡貯金局	(1) 1900
NSDAP本部	(1) 2500
国立郵便局	(1) 3000
市役所	(1) 35
警察署	(1) 35
便所	(1) 15
消防隊	(1) 1200
救護院	(1) 1200

V

機械小売店	(1) 200
靴製品卸売店	(1) 250
保管及監視所	(1) 250
競売及買取業	(1) 200
不動産組織	(1) 350
旅業及貨物組織業	(1) 250
酒及給食	(1) 400
印刷製版所	(1) 800

II
左IIニ
同ジ

III
西核IIIに同じ

東I
寺院 (1)
職業及
高等學
映画館

東IV

食料品卸売業	(4)	3200
製菓所及印刷製菓製作所	(2)	660
家庭用電気	(2)	800
衣料品卸売業	(2)	1600
宿泊及給養業	(2)	1600
給湯所及ガレージ	(2)	3250
弁護士及公証人	(2)	1600
郵便所	(1)	800
製靴業	(1)	370
帽子及袋製業	(1)	370
原形品卸売業	(1)	800
セメント及コンクリート品業	(1)	330
其他の専門小売業	(1)	330
洋食品小売業	(1)	330
雑貨小売業	(1)	370
製菓品卸売業	(1)	400
種株業	(1)	600
保管及貯蔵業	(1)	400
車大洗業	(1)	400
洗濯業	(1)	400
銀行及貯蓄局	(1)	330
印刷業	(1)	400
理髪業	(1)	330
機械修理業	(1)	800
時計工場	(1)	370
馬場	(1)	800
		22110 m ²

東I

寺院 (1)	2200
職業及専門学校(1)	3000
高等学校(1)	8000
映画館 (1)	2000
便所 (1)	20
売店 (2)	10
15230 m ²	

西IIIに同じ

11310 m²

同じ

5470 m²

西核IIに同じ

5470 m²

西核IIに同じ

5470 m²

停車場 160000 m²

南東副核

総面積:約 250000 m²=25ha

510 m²

西Iに同じ

11300 m²

南東VI

製菓所及印刷製菓製作所	(2)	660
家庭用電気	(2)	800
衣料品卸売業	(2)	1600
宿泊及給養業	(2)	1600
給湯所及ガレージ	(2)	3250
弁護士及公証人	(2)	1600
郵便所	(1)	800
製靴業	(1)	370
帽子及袋製業	(1)	370
原形品卸売業	(1)	800
セメント及コンクリート品業	(1)	330
其他の専門小売業	(1)	330
洋食品小売業	(1)	330
雑貨小売業	(1)	370
製菓品卸売業	(1)	400
種株業	(1)	600
保管及貯蔵業	(1)	400
車大洗業	(1)	400
洗濯業	(1)	400
銀行及貯蓄局	(1)	330
印刷業	(1)	400
理髪業	(1)	330
機械修理業	(1)	800
時計工場	(1)	370
馬場	(1)	800
		4700 m ²

西核IIに同じ

5470 m²

西核IIに同じ

5470 m²

種株業	(2)	600
農具製作所	(1)	370
製材所	(1)	2000
製鋤場	(1)	950
理髪屋	(1)	660
鍛冶工場	(1)	400

VIII-G. 10180 m²

発電所 (1)	5500
都市/車輛管理場 (1)	4500
屠殺場 (1)	8000
下水装置 (1)	4000
街路掃除 (1)	
塵埃運搬 (1)	20000
42000 m ²	

IA

体役所(1)	4800
學校(1)	8000
エージェントハイム(1)	8000
館(1)	2000
(1)	2200
(1)	2000
(1)	35
(1)	5

27040 m²

III

抗服品小売業	(2)	740
大工及家具匠業	(2)	800
周辺及管理業	(2)	800
医者	(1)	1600
飲食所及調理製作所	(1)	350
食料品卸売業	(1)	800
園藝業	(1)	2500
華道小売所	(1)	370
電気設備所	(1)	400
庭前屋	(1)	400
アソビ屋	(1)	400
台所用小売所	(1)	400
機械小売所	(1)	370
種球業	(1)	600
歯科医及義歯製作所	(1)	800

11310 m²

II

食料品卸売業	(2)	740
小売店	(2)	800
調理師及調理師	(2)	800
製作所	(2)	800
種球業	(1)	2500
パン屋	(1)	370
肉屋	(1)	400
製菓業	(1)	400
理髪業	(1)	400

2735 m²

V

種球業	(4)	1000
弁護士及公証人	(4)	1600
理髪業	(3)	600
保険業	(3)	990
其他の専門小売店	(3)	600
医者	(2)	800
食金屋及金工	(2)	400
製本業	(2)	500
銀行及貯金局	(2)	400
体育用品小売店	(2)	400
家具小売店	(2)	500
陶器及磁器	(2)	660
原料品卸小売	(2)	500
大工及家具匠業	(2)	500
帽子及服飾具製造業	(2)	450
複製品小売業	(2)	450
服飾及服飾製作所	(2)	400
魚屋	(1)	250
園藝業	(1)	200

2735 m²

労務局(1)	4400
州本病院(1)	4100
郡貯金局(1)	1900
NSDAP本部(1)	2500
国立郵便局(1)	3000
市役所(1)	35
警察署(1)	35
派出所(1)	1250
消防隊(1)	1000
救難監視所(1)	5000
市立貯金局(1)	5
国立銀行(1)	1300
市場(1)	2000
書店(2)	1700
本屋(1)	3000
映画館(1)	1700
廣間及浴槽沐浴(1)	3500
幼稚園 托兒所 幼少年保護院(1)	3000
職業及専門學校(1)	

31490 m²

V

機械小売店(1)	200
複製品卸売店(1)	250
保管及監視所(1)	250
競売及買取業(1)	200
不動産組織(1)	350
旅客運送業(1)	250
宿泊及給食(1)	400
日刊新聞印刷所(1)	800
機械修置業(1)	800
庭園業(1)	410
時計製作所(1)	225
鞆織細工業(1)	250
煙草掃除業(1)	250
歯科医及義歯製作所	400

16205 m²

II

左IIニ
同ジ

2735 m²

III
西核 IIIに同じ

11310 m²

III

複製品小売業	(2)	440
大工及家具匠業	(2)	500
周辺及管理業	(2)	500
医者	(1)	800
飲食所及調理製作所	(1)	200
食料品卸売業	(1)	250
園藝業	(1)	2500
華道小売所	(1)	370
電気設備所	(1)	400
庭前屋	(1)	400
アソビ屋	(1)	400
台所用小売所	(1)	400
機械小売所	(1)	370
種球業	(1)	250
歯科医及義歯製作所	(1)	400

4990 m²

核
00m² = 25ha

南西 I
協同体立學校(1)
幼稚園 托兒所(乳兒院) 幼少年保護院(1) 3300

8000

11300 m²

南西 VI

種球業	(2)	660
種球業	(1)	400
種球業	(1)	600
種球業	(1)	400
種球業	(1)	370
台所用製作所	(1)	400

3200 m²

III
西核 IIIに同じ

11310 m²

III
西核 IIIに同じ

11310 m²

III
西核 IIIに同じ

11310 m²

南東 I
南西 Iに同じ

南 I

税務所(1)	2800
博物館(1)	2000
協同体立學校(1)	8000
便所(1)	5

- 無料浴場(1) 20000
- 運動場(1) 80000
- 開進廣場(1) 5000
- 青年宿泊所(1) 7700
- 集会所(1) 10000

122700m²

パン屋 (1) 400
 魚屋 (1) 400
 靴屋 (1) 370
 理髪屋 (1) 330

5470 m²

II
 上に同じ
 5470 m²

II
 上に同じ
 5470 m²

西IV

- 裁縫所及洋服類製作所 (2) 660
- 宝石材料工業 1600
- 給油所(耐震)カーブ (2) 3250
- 靴革製品製作所 (1) 400
- 原料及半製品卸賣店 (1) 800
- 異地/専門小売業 (1) 330
- 体育用品小売業 (1) 330
- 床屋 (1) 330
- 理髪業 (1) 330
- 理髪業 (1) 600
- 旅客及貨物輸送業 (1) 800
- 宿泊及給養業 (3) 800
- 機械修理業 (1) 800
- 理髪業 (1) 330
- 時計修理業 (1) 870
- 洗濯業 (1) 400
- 靴業 (1) 800
- 帽子及袋等製造業 (1) 370
- 車大工業 (1) 400

13370 m²

西I

- 協同体役所(1) 4800
- 高等學校(1) 8000
- ヒットラーユージェントハイム(1) 8000
- 映画館(1) 2000
- 寺院(1) 2200
- 病院(1) 2000
- 便所(1) 35
- 売店(1) 5

27040 m²

III

- 紙張小売業 (2) 740
- 大工及家具区業 (2) 800
- 同業及修理業 (2) 800
- 区署 (1) 1600
- 裁縫所及洋服類製作所 (1) 350
- 食料品卸売所 (1) 800
- 圖書業 (1) 2500
- 雜貨小売所 (1) 370
- 電気設備所 (1) 400
- 並前屋 (1) 400
- フリヤ屋 (1) 400
- 台所用器具小売所 (1) 400
- 機械小売所 (1) 370
- 雜貨業 (1) 600
- 歯科医及歯科器具製造業 (1) 800

11310 m²

南西副核
 總面積：約250000m²=25ha

面積：

本来的都市地域内部に	
街路用地	317 200m ²
公共施設	146 000m ²
管業	310 340m ²
純住宅地域	1 370 400m ²
	2 143 940m ² 2 143 940m ²
本来的都市地域外部に (緑地及私設工場を除く)	
公共施設	544 100m ²
管業	10 180m ²
	554 280m ² 554 280m ²
總面積	2 698 220m ²

II
 西核IIに同じ
 5470 m²

II
 西核IIに同じ

南西VI
 裁縫所及洋服類製作所(2) 660
 理髪業 (1) 400
 靴業 (1) 600
 理髪業 (1) 400
 理髪業 (1) 370
 台所用器具製作所 (1) 400

3200 m²

南西I
 協同体立學校(1)
 幼稚園 托兒所(乳兒院) 幼少年保護院(1) 3300
 8000
 11 300 m²

西核

南東VI
 1) 400
 2) 370
 3) 400
 4) 350
 5) 370
 6) 800
 7) 370
 8) 500
 4700 m²

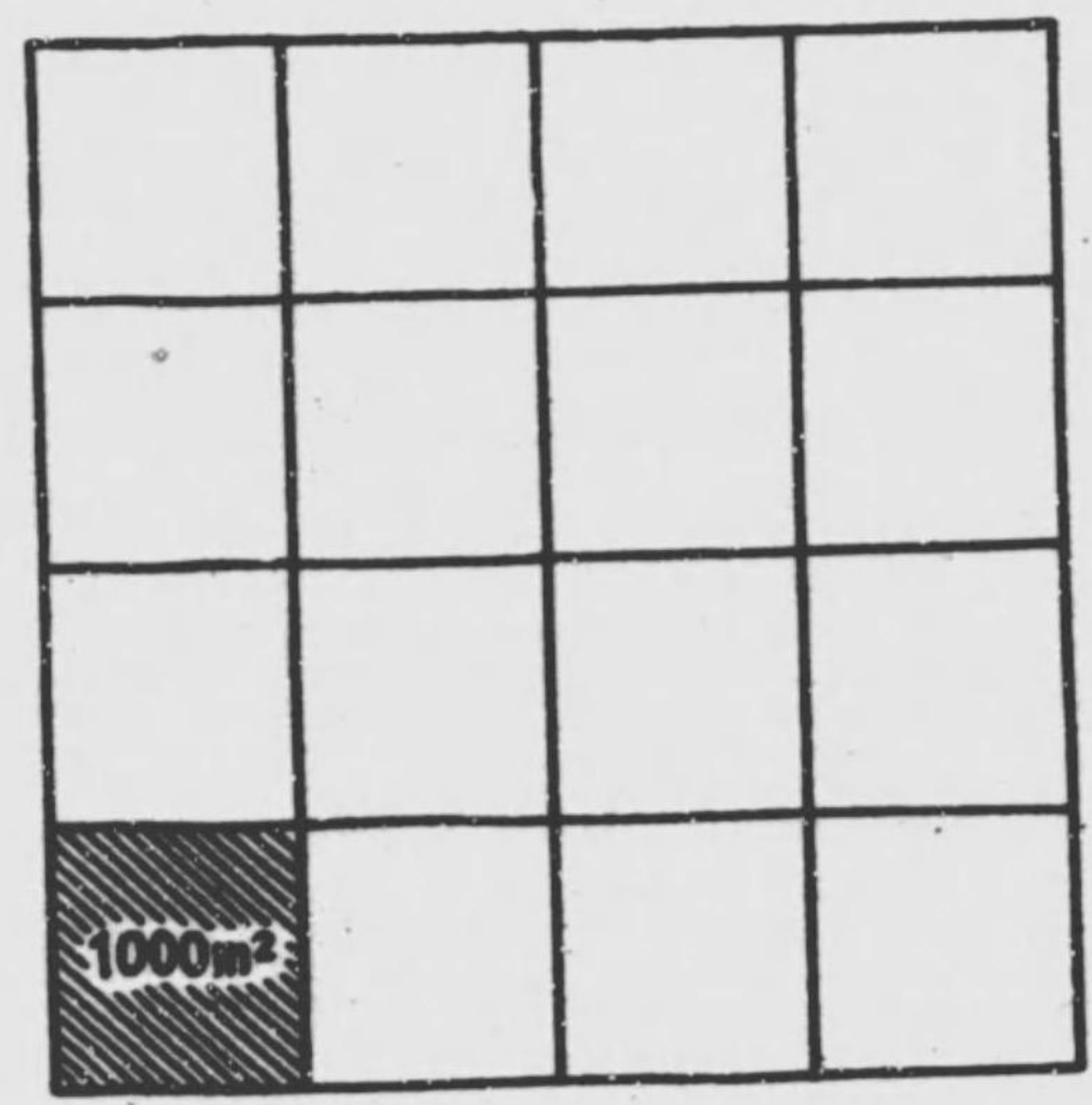
西核II
 5470 m²

II
 西核IIに同じ
 5470 m²

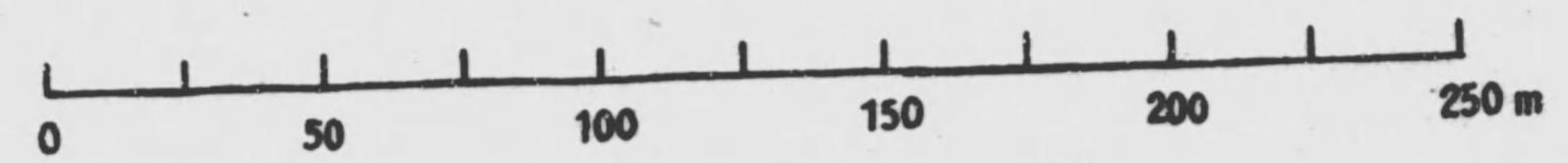
西核IIに同じ
 5470 m²

街路帯除 (I)	
塵埃運搬 (I)	$\frac{20000}{42000\text{m}^2}$

IA



M=1:25000



西VI
 事務所 (1) 660
 倉庫 (1) 400
 倉庫 (1) 600
 倉庫 (1) 400
 倉庫 (1) 370
 倉庫 (1) 400
 3200 m²

保護院 (1) 3300
 8000
 11300 m²

11310 m²

南I
 事務所 (1) 2800
 博物館 (1) 2000
 協同体立学校 (1) 8000
 便所 (1) 5
 賣店 (1) 5
 12820 m²

南IV
 事務所 (1) 330
 皮革工場 (1) 370
 質屋 (1) 330
 洋菓子店 (1) 330
 喫茶店 (1) 600
 印刷工場 (1) 330
 旅客の荷物検査場 (1) 800
 洗濯工場 (1) 400
 3490 m²

南核
 總面積: 約. 260000m²=26ha

西核IIに同じ
 5470 m²

西核IIに同じ

西核IIに同じ
 5470 m²

西核IIに同じ
 5470 m²

西核IIに同じ
 5470 m²

南

南東VI

公共施設 140 000 m²
 営業 310 340 m²
 純住宅地域 1 370 400 m²
 2 143 940 m²..... 2 143 940 m²

本来的都市地域外部に
 (緑地及私設工場を除く)



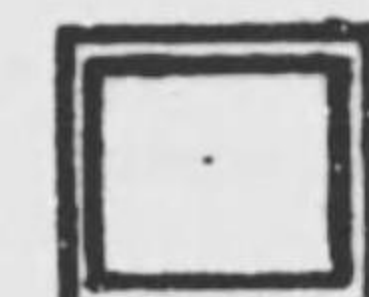

公共施設 544 100 m²
 営業 10 180 m²
 554 280 m²..... 554 280 m²

総面積..... 2 698 220 m²

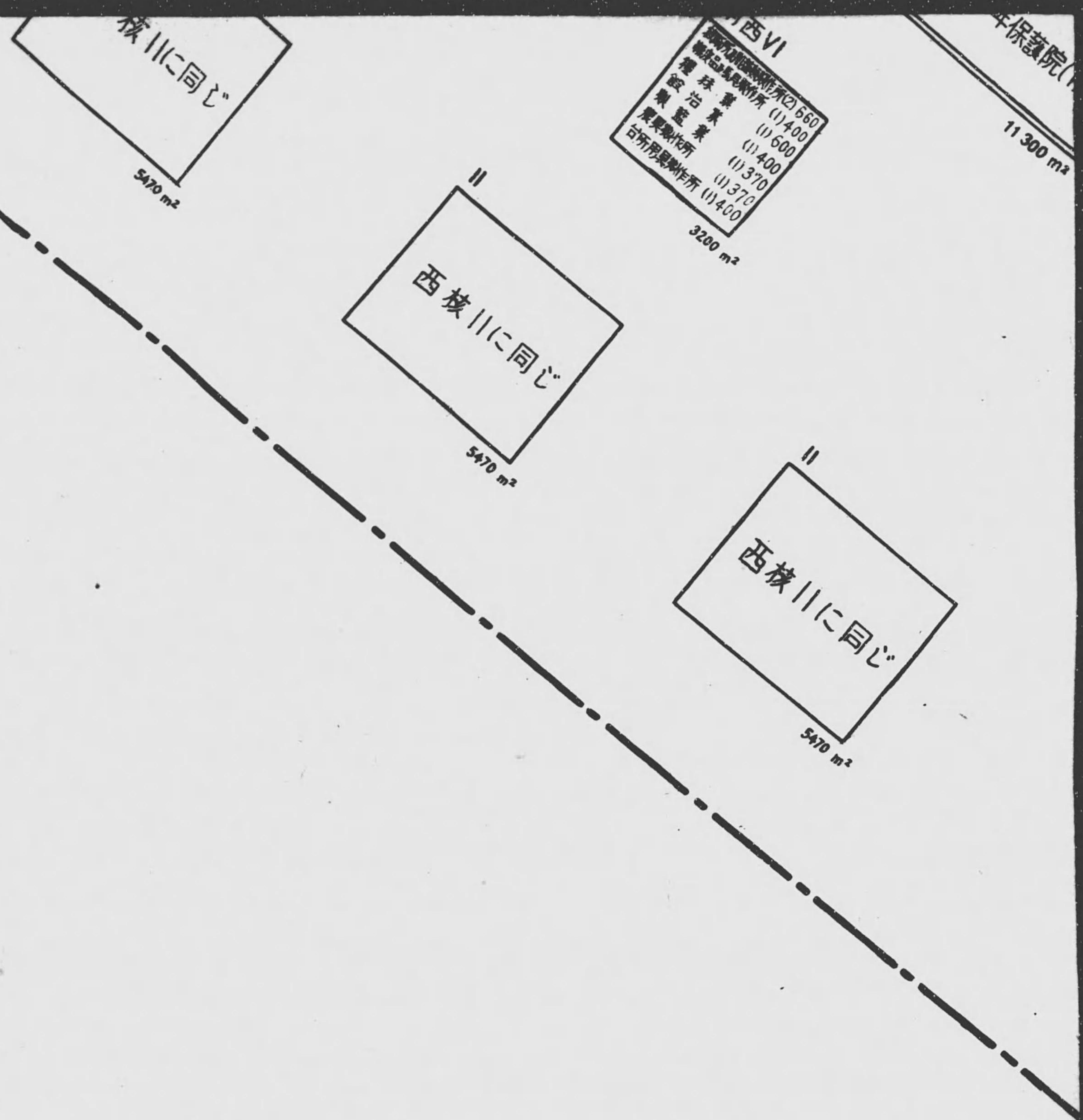
人口数: 20 000 人 = 4444 世帯 (假定
 人数一世帯當リ 4.5 人)

自給業務總数 (商舖 職場 ビューロー): 646

記號の説明

-  本来的都市地域の境界
-  上位都市核の區劃
-  公共施設に要する敷地面積
-  營業に必要な敷地面積

空いてゐる面だけが街路、緑地及純住宅地域に使用される。



號	題	實費
四三	獨佛兩國の爲替管理並資本逃避防止に關する法令	一〇三〇
四四	金本位制停止後の英國財界	一〇〇〇
四五	各國爲替管理令	一〇〇〇
四六	本邦並ニ滿蒙ニ於ケル牧羊事業開發助成ノ急務	一〇〇〇
四七	インフレーションに關する調査	一〇〇〇
四八	第一卷(英國諸産業に及ぼしたるインフレーションの影響)	一〇〇〇
四九	第四卷(インフレーション時代に於ける利益配當の方法)	一〇〇〇
五〇	第五卷(貨幣價值下落期に於ける資金調達と價格決定の方法)	一〇〇〇
五一	第六卷(假裝利益に對する課税方法)	一〇〇〇
五二	第七卷(大戦後獨逸に於けるインフレーションの概観)	一〇〇〇
五三	伊太利に於ける公衆販賣並銀行取締に關する法規	一〇〇〇
五四	支那の經濟恐慌に關する調査	一〇〇〇
五五	第四卷(支那經濟恐慌の特質)	一〇〇〇
五六	最近米國の財政政策	一〇〇〇
五七	財界前途に關する諸觀察	一〇〇〇
五八	支那經濟事情に關する調査	一〇〇〇
五九	第三卷 北支農村織物工業と商人雇入制度	一〇〇〇
六〇	(二)	一〇〇〇
六一	第四卷 支那各地農業金融狀況(一)	一〇〇〇
六二	最近獨逸の財政政策	一〇〇〇
六三	歐洲諸國に於ける産業組合政策	一〇〇〇
六四	第一卷(英獨佛伊)	一〇〇〇
六五	第二卷(埃洪チエツコ其他)	一〇〇〇
六六	各國統制經濟に關する調査	一〇〇〇
六七	第五卷 フランスの統制經濟	一〇〇〇
六八	景氣恢復と財政政策	一〇〇〇
六九	我が中南米貿易と此等諸國の爲替管理	一〇〇〇
七〇	最近ニ於ケル我國物價ノ騰貴ト其ノ主要原因	一〇〇〇
七一	支那事變の影響調査	一〇〇〇
七二	支那事變の影響調査	一〇〇〇
七三	第一卷 商取引に對する影響	一〇〇〇
七四	和蘭、白耳義兩國に於ける小賣許可制度	一〇〇〇
七五	北支經濟調査報告	一〇〇〇
七六	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
七七	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
七八	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
七九	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
八〇	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
八一	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
八二	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
八三	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
八四	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
八五	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
八六	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
八七	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
八八	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
八九	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
九〇	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
九一	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
九二	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
九三	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
九四	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
九五	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
九六	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
九七	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
九八	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
九九	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇
一〇〇	東京に於ける生活必需品供給並に配給の現状	一〇〇〇

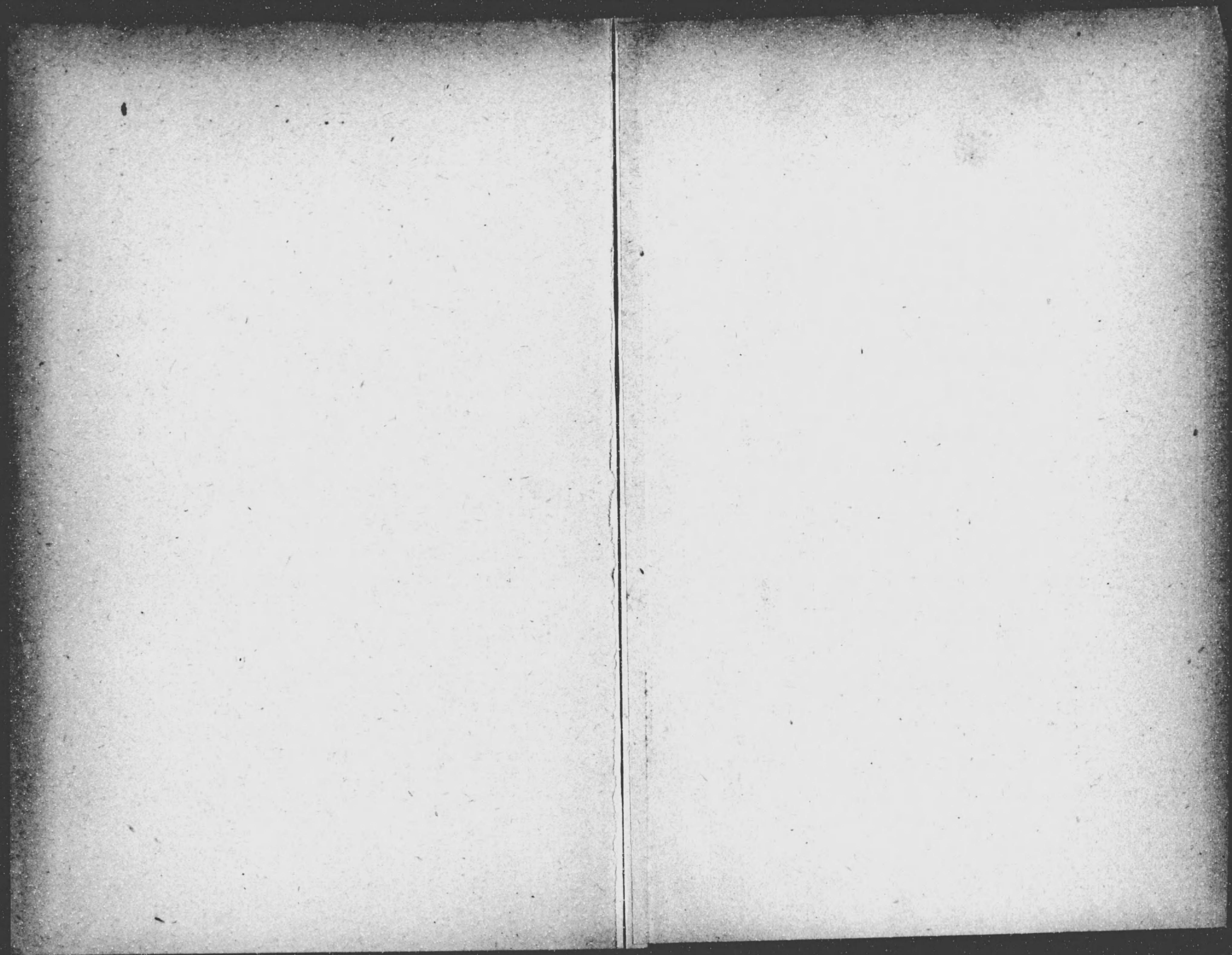
號	題	實費
二五	最近歐羅巴事情 米田實講演	一〇〇〇
二六	世界經濟叢報 第五輯	一〇〇〇
二七	支那幣制改革に關する諸問題	一〇〇〇
二八	邦品に對する海外商業會議所の意見	一〇〇〇
二九	日本財政の前途(一)	一〇〇〇
三〇	現下の農村問題(山崎達之輔講演)	一〇〇〇
三一	最近のソヴェット・ロシア(秦彦三郎講演)	一〇〇〇
三二	電力統制問題批判(木村増太郎述)	一〇〇〇
三三	司法處分を通じて見たる最近社會運動情勢	一〇〇〇
三四	最近の國際情勢に就いて(米田實講演)	一〇〇〇
三五	獨逸の統制經濟(美野部亮吉講演)	一〇〇〇
三六	林内閣増税及新稅要綱	一〇〇〇
三七	新興トルコ事情(大久保幸次郎講演)	一〇〇〇
三八	物價問題參考資料	一〇〇〇
三九	(一)物價問題に關する座談會記錄(第一回)	一〇〇〇
四〇	東京信用保證協會の概要	一〇〇〇
四一	最近の支那經濟事情に就いて	一〇〇〇
四二	時局と中小工業	一〇〇〇
四三	米穀取引並戰時消費統制問題	一〇〇〇
四四	電力國家管理案に就いて(池尾芳藏譯)	一〇〇〇
四五	貿易用語の解釋に關する國際規則(上坂西三譯)	一〇〇〇
四六	今後の我國實業教育	一〇〇〇
四七	北支經濟調査を了して	一〇〇〇
四八	東京商工會議所六十年史概要	一〇〇〇
四九	東京府公定價格一覽(一)	一〇〇〇
五〇	東京府公定價格一覽(二)	一〇〇〇
五一	東京府公定價格一覽(三)	一〇〇〇
五二	東京府公定價格一覽(四)	一〇〇〇
五三	東京府公定價格一覽(五)	一〇〇〇
五四	東京府公定價格一覽(六)	一〇〇〇
五五	東京府公定價格一覽(七)	一〇〇〇
五六	東京府公定價格一覽(八)	一〇〇〇
五七	東京府公定價格一覽(九)	一〇〇〇
五八	東京府公定價格一覽(十)	一〇〇〇
五九	東京府公定價格一覽(十一)	一〇〇〇
六〇	東京府公定價格一覽(十二)	一〇〇〇
六一	東京府公定價格一覽(十三)	一〇〇〇
六二	東京府公定價格一覽(十四)	一〇〇〇
六三	東京府公定價格一覽(十五)	一〇〇〇
六四	東京府公定價格一覽(十六)	一〇〇〇
六五	東京府公定價格一覽(十七)	一〇〇〇
六六	東京府公定價格一覽(十八)	一〇〇〇
六七	東京府公定價格一覽(十九)	一〇〇〇
六八	東京府公定價格一覽(二十)	一〇〇〇
六九	東京府公定價格一覽(二十一)	一〇〇〇
七〇	東京府公定價格一覽(二十二)	一〇〇〇
七一	東京府公定價格一覽(二十三)	一〇〇〇
七二	東京府公定價格一覽(二十四)	一〇〇〇
七三	東京府公定價格一覽(二十五)	一〇〇〇
七四	東京府公定價格一覽(二十六)	一〇〇〇
七五	東京府公定價格一覽(二十七)	一〇〇〇
七六	東京府公定價格一覽(二十八)	一〇〇〇
七七	東京府公定價格一覽(二十九)	一〇〇〇
七八	東京府公定價格一覽(三十)	一〇〇〇
七九	東京府公定價格一覽(三十一)	一〇〇〇
八〇	東京府公定價格一覽(三十二)	一〇〇〇
八一	東京府公定價格一覽(三十三)	一〇〇〇
八二	東京府公定價格一覽(三十四)	一〇〇〇
八三	東京府公定價格一覽(三十五)	一〇〇〇
八四	東京府公定價格一覽(三十六)	一〇〇〇
八五	東京府公定價格一覽(三十七)	一〇〇〇
八六	東京府公定價格一覽(三十八)	一〇〇〇
八七	東京府公定價格一覽(三十九)	一〇〇〇
八八	東京府公定價格一覽(四十)	一〇〇〇
八九	東京府公定價格一覽(四十一)	一〇〇〇
九〇	東京府公定價格一覽(四十二)	一〇〇〇
九一	東京府公定價格一覽(四十三)	一〇〇〇
九二	東京府公定價格一覽(四十四)	一〇〇〇
九三	東京府公定價格一覽(四十五)	一〇〇〇
九四	東京府公定價格一覽(四十六)	一〇〇〇
九五	東京府公定價格一覽(四十七)	一〇〇〇
九六	東京府公定價格一覽(四十八)	一〇〇〇
九七	東京府公定價格一覽(四十九)	一〇〇〇
九八	東京府公定價格一覽(五十)	一〇〇〇
九九	東京府公定價格一覽(五十一)	一〇〇〇
一〇〇	東京府公定價格一覽(五十二)	一〇〇〇

號	題	實費	★其他の刊行物
八五	支那幣制問題資料 第一卷 支那幣制問題に關する資料	非賣	The Industries of Japan (研究社) No. 2 Textiles 三 No. 3 Chemistry 二四五十錢 No. 4 Mechanics 三 No. 5 Sundrie Industry 二四五十錢 珠算能力檢定試驗標準例題集 十 機械工業講話(丸) 善 一四八十錢(送料十二錢) 電氣工業講話(丸) 善 一四五十錢(送料十二錢) 化學工業講話(丸) 善 一四八十錢(送料十二錢) 轉業指導講座(昭和圖書) 定價 一四六十錢(送料十二錢) 經濟團體總覽(富山房) 定價 二四三十錢 商工パンフレット 第一輯 如何すれば小賣商は繁榮するか 第二輯 あらゆる商賣の外交秘訣 第一輯第二輯定價十錢(送料各三錢)
八六	國民更生金庫關係法例・定款並資産評價基準	六〇	
八七	貿易業再編成ニ關スル各方面ノ意見	非賣	
八八	經濟基本方針要綱	五〇	
八九	公定並協定價格品目一覽(一) (自昭和十六年一月至同年六月)	三五	
九〇	公定並協定價格品目一覽(二) (自昭和十六年七月至同年一二月)	二〇	
九一	酒稅等ノ増徴ニ關スル資料	四〇	
九二	蘭印概観	三〇	
九三	南方經濟統計資料 第一篇 貿易統計表	非賣	
九三	所得稅等ノ増徴ニ關スル資料	非賣	
★定期刊行物			
商工經濟(月刊)四十錢	中華民國及滿洲國貿易統計表 (昭和十五年度) 一圓三錢		
東京卸賣物價月報(月刊)十錢	東京物價及貨銀統計 (昭和十六年版) 五十錢		
東京小賣物價月報(月刊)五錢			
東京勞働賃銀月報(月刊)十錢			
東京商工會議所統計年報 (昭和十六年版)(非賣品)			

昭和十七年六月二十一日印刷
昭和十七年六月二十六日發行

(實費金壹圓)

東京市麹町區丸ノ内三丁目十四番地
東京商工會議所
發行人 高瀬千波
印刷人 吉田了太
東京市王子區神谷町一丁目四八二番地
印刷所 東京印刷株式會社
東京市麹町區丸ノ内三丁目十四番地
發行所 東京商工會議所
電話丸ノ内(23) 0035 0037 0038 1070 5461 5901 5902
横濱口産東京一六七九一番



579
49

